

目 次

1. 病院理念／理念の実行方法／病院訓
 2. 平成 20 年度基本方針（品質目標）
 3. 病院沿革
 4. 施設基準一覧／取得施設認定一覧
 5. 組織図（執行役員／病院組織図／委員会組織図）
 6. 職員人事状況
 7. 各部門／部署の総括と目標
 8. 各委員会活動報告
 9. Clinical Indicator
 10. 地域連携
 11. 教育研究実績
 12. 医事統計
 13. 病院行事
 14. バレー部活動報告
- 編集後記

1. 理念
理念の実行方法
病院訓

病院の理念

「高度な医療で愛し愛される病院」

理念の実行方法

1. 地域住民地域医療機関と密着した医療
2. 連携組織による 24 時間救急体制の実施
3. 何人も平等に医療を受けられる病院
4. 医療人としての自覚と技術向上のための教育
5. 最新鋭医療器械導入による高度な医療
6. 予防医学の推進に向けた健診業務

病院訓

1. 奉仕の気持ちに徹しましょう
2. 感謝の気持ちを表しましょう
3. 待つ身になって処理しましょう
4. 仕事と私生活に責任を持ちましょう
5. 服装はいつも正しく清潔に
6. いつも笑顔で助け合いましょう

2. 平成 20 年度基本方針 (品質目標)

平成20年度基本方針

「安全かつ最良の医療と質の高い患者サービスの提供」

1. 患者中心の医療の実践

接遇の向上、外来予約制診察の見直し、療養環境の整備

2. 救急医療体制の充実

救急受け入れ体制の整備、休日夜間の診療体制の見直し
救急ICUの特定集中治療室への基準適合

3. 医療の質向上と患者安全確保

医療安全・感染対策の徹底、看護研修センターの開設、
放射線治療部門の創設

4. 情報の共有化と業務の効率化

電子カルテの推進、医療画像ネットワークシステムの構築
自動支払いシステムの導入

5. 医療提供体制の再構築

B館建築基本計画の確定、上尾甦生病院との融合と機能分化

6. 人材育成と健全経営

マネージメントパスの確立、年間収益6億円の達成

平成20年1月1日

院長 中村康彦

院長代理 徳永英吉

3. 病院沿革

年月	事柄
昭和39年12月	埼玉県柏座の上尾市立病院を引き継ぎ開設 病床数11床
昭和40年4月	第一期鉄筋工事完成 病床数44床
昭和40年8月	増床 病床数55床
昭和40年8月	救急指定(1次)病院の認可(S40.8.13)
昭和41年1月	(医)社団米寿会上尾中央病院に組織変更
昭和41年8月	木造病棟完成 病床数86床
昭和41年9月	看護婦寮「くたかけ寮」完成
昭和42年11月	第二期鉄筋工事完成 病床数130床
昭和45年9月	第三期増築完成 病床数170床
昭和46年7月	総合病院の認可
昭和48年11月	第四期工事完成 病床数190床
昭和49年4月	看護婦「清心寮」完成
昭和49年4月	人間ドック開始
昭和51年9月	人工腎臓センター設立 透析装置9床
昭和52年1月	労災指定医療機関の認定(S52.1.1)
昭和53年5月	第五期新館工事完成 透析装置17台 病床数309床
昭和54年4月	第六期増築工事完成
昭和54年4月	上尾中央看護専門学校開校
昭和55年4月	全身用CTスキャナー導入(CT室開設)
昭和55年6月	増床 病床数316床
昭和55年8月	上尾中央総合病院附属院内保育所つばさ保育園開設
昭和55年12月	第七期増築工事完成 病床数384床
昭和56年3月	くたかけ寮改築工事完成
昭和56年10月	増床 病床数385床
昭和57年1月	増床 病床数392床
昭和57年2月	増床 病床数404床
昭和57年9月	(医)社団愛友会に称号変更
昭和57年9月	医事コンピュータ導入

年月	事柄
昭和58年2月	運動療法施設基準許可
昭和58年3月	増床 病床数406床
昭和58年12月	基準看護特一類認可
昭和60年11月	第八期(本部ビル)工事完成
昭和61年3月	秀麗寮(女子寮)完成
昭和61年4月	増床 病床数414床
昭和61年12月	秀愛寮(男子寮)完成
昭和62年3月	増床 病床数453床
昭和62年6月	増床 病床数465床
昭和62年6月	ICU・CCUスタート
昭和62年10月	基準看護特二類認可
昭和63年8月	中村秀夫会長フィリピン2大学で名誉教授に
平成元年2月	アメリカ サターヘルスグループと姉妹病院締結
平成元年11月	MRI・シネアンギオ室開設 MRI1・5T・心臓血管撮影装置導入
平成2年7月	体外圧電式衝撃波結石破碎装置導入
平成3年2月	韓国大同病院と姉妹病院締結
平成6年6月	エイトナイン内科クリニック開設
平成7年3月	上尾中央訪問看護ステーション開設
平成7年7月	リハビリテーション総合承認施設認可
平成7年9月	第九期工事完成 病床数513床
平成7年9月	MRI(signal・1.0) CT(iemage supreme) DR・X-TV導入
平成9年10月	人工内耳埋込術施設基準承認
平成9年10月	訪問看護ステーションゆーらっふ開設
平成10年4月	厚生省臨床研修病院承認
平成10年6月	医療機能評価認定(Ver. 2)
平成11年2月	コンピューターオーダーリングシステム導入
平成11年8月	居宅介護支援事業所開設
平成13年4月	第十期工事完成 病床数753床

年月	事柄
平成13年4月	中村康彦院長就任
平成14年4月	救急指定(2次)病院の認可(H14.4.1)
平成14年11月	中村秀夫会長勲三等瑞宝賞受賞
平成15年12月	医療機能評価認定更新(Ver. 4)
平成17年12月	ISO9001:2000認証取得
平成18年4月	コンピューターオーダーリングシステム更改
平成18年4月	DPC対象病院
平成18年4月	上尾市上尾西地域包括支援センター開設
平成19年1月	プライバシーマーク取得
平成19年7月	7:1看護基準取得
平成19年12月	全診療科(小児科・歯科口腔外科のぞく)予約診療開始
平成20年2月	医療機能評価認定更新(Ver. 5)
平成20年2月	自動精算機導入
平成20年3月	看護研修センター開設
平成20年7月	フィルムレスシステム(PACS)導入
平成20年8月	特定集中治療室が救急ICU(8床)を加え17床に増床
平成20年10月	外来予約センター開設
平成20年12月	ISO9001:2000認証更新
平成21年1月	中村康彦理事長就任
平成21年1月	プライバシーマーク更新

4. 施設基準・取得施設 認定一覧

平成20年度施設施設基準一覧

【施設基準】

基本診療料の施設基準

臨床研修病院入院診療加算
一般病棟入院基本料 7 対 1
特定集中治療室管理料
回復期リハビリテーション病棟入院料 I
小児入院医療管理料 2
救急医療管理加算・乳幼児救急管理加算
妊産婦緊急搬送入院加算
ハイリスク分娩管理加算
ハイリスク妊娠管理加算
超急性期脳卒中加算
褥瘡患者管理加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
医療安全対策加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
退院調整加算
後期高齢者退院調整加算
栄養管理実施加算
診療録管理体制加算
歯科外来診療環境体制加算
後期高齢者総合評価加算

先進医療に関する届出

超音波骨折治療法

その他届出

入院時食事療養 (I)
選定療養費 (2,000円)
長期入院に係る選定療養費
薬価基準に掲載されている医薬品の薬事法に基づく承認に係る用法等と異なる用法等に係る投与の実施における評価療養費

特掲診療料の施設基準

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
運動器リハビリテーション (I)
呼吸器リハビリテーション (I)
脳血管疾患リハビリテーション (I)
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
集団コミュニケーション療法料
言語聴覚療法
地域連携診療計画管理料
地域連携診療計画退院時指導料
医療機器安全管理料 I
外来化学療法加算 I
画像診断管理料 II
冠動脈CT撮影加算
心臓MR I 撮影加算
単純CT撮影及び単純MR I
特殊CT撮影及び特殊MR I
遠隔画像診断
無菌製剤処理料
薬剤管理指導料
検体検査管理加算 (I)
検体検査管理加算 (III)
血液細胞核酸増幅同定検査
コンタクトレンズ検査料 I
神経学的検査
歯科疾患総合指導料
歯科治療総合利用管理料
糖尿病合併症管理料
麻酔管理料
経皮的中心筋焼灼術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
頭蓋骨形成手術 (骨異動を伴うものに限る)
埋込型除細動器移植術及び埋込型除細動器交換術
体外衝撃波胆石破砕術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
大動脈バルーンパンピング法 (IABP)
ペースメーカー移植術・交換術
人工内耳埋込術
補綴物維持管理料
輸血管管理料 I

認定施設一覧

- 厚生労働省管理型臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 労働衛生サービス機能評価機構認定機関
- 人間ドック・健診施設機能評価認定施設
- ISO9001：2000 認証施設
- プライバシーマーク付与認定施設
- 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本腎臓学会専門医制度研修施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本形成外科学会教育関連施設
- 日本麻酔科学会麻酔指導病院
- 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- 日本核医学会専門医教育病院
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
- 日本老年医学会認定施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本神経学会専門医制度教育関連施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 三学会構成心臓血管外科専門医認定機基幹施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設

- 日本静脈経腸栄養学会栄養サポート専門療法士認定規則
実地修練認定教育施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定
- 日本集中治療医学会専門医研修施設
- 日本緩和医療学会認定研修施設

5. 組織図
(執行役員)
(病院組織図)
(委員会組織図)

平成 20 年度 上尾中央総合病院 執行役員一覧

CEO (Chief Executive Officer) 最高経営責任者

中村 康彦 (院長兼任)

COO (Chief Operating Officer) 最高執行責任者

徳永 英吉 (院長代理兼任)

Co-COO 共同執行責任者

上野 聡一郎 (副院長兼任)

齋藤 雅彦 (事務部長兼任)

工藤 潤 (看護部長兼任)

CFO (Chief Financial Officer) 最高財務責任者

齋藤 雅彦 (事務部長兼任)

Co-CFO 共同財務責任者

福田 精一 (事務副部長兼任)

大塚 武司 (事務副部長兼任)

塩沢 昭彦 (事務次長兼任)

落合堂 正彦 (事務次長兼任)

CRO (Chief Risk Officer) 最高リスク管理責任者

徳永 英吉 (院長代理兼任)

Co-CRO 共同リスク管理責任者

齋藤 雅彦 (事務部長兼任)

工藤 潤 (看護部長兼任)

CPD (Chief Privacy Officer) 最高プライバシー保護責任者

徳永 英吉 (院長代理兼任)

CNO (Chief Nursing Officer) 最高看護責任者

工藤 潤 (看護部長兼任)

Co-CNO 共同看護責任者

風間 よう子 (副看護部長兼任)

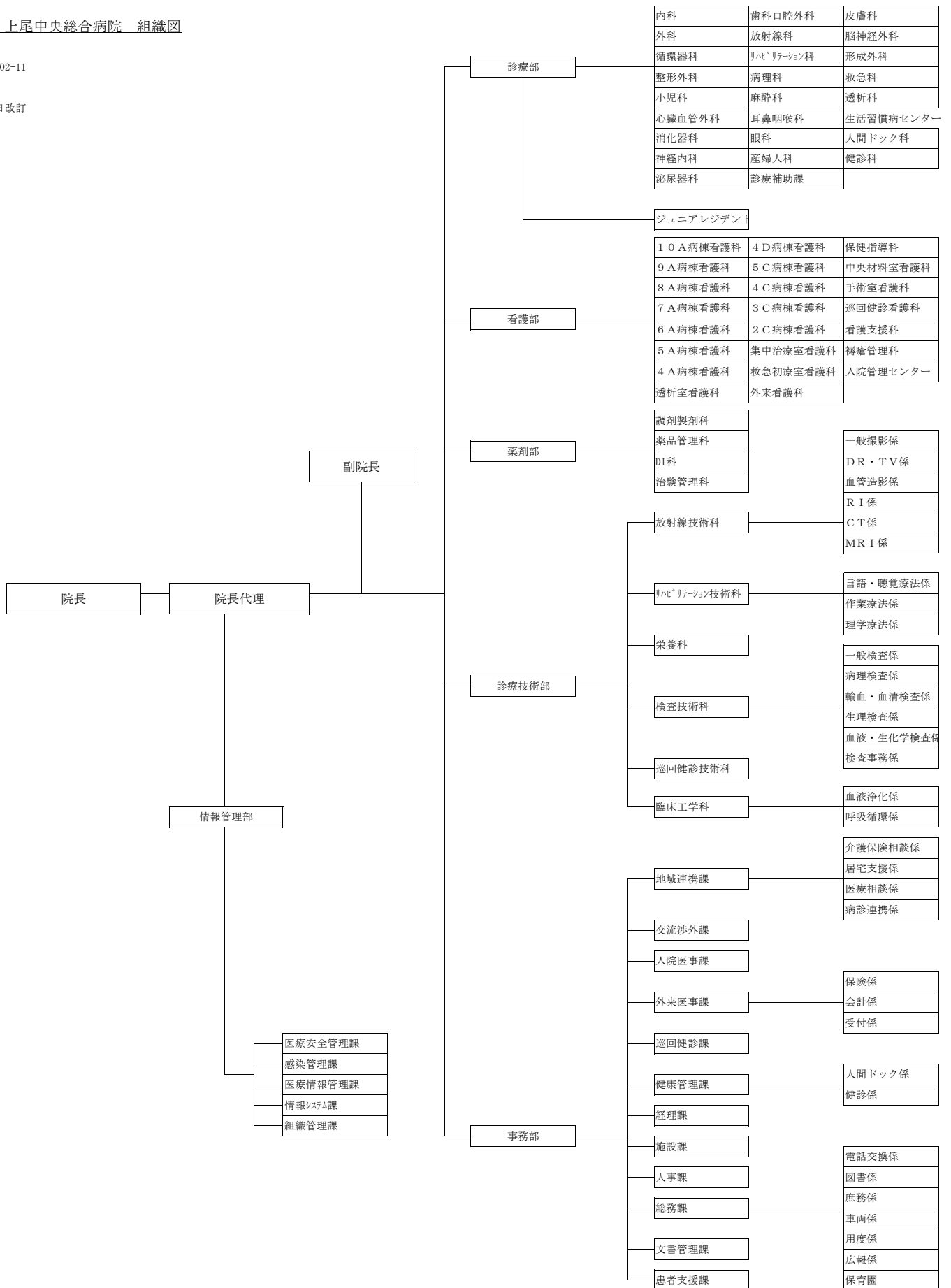
木村 友江 (副看護部長兼任)

平成 20 年 11 月 21 日現在

2008年度 上尾中央総合病院 組織図

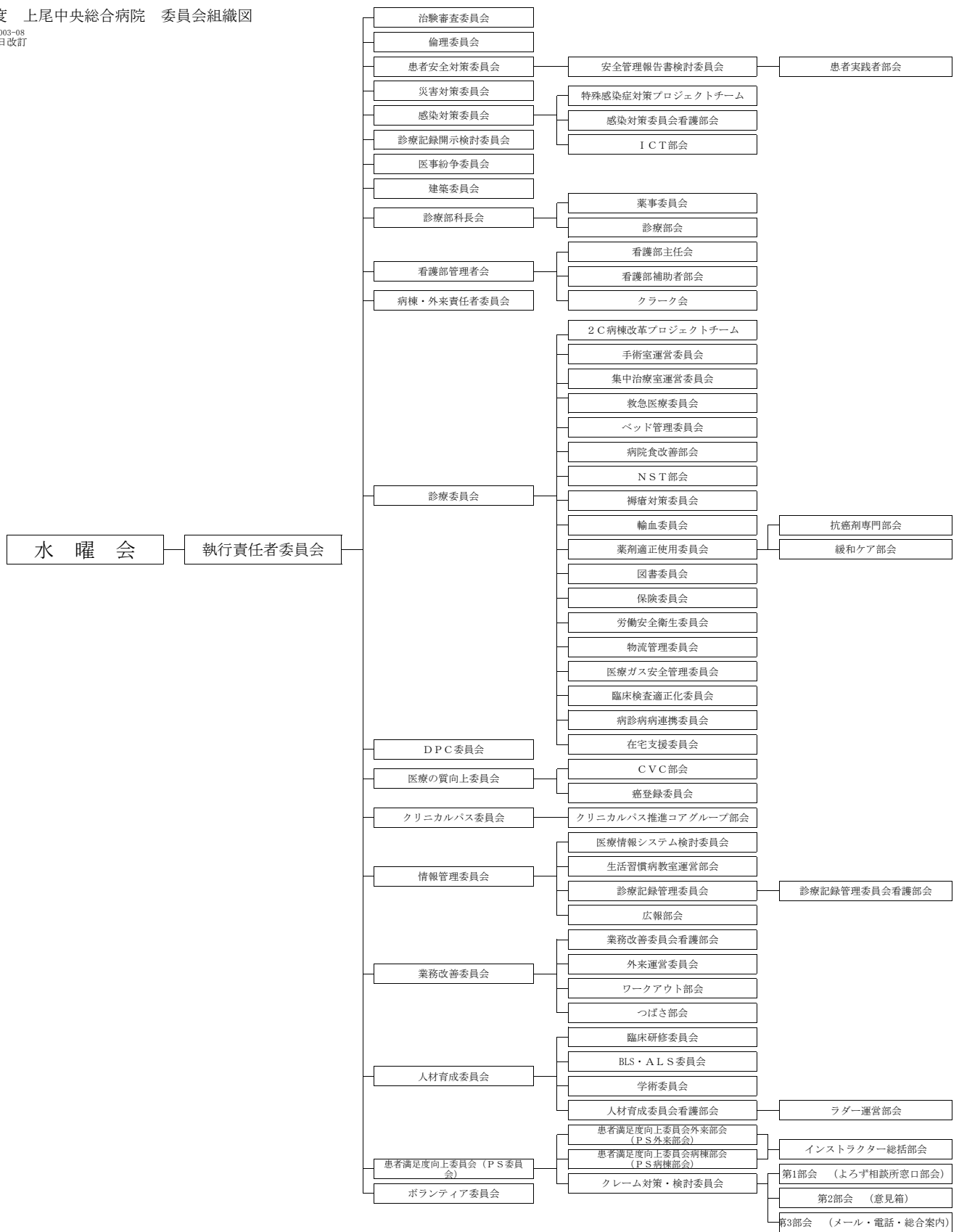
文書番号：QM002-11

2008年 7月 9日改訂



2008年度 上尾中央総合病院 委員会組織図

文書番号：QM003-08
2008年7月9日改訂



6. 職員人事狀況

非公開

7. 各部門／部署の 総括と目標

診療部

内科 センター長 橋本佳明

センター長

橋本佳明

科長

井上富夫

副科長

藤澤和彦

医長

高雄泰行 泉福恭敬

医員

魚住信泰 反町千里 瀧 雅成 岡田光正

竹中英樹 高尾康介 山岡利守

レジデント

菅原俊勝 松本壮一

入職医

山岡利守（平成 20 年 5 月 1 日）

異動医

岡田光正（平成 20 年 11 月 1 日）

1. 専門医・認定医

橋本佳明：認定内科医、糖尿病専門医、
糖尿病研修指導医、人間ドック認定医
医師会認定産業医、臨床検査専門医
認定臨床科学者

井上富夫：認定内科医、人間ドック認定医
消化器病学会認定医、医師会認定産業医
消化器病検診学会認定医
人間ドック健診情報管理指導士

藤澤和彦：内科専門医、循環器専門医、糖尿病専門医

泉福恭敬：認定内科医

魚住信泰：旅行医学会認定医

瀧雅成：認定内科医

岡田光正：認定内科医

高尾康介：認定内科医、消化器病学会認定医

2. 科の特色

常勤医 13 名（専門分野：糖尿病、脂質異常症、血液疾患、腎臓病、透析）と非常勤医 7 名（外来のみ）で、循環器、消化器、神経内科疾患以外の内科疾患を診療している。近隣の診療所や病院、大学病院と様々な連携をとりながら、患者様の立場に立った医療を実践していきたいと考えている。

3. 平成 20 年度の実績

（診療実績）

1 ヶ月の平均新入院数は 99 名、救急車受入件数は 83 件、紹介患者数は 45 名、入院のべ患者数は 3,282 名、外来のべ患者数は 7,538 名であった。外来患者では高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病が最も多く、入院患者で最も多かったのが肺炎であった。

（学術業績）

生活習慣と疾病との関係については多くの研究があるがまだまだ不明な点も少なくない。今年度の研究で得られた新しい知見は

- 1) 飲酒をしてもγGTP が上昇しにくい人は糖尿病発症率が低い
- 2) 喫煙本数が多い人ほど花粉症が少ない
ということであった。

（社会貢献）

1. 生活習慣病教室の開催：眼科、看護部、診療技術部、薬剤部と共同で、（月）から（金）の 15：00～16：00 に開催している。外来・入院患者に限らず誰でも参加可能である。
2. 市民公開講座の開催：上尾市医師会と当院の共催で今年度は 3 月 14 日に開催した。テーマは“がんの予防と治療”であった。

4. 平成 21 年度の目標

1. 患者サービスの推進：外来開始時間の厳守、外来診療待ち時間の短縮にさらなる努力をする。
2. 医療の質の向上：内科カンファレンスでの患者診療に関する活発な議論、学会参加および参加後の伝達講習などを通して医療の質を向上させる。

外科 科長 宮内邦浩

1. 人事状況（平成20年度）

常勤医

副院長

上野聡一郎

診療顧問

金平永二

科長

宮内邦浩

副科長

中熊尊士

医員

浦島太郎、栗田淳、塩澤邦久、飯塚美香、
岩崎賢太郎（H20. 6. 1～）、中島紀夫（～H20. 5. 31）
荒牧直（後期臨床研修医）

入職医

岩崎賢太郎（平成20年6月1日）

退職医

中島紀夫（平成20年5月31日）

非常勤医

小中千守、仙石紀彦、宇井浩太郎

2. 専門医・認定医

日本外科学会 指導医

上野聡一郎、宮内邦浩、中熊尊士

日本外科学会 外科専門医

上野聡一郎、金平永二、宮内邦浩、中熊尊士
栗田淳、塩澤邦久、飯塚美香

日本消化器外科学会 消化器外科専門医

上野聡一郎、金平永二、宮内邦浩、塩澤邦久

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

上野聡一郎、金平永二

日本消化器外科学会 認定医

中熊尊士

日本消化器内視鏡学会 指導医

金平永二

日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医

上野聡一郎、宮内邦浩、中熊尊士、塩澤邦久

日本消化器病学会 消化器病専門医

上野聡一郎、中熊尊士、塩澤邦久

日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医

岩崎 賢太郎

日本救急医学会 救急科専門医

宮内邦浩

日本内視鏡外科学会 技術認定医

金平永二

日本乳癌学会 認定医

上野聡一郎、中熊尊士、飯塚美香

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

塩澤邦久

マンモグラフィー検診精度管理中央委員会

マンモグラフィー読影認定医

上野聡一郎、塩澤邦久

ICD制度協議会

インфекションコントロールドクター

上野聡一郎

3. 科の特色

地域の基幹病院として、また、救急病院として24時間、休日深夜にも対応できる体制となっております。

専門領域としては消化器、肝胆膵、胸部外科、乳腺外科などの領域を扱っており、急性疾患や外傷にも力を入れております。年間約850件手術を行っております。

4. 平成20年度の実績

年間手術数 862件（内、緊急手術351件）

内訳（小児・外傷は重複を含む）

消化器および腹部内臓	717件
乳腺	45件
呼吸器	38件
小児	68件
外傷	12件

5. 平成21年度の目標

1. 5大癌診療体制の確立
2. 救急医療充実への参画
3. 地域医療機関との連携体制の強化
4. 良質な医療人の育成

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医（専門）

科長

大塚一寛（スポーツ・膝・股関節）

副科長

海田長計（スポーツ・股関節）

医長

鳥濱智明（手・末梢神経）、佐々木剛（脊椎）

医員

福永秀（関節リウマチ）、岩井俊也（外傷・骨折）

入職医

松井健太郎，西原信博（平成 20 年 4 月 1 日）

異動医

志保井柳太郎，安井洋一（平成 20 年 3 月 31 日）

非常勤医

中村茂（小児・股関節），阿部哲士（骨軟部腫瘍）

伊藤正明（肩関節）

2. 専門医・認定医

日本整形外科学会認定専門医

日本整形外科学会認定スポーツ医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

インフェクションコントロールドクター

3. 科の特色

当科は様々な急性外傷（骨折，脱臼，筋腱損傷など）の治療に 24 時間体制で最新の医療技術を応用し，かつ適切な初期治療を施せる体制を整えております。また，患者様の Quality of life（生活の本質）の向上に少しでもお役に立つことを目指し，さらに専門的領域においてより満足していただけるものと考えております。

4. 平成 20 年度の実績

手術件数は 763 件（昨年度 746 件）でした。紹介患者数の増加に伴い，人工股関節や脊椎手術および肩関節・足関節の鏡視下手術が増加しました。大腿骨頸部骨折で手術を受けられる方の年齢は年々高齢化してきており，リスクの高い手術が増加しました。

平成 20 年度手術		件数
人工関節置換術	股関節	36
	膝関節	24
	肩・肘・指関節	2
膝関節鏡手術	靭帯再建術	11
	半月板手術	42
	膝蓋骨形成術	6
股関節・大腿骨	人工骨頭手術	22
	観血的整復内固定術	75
	固定術	
脊椎手術	頸椎	26
	胸椎・腰椎	30
手関節・手指・前腕	観血的整復内固定術	77
	創外固定	5
	末梢神経	12
	植皮・瘢痕拘縮手術	6
肩関節・鎖骨・上腕骨	観血的整復内固定術	35
	関節鏡	49
	その他	8
膝関節・下腿	観血的整復内固定術	26
	その他	3
	その他	
足関節・足趾・踵骨	観血的整復内固定術	39
	アキレス腱	19
	関節鏡	34
関節リウマチ	その他	5
	関節形成術	4
	偽関節手術	5
	切断手術	5

腫瘍手術	5
デブリードマン	17
抜釘術	101
その他	7
合計	763

5. 平成 21 年度の目標

1. 手術治療の安全確保:術前の左右肢のマーキング・抗生剤問診・術後説明書記載などの徹底
2. 低侵襲な関節鏡視下手術の充実
3. 超高齢者の手術待機期間の短縮:早期離床による合併症の回避・早期社会復帰
4. 院内・院外の診療連携協力体制の充実
5. 救急・紹介患者の受入強化:救急車受入件数・紹介患者数の増加

脳神経外科 科長 矢吹明彦

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長

矢吹明彦

副科長

高橋秀和

医員

能美公二（診療顧問）

入職医

なし

退職医

なし

2. 専門医・認定医

脳神経外科専門医

矢吹明彦

高橋秀和

能美公二

3. 科の特色

急性期、慢性期にかかわらず、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、と幅広い範囲の脳疾患の手術治療を中心とした診療を行っている。

4. 平成 20 年度の実績

脳腫瘍摘出術	33 件
髄膜腫	11 件
聴神経腫瘍	2 件
経蝶形洞下垂体腫瘍摘出術	4 件
グリオーマ	4 件
転移性脳腫瘍	7 件
その他	2 件
脳血管障害	76 件
脳動脈瘤クリッピング	33 件
脳動脈瘤コイルリング	14 件
頸動脈内膜剥離術	9 件
EC-IC バイパス術	3 件
開頭血腫除去	17 件
頭部外傷	69 件
開頭血腫除去	8 件
穿頭血腫除去	61 件
水頭症手術	31 件
その他	35 件
総手術件数	250 件

5. 平成 21 年度の目標

1. 放射線治療導入による更なる治療戦略の多角化
2. CAS 導入による血管内治療の更なる充実
3. 他科、他病院との連携の強化

形成外・美容外科 科長 石黒匡史

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長 石黒匡史

医員

松尾あおい

吉竹俊裕

入職医

なし

退職医

吉竹俊裕（平成 21 年 3 月 31 日）

非常勤医

森晃子

2. 専門医・認定医

形成外科専門医

石黒匡史、

松尾あおい

森晃子

3. 科の特色

外傷・皮膚軟部組織腫瘍・難治性皮膚潰瘍・再建外科・先天性奇形などの形成外科一般疾患・美容外科・レーザー治療等幅広く対応。

4. 平成 20 年度の実績

レーザー治療 334 件

総手術数 667 件

全身麻酔手術 155 件

入院局所麻酔手術 58 件

外来局所麻酔手術 454 件

（内訳）

熱傷 4 件

顔面外傷 33 件

手足の外傷・先天奇形 27 件

その他先天異常 9 件

良性腫瘍 435 件

悪性腫瘍と再建手術 37 件

瘢痕拘縮等 26 件

褥瘡・難治性皮膚潰瘍 35 件

美容外科 7 件

その他 54 件

5. 平成 21 年度の目標

1. 長期入院患者の減少

2. 病診連携の強化

3. 他科との連携の強化

4. 学会発表の強化

耳鼻咽喉科 科長 大崎政海

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長 大崎政海

医長 肥田修

医員 原睦子、肥田和恵、根本英樹、
林裕史、木下慎吾

入職医

なし

退職医

林裕史（平成 21 年 3 月 31 日）

2. 専門医・認定医

耳鼻咽喉科専門医

肥田修、原睦子、肥田和恵、林裕史

形成外科専門医

大崎政海

3. 科の特色

耳鼻咽喉科、頭頸科領域の幅広い疾患に対応している。
北は群馬県から、南はさいたま市までの患者さまのご紹介をいただいている。

紹介患者数は月 120 件前後である。

4. 平成 20 年度の実績

耳科領域 72 件（内、悪性腫瘍 1 件）

鼻科領域 209 件（内、悪性腫瘍 6 件）

口腔・上中咽頭領域 143 件（内、悪性腫瘍 8 件）

喉頭・気管・下咽頭領域 83 件（内、悪性腫瘍 11 件）

顔面・頸部等領域 98 件（内、悪性腫瘍 34 件）

総手術件数 605 件

5. 平成 21 年度の目標

1. 放射線治療導入による治療戦略の多角化
2. NBI 導入による早期癌の発見率の向上
3. 他科との連携の強化
4. 学会発表の強化

眼科 副科長 小池智明

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

副科長 小池智明

医員 高草木伸子

清水真理

徳倉美智子（平成 21 年 2 月より産休中）

入職医

なし

退職医

なし

非常勤医

飯田教授（福島医大）

石川佳世子

2. 専門医・認定医

眼科専門医

小池智明

高草木伸子

石川佳世子

3. 科の特色

網膜硝子体疾患から緑内障・白内障など眼科一般疾患に対応する。

上尾市中心にさいたま市、桶川市、北本市などの近隣からの紹介がある。

4. 平成 20 年度の実績

総手術件数 484 件

（内訳）

白内障手術（眼内レンズ二次挿入含む） 416 件

硝子体手術 45 件

網膜復位術 8 件

その他 15 件

5. 平成 21 年度の目標

1. 多焦点眼内レンズの導入

2. 病診連携の強化

3. 他科との連携の強化

4. 学会発表の強化

産婦人科 科長 古川隆正

1. 人事状況（平成20年度）

常勤医

科長 古川隆正

医員 中上弘茂、竹田奈保子、福田雄介

入職医

福田雄介（平成20年8月1日）

退職医

太田邦明（平成20年7月31日）

非常勤医

齊藤一、飯野好明、青木千津、
福田麻実、後藤真千子、田口誠
辻井孝、吉田義弘、谷口智子

2. 専門医・認定医

古川隆正	産婦人科専門医
中上弘茂	産婦人科専門医
竹田奈保子	産婦人科専門医
福田雄介	産婦人科専門医

3. 科の特色

産科：ハイリスクな症例は管理が困難な場合もありますが、内科医などとの連携や小児科医とのカンファレンスを行いながら可能な範囲で合併症妊婦の診療も行っております。

当院助産師によるふぁみりーくらす（母親学級）、マタニティヨガ、助産師外来もあり、立ち会い分娩やカンガルケアも取り入れております。

婦人科：良性疾患の手術は、専門医が不在のため内視鏡手術は行っておりませんが、内視鏡の適応外の症例や腔式手術を中心に施行しております。悪性疾患は、周辺の専門施設への紹介を希望される方もおりますが、当院でも初期病変を中心に標準的な手術、化学療法等を行っております。終末期の症例でも、ご家族と十分ご相談の上、在宅での管理を行う場合もあります。

外来：当院では産婦人科の一般的な疾患に幅広く対応することを心掛けております。不妊、更年期、腫瘍などを専門としている外来担当医もおりますので、対応は可能です。

4. 平成20年度の実績

分娩数：547件（帝王切開：118件）

婦人科手術：208件

- ・腹式単純子宮全摘術（子宮筋腫など）：65件
- ・子宮筋腫核出術：13件
- ・腔式子宮全摘術（子宮脱、子宮筋腫など）：29件
- ・子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌、子宮体癌）：5件
- ・子宮付属器悪性腫瘍手術（卵巣癌など）：10件
- ・子宮付属器腫瘍摘出術（卵巣嚢腫など）：38件
- ・その他（子宮外妊娠、バルトリン腺嚢腫、
シュロッカー手術、腔壁形成術など）

5. 平成21年度の目標

上尾市を中心とした地域の地域医療に貢献できることを目標にしています。

1. 分娩数の増加
2. 手術数の増加

消化器科 科長 西川稿

1. 人事状況 (平成 20 年度)

常勤医

科長 西川稿

副科長 土屋昭彦

医長 松下功
丸茂達之
笹本貴広

医員 広瀬孝康
渡邊東
明石雅博
川上知孝
三神昌樹
吉川衆陽

シニアレジデント：江川優子

入職医

なし

退職医

山本龍一 (平成 21 年 3 月 31 日)

2. 専門医・認定医

日本消化器病学会 関東支部会評議員

西川稿

日本消化器病学会 指導医

西川稿 土屋昭彦

日本消化器病学会 専門医

西川稿 土屋昭彦 松下功 丸茂達之
笹本貴広 川上知孝 三神昌樹

日本消化器内視鏡学会 関東支部会評議員

西川稿

日本消化器内視鏡学会 指導医

西川稿

日本消化器内視鏡学会 専門医

西川稿 土屋昭彦 松下功
丸茂達之 笹本貴広 川上知孝

日本肝臓学会 東部会評議員

西川稿

日本肝臓学会 指導医

西川稿

日本肝臓学会 専門医

西川稿 丸茂達之 笹本貴広

3. 科の特色

消化器科では、内視鏡を使用した胃や大腸のポリープ切除や早期癌切除に対するESD(内視鏡下粘膜剥離術)をはじめ、ERCP(内視鏡下逆行性膵胆管造影)下のEST(乳頭切開術)、EPBD(乳頭拡張術)による総胆管結石排石術、閉塞性黄疸に対してのステント留置術、肝細胞癌に対する超音波ガイド下のラジオ波焼灼術、腹部血管造影による肝動脈塞栓術など専門技術を用いて、切らないで治すという侵襲の少ない医療を目指しています。

日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会指導施設と教育面でも充実した体制となっています。

また、埼玉県で10病院が指定された、肝疾患診療連携拠点病院の一つとして慢性肝炎治療、肝細胞癌治療を地域の中心病院として取り組んでいます。

4. 平成 20 年度の実績

平成 20 年 10 月 25 日 1 年半の準備期間のもと「日本消化器病学会関東支部市民公開講座」を上尾市文化センターで開催。参加約 400 名。

主な学会発表

日本消化器内視鏡学会 総会 4 演題

日本消化器内視鏡学会 関東地方会 2 演題

日本消化器内視鏡学会 埼玉部会 3 演題

日本消化器病学会 関東支部例会 5 演題

日本肝臓学会 大会 1 演題

日本肝臓学会 東部会 3 演題(パネディスカッション 1 演題)

日本胆道学会 3 演題

日本消化器画像研究会 1 演題

腹部エコー研究会 1 演題

埼玉県肝がんセミナー 講演

その他、研究会発表、講演、学会座長など。

平成 20 年度入院者数 1,605 名

内視鏡件数(平成 20 年度)

上部消化管内視鏡検査 6,096 件

止血術 60 件

ESD、EMR、ポリープ切除 27 件

下部消化管内視鏡検査 2,137 件

ESD、EMR、ポリープ切除 375 件

ERCP 216 件

5. 平成 21 年度の目標

地域の中心病院として患者さん中心の医療を担う。

診療だけでは終わらず、その積み重ねから何か新しいことを見だし、発信していく。

消化器科はもとより上尾中央総合病院および地域医療のレベルアップをはたす。

1. 診療の充実
2. 業績のアップ
3. 学会発表

麻酔科 科長 藤岡丞

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長

藤岡丞（手術室長）

副科長

平田一雄

医長

江口広毅（ICU 室長）

医員

田村有

シニアレジデント

高橋英輔

入職医

なし

退職医

なし

非常勤医

松本玲子

松澤康子

帝京大学麻酔科派遣医

2. 専門医・認定医（平成 21 年 3 月時点）

藤岡丞：麻酔科学会指導医、医学博士

平田一雄：麻酔科学会指導医

江口広毅：麻酔科学会専門医

田村有：麻酔科学会認定医

3. 科の特色

安全で質の高い周術期管理を目標としている。

術中の安全は当然であるが、術前の不安を軽減し、術後の痛みや吐き気を防ぐ工夫をしている。

また術者やコメディカルとのコミュニケーションを重視し、手術室の MC 役として活発に活動している。

4. 平成 20 年度の実績

平成 20 年 1-12 月の麻酔管理症例数は 3,367 件で、心臓外科 106 件など幅広い症例が含まれた。緊急手術にも

365 日 24 時間対応を行った。

5. 平成 21 年度の目標

平成 21 年度も質の高い周術期管理を目指し、特に術後回診の充実を目標としたい。

泌尿器科 科長 佐藤聡

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長

佐藤聡

医員

小川一栄

入職医

なし

退職医

なし

非常勤医

友政宏、渋谷美智子、岩沢俊久、川本秀樹

2. 専門医・認定医

日本泌尿器科学会専門医・指導医、
日本癌治療医認定医機構暫定教育医

3. 科の特色

地域の基幹病院として泌尿器科疾患全般に対応可能。特に尿路悪性腫瘍の手術件数は県下有数でありハイリスク症例にも対応している。尿路結石治療も同様。泌尿器科緊急疾患に対しては 24 時間対応している。排尿障害などの QOL 疾患も診療。

4. 平成 20 年度の実績

総手術件数	564 件
（内訳）	
前立腺生検	208 件
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）	71 件
経尿道的尿管結石摘出 （透視下にバスケットワイヤーカテーテル使用）	61 件
TUR-P	49 件
前立腺全摘出	32 件
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	24 件
その他	119 件

5. 平成 21 年度の目標

地域の基幹病院として、紹介率の上昇・病診連携の充実を目指す。

神経内科 科長 徳永恵子

1. 人事状況（平成20年度）

常勤医

科長 徳永恵子

副科長 山野井貴彦

入職医 なし

退職医 なし

非常勤医 石橋誠也
中村範行
上山勉
岩田誠（物忘れ外来）

2. 専門医・認定医

徳永恵子 神経内科専門医
内科認定医
山野井高彦 神経内科専門医
内科認定医
眼科専門医

3. 科の特色

神経系救急疾患を主として対象とする神経内科であり、入院患者の約1/3は脳血管障害である。その他、脳炎・髄膜炎、ギラン・バレー症候群、てんかん発作、種々の原因による意識障害、自己免疫疾患（多発性硬化症、多発筋炎、重症筋無力症など）など比較的早急に治療を必要とする疾患の診断と治療を得意としている。

外来では、頭痛の鑑別、治療が多いが、その他筋疾患、末梢神経疾患、神経難病、不随意運動、認知症の診断など幅広い神経内科疾患に対応できる体制が整っている。

4. 平成20年度の実績

平成20年4月1日から平成21年3月31日の入院実績は以下の通りである。

脳梗塞 57
脳出血 1
一過性脳虚血性発作 2
てんかん 8,
脳炎・髄膜炎 6
ギラン・バレー症候群 4
脳腫瘍 4
多発性硬化症 3
パーキンソン症候群、アルツハイマー病 7
各種のミオパチー 5
ウェルニッケ脳症、低血糖、薬物性などの意識障害 7
SLE, 多発筋炎、スイート症候群 各1
髄液減少症、群発頭痛 各1
頸椎症 2

5. 平成21年度の目標

1. 脳梗塞治療の標準化（クリニカルパスの充実）、t-PA体制の整備、埼玉県地域連携パスの使用を通じて、地域医療に貢献する。
2. 意識障害、痙攣などの神経救急に対応できる研修医の育成を目標として、初期研修の充実をはかる。
3. 後期臨床研修医については、大学病院との連携をはかり、バランスのとれた神経内科専門医を養成できるカリキュラムを整備する。

放射線科 科長 綾部善治

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長 綾部善治

医長 山本敬

医員 西宮理気

入職医 なし

退職医 なし

2. 専門医・認定医

放射線科専門医：綾部善治、山本敬、西宮理気

日本核医学会認定医：綾部善治

3. 科の特色

4. 平成 20 年度の実績

学位論文（医学博士）：西宮理気

5. 平成 21 年度の目標

放射線治療装置設置に向けての準備。

健診科 科長 馬場健一

1. 人事状況（平成20年度）

常勤医

科長 馬場健一

阿部陽介

落合健史

加藤幸恵（労働衛生コンサルタント）

2. 専門医・認定医

日本医師会認定産業医は全員取得

労働衛生コンサルタント

3. 科の特色

労働衛生機関として、健康診断の実施は元より、産業医としての活動を行っている。事業場の労務管理者（衛生管理者など）と協力して、快適な職場環境と健康づくりに医学的に関与している。

4. 平成20年度の実績

各種健康診断の実施

産業医活動（巡視・講話・面談）

胸部レントゲン読影

心電図判読

健康診断結果処理期限の厳守

住民健診の結果説明

5. 平成21年度の目標

健康診断業務へ積極的に協力する。また、他の診療科に協力していただいていた心電図の判読や、レントゲンの読影を、なるべく科内で処理出来るようにする。

また、産業医活動も充実化していく。さらに、健康診断結果における要精密検査対象者の追跡調査を行う体制を構築し、運用に至る。科内の情報共有に留まらず、他部門及び部署との連携を行っていく。

救急科 科長 上野聡一郎

1. 人事状況（平成 20 年度）

常勤医

科長

上野聡一郎（兼任）

医員

村田英紀（専任）

浦島太郎（専任）

入職医

なし

退職医

なし

非常勤医

なし

2. 専門医・認定医

救急科専門医

上野聡一郎

宮内邦浩

3. 科の特色

病院の理念である「高度な医療で愛し愛される病院」のもと、24 時間体制で、可能な限り全ての救急患者の受け入れを行い、受け入れた患者に対して常に最高の医療を提供するよう努力する事を基本姿勢としている。

急性期医療を担う地域の基幹病院として、二次救急医療機関でありながらも、一部三次救急医療を行っている現状である。

4. 平成 20 年度の実績

救急車受け入れ件数：4,991 件

（うち上尾市内の救急搬入：3,159 件）

救急受診患者数：17,752 名

救急入院患者数：2,309 名

緊急手術対応症例数：81 件（入院後の手術含まず）

緊急血管造影対応件数：124 件（入院後の検査含まず）

緊急内視鏡対応件数：38 件（入院後の検査含まず）

CPA 搬入件数：107 件

5. 平成 21 年度の目標

地域の基幹病院として、二次救急および一部の三次救急医療を継続して行えるよう、さらに充実をはかりたい。

小児二次救急についても現状（週 3 日）を維持できるようにしたい。時間外の一次救急に対しても可能な限り対応したい。

看護部

看護部

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度部門品質目標

1. 個別性に配慮した継続看護の実施
2. 患者安全確保に向けた看護の標準化
3. 質の高い看護サービス提供に向けたキャリア開発
4. 質の高い看護サービス提供における経営参画

看護における質向上に向けては人員確保が重要となるが、新卒・中途入職あわせて 109 名の入職者がいた。結果、7 月に特定集中治療室管理料加算の取得と共に、看護配置 7 : 1 が維持できた。

専門性の高い人材育成においては、集中ケア・がん化学療法看護認定看護師の他、がん性疼痛看護、乳がん看護、皮膚排泄ケア、訪問看護、感染管理などの修了者 6 名が次年度の認定試験を予定している。また、がん看護専門看護師を目指し、修士課程に 1 名が入学した。認定看護師の役割である「教育」「相談」「実践」を今後看護部内における支援を強化したい。又、看護管理者の育成として認定看護管理者ファーストレベル修了者 12 名、セカンドレベル 2 名が終了した。

院内研修においては 197 回（延べ 3,837 人参加）院外研修には 425 人の参加があった。

上尾中央総合病院看護研修センター設立

全国初の民間病院における日本看護協会認可の認定看護管理者教育ファーストレベルが 10 月より開講。関東 5 県より 74 名の応募があり、3 月には 56 名に修了書が発行された。

【平成 21 年度の目標】

1. 退院支援の充実と継続看護の実践
2. 看護提供体制の確保
3. 労働環境の整備・子育て支援
4. 提供する看護サービスの標準化
5. 看護の専門性向上に向けた教育体制の構築
6. 環境問題への取り組み

（看護部長 工藤潤）

4 A 病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

4 A 病棟は、月平均 150 名の入院と 30 名前後の転入患者を受け入れるなど、より一層急性期病棟としての役割を担ってきた。4 月から 10 名の新入職員と 2 名の中途入職者を迎え、6 名のスタッフを産休に見送ったことで、事故がなく安全にまた、看護の質を低下させないよう一丸となって取り組むことに努めてきた。具体的には

1. クリニカルパスの新規作成・修正
2. 多職種を交えた勉強会と新人主催の勉強会の開催
3. 積極的な研修参加によるラダーのレベルアップを実践し、今年度は 40.5%のスタッフがレベルを上げることが出来た。しかし全体の 70%以上がラダーレベル II 以下であり、指導力に欠けているため、より一層のスキルアップが今後の課題である。

また、継続看護を行うため

1. 自己管理チェックシートを作成し、心不全のセルフモニタリングと内服・水分摂取・体重管理を入院中から行い、外来へと継続使用して指導に活かす取り組みを開始した。次年度以降はこのシステムを定着させるような体制作りを目指していく。
2. 心臓カテーテル入院予定の患者に対し、入院決定時の事前情報収集と入院時オリエンテーションを開始。これにより、以前に比べて、入院当日のカテーテルまでに十分な説明を行うことができるようになったと、患者・職員共に良好な反応が得られている。

今後も職員一同協力して、事故の無いよう看護の標準化を図っていきたいと考えている。

【平成 21 年度の目標】

1. 看護の標準化と質の向上による患者満足・職員満足の向上
2. 病棟・外来における継続看護の実施

（係長 田島直枝）

5 A病棟看護科

【平成20年度の報告】

平成20年度5A病棟は「急性期医療充実を目指した業務効率の改善、患者満足度の向上と医療・看護の質の向上」の方針のもと取り組んできた。看護科では「安全な医療・看護の提供による患者満足度の向上」「退院指導の充実」に取り組んだ。

「安全な医療・看護の提供による患者満足度の向上」のため、クリニカルパスの作成にて、顔面神経麻痺・耳下腺腫瘍・頭頸部癌術後補助化学療法クリニカルパスの作成をすることができた。その他クリニカルパスに関しては、見直しを行った。

また日々提出される安全管理報告書について部署内にて伝達し、同じような事例が発生しないよう月1回の病棟カンファレンス時に検討会を行った。重大な報告はなくなったが、似たような事例がまだ報告されるため、今後も引き続き行っていく。

部署内の専門性を高めるため、皮膚排泄認定看護師を目指し、21年度入学者1名を育成することができた。次年度に期待したい。

「退院指導の充実」では、退院パンフレットの作成を行った。クリニカルパス疾患に対してすべて作成を目標にしたが、まだ完成していない。引き続き取り組んでいく。

【平成21年度の目標】

1. 質の高い看護サービス提供に向けた専門能力の向上
＜具体的施策＞
 - (1) 部署教育計画の作成
 - (2) 社会資源の活用
 - (3) 科別技術チェックリスト

(係長 岩屋英美)

6 A病棟看護科

【平成20年度の報告】

平成20年度は安全な療養環境と質の高い看護サービスと個別に配慮した継続看護の実施を上げ行ってきた。

知識・技術に関しては院内・外の勉強会、研修会に参加して得られたこともあったが、知識を深めるということでは伝達が目標の半分しか達成できなかった。

安全に関しては、目標に挙げた月1回の検討を行うことは出来なかったが、医療安全管理課・薬剤部・医師・施設などと状況を分析し対応策を考え実施することができた。数値目標の設定に関しては次年度の課題とする。

継続看護に関しては、医師・薬剤師・栄養士に協力を得て、糖尿病・肺疾患・透析に関しての退院パンフレットを作成することが出来た。当初、パンフレットを使用し、退院指導を行なう予定であったが、文書登録をするのが遅れてしまい、退院指導までに至らなかった。今後、早急に文書登録を行い、作成したパンフレットを使用しての退院指導を実施していきたい。

【平成21年度の目標】

1. 安全な療養環境と質の高い看護サービス提供
 - ・専門看護師による勉強会開催
 - ・勉強会・研修会・伝達によるキャリアラダーのレベルアップ
 - ・感染対策の徹底（知識・手技のテスト）
2. 病棟と外来における継続看護と退院支援の実施
 - ・継続看護記録用紙の運用（糖尿病）
 - ・退院パンフレットの活用（糖尿病・透析・呼吸疾患）
 - ・退院支援カンファレンスの開催（週1回）

(科長 土肥 真弓)

7 A病棟看護科

【平成20年度の報告】

平成20年度の部署目標は、

1. キャリアラダーレベルアップ 60%以上
2. 看護業務の標準化

目標1に対して新人看護師と2、3年目看護師、中途入職看護師に対する年間教育計画を作成しそれぞれラダーⅠ、Ⅱ認定を、また指導する側の評価としてⅢ認定を目標とした。また月1回病棟内勉強会を行った。病棟全体のアップ率は46.4%で目標達成には至らなかったが、教育計画を作成したことにより統一した指導を実施することが出来た。また指導を受ける側も段階ごとの目標や知識・技術面における習得、未修得を明確にする事ができた。

次に目標2に対しては、毎月実施している病棟勉強会の中で、毎月1つ院内マニュアル確認テストを実施し、手順や連絡方法の再確認を行なった。また今年度、患者サービスと在院日数短縮の為、退院指導計画導入を目標にあげたが、実施には至らなかった。これは次年度へ継続課題とする。

【平成21年度の目標】

1. 病棟、外来連携システムの構築
 - (1) 病棟外来スタッフで方法の協議
 - (2) 関連スタッフへ説明
 - (3) 退院指導パンフレット作成
 - (4) 症例カンファレンス実施
2. 看護実践能力の向上
 - (1) 院内外研修の参加
 - (2) 病棟内伝達講習

(看護科長 指出香子)

8 A病棟看護科

【平成20年度の報告】

1. 患者個々に対する継続看護の充実
がん患者様が増加しているなか、入院時だけではなく、退院後も継続看護が必要な患者様に、個人が責任を持って継続看護に関わるようになりました。今後は、認定看護師の知識も活かしながら、ガン拠点病院に向けさらに、質の高い看護を目指していきたいです。
2. キャリア開発による質の高い看護援助の提供
病棟勉強会を企画し、今年度は10回実施できました。アンケートによる有効性も80%を超えていました。今後は習得した知識に対し、評価できるようにしていきたいと思っています。院内のラダー研修に対しては参加率が低く、来年度は、各自が目標をもち、自己研鑽できるよう目標管理に力を入れていきたいと思っています。以上のことから、今後は多職種との患者カンファレンスの充実をはかり、患者支援を行っていくこと、その為に必要な知識を習得していくことが課題となりました。

【平成21年度の目標】

1. 患者個々に対しての退院支援の充実と、継続看護の実践
 - (1) 退院支援に向けた業務フローの作成
 - (2) 退院パンフレットの改定
 - (3) ケースカンファレンスの実施
2. キャリア開発による質の高い看護の提供
 - (1) 病棟勉強会の実施
 - (2) 自部署ラダーの作成
 - (3) リーダー会、新人会の実施

(看護科長 横山幸子)

9 A 病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

この1年間を振り返り、大変な1年だったと感じている。新入職員の部署配属と同時に突然のVREアウトブレイク。職員一丸となり標準感染予防策の徹底を行なった。感染対策・予防の意識を高め行動化し、安全な療養環境を作っていく事は、医療者の義務であることを職員全員が痛感した。

第1四半期においては優先される感染対策や勤務体制の変更など、通常の病棟運営が困難な状況であったため、当初予定としてかかっていた部署目標・具体的施策が一部未達成状況になってしまった。それについては、21年度の計画に組み入れていく予定である。

1. がん治療の専門的知識習得による看護の質向上

医師によるがん疾患勉強会は、年5回を予定していたが、医師との調整がつかず、4回の実施で終了となった。アンケートにおいてはすべて有効性はあった。化学療法認定看護師とがん性疼痛認定看護講習修了者に勉強会2回と知識確認テストの依頼をしたが最終の確認テストが4月に延期されている。

2. パスをツールに医療スタッフの連携が強化され、患者満足度の向上が図れる

パス3疾患完成を目標にし、肝生検・INFは登録をすませ、RFAも仕上げ段階である。患者満足度の指標としてアンケートを予定したがパスの登録が遅れ、未実施となっている。

【平成 21 年度の目標】

1. 労働環境の整備
(時間外勤務の削減・夜勤4人体制の導入)
2. がん診療指定病院にむけての看護体制の構築
(治療期別専門チーム編成・がん治療勉強会・認定看護師による勉強会と院内認定)

(看護科長 高橋玲子)

10 A 病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度の部署目標は、

- ① 看護実践能力の向上
- ② 看護の標準化

①の具体的施策として、キャリアラダーのレベルアップ・院外研修への参加とした。結果、レベルアップ率が64%と目標値(60%以上)をクリアし、院外研修にもものべ109回(平均4~5回/1人)の参加があった。しかし、研修や勉強会での学び全てが業務に繁栄されていないため、繁栄できるようまた自己研鑽に繋げられるような仕組みを構築することが今後の課題でもある。

②の具体的施策として、院内マニュアルの遵守、チームカンファレンスの実施、クリニカルパスの作成とした。病棟勉強会で院内マニュアルの再確認すること(確認テストの実施)、他職種カンファレンスやチームカンファレンスで情報の共有化を図ることで看護の標準化に努めた。またクリニカルパスは1例申請し今後活用する予定である。

【平成 21 年度の目標】

1. 看護実践能力の向上

- (1) キャリアラダーのレベルアップ
(60%以上)
- (2) 院外研修の参加(3回/1人)
- (3) 病棟勉強会の実施(1回/月)

2. 退院支援の構築

- (1) 退院指導パンフレット作成
- (2) 退院支援計画書の活用(1回/2週)
- (3) 他職種カンファレンス・ケースカンファレンスの実施(1回/月)

(看護科長 谷島千恵)

2 C病棟看護科

【平成20年度の報告】

平成20年度5月より救急病棟の役割を果たしていくために、2C病棟入室基準：診療科を問わず緊急入院・治療が必要な患者、救急ICUの後方ベッドとしての転棟患者とし、入室期間を1ヶ月と定めた。

入室期間の大幅な短縮、そして救急ICUの後方ベッドとして変化していく病棟としての目標を、急性期病棟に必要な看護の標準化を図るとした。

具体的施策と達成状況は、

1. BLS・ICLSのプロバイダーの100%取得としたが、8名取得により88%の所得率となり未達成ではあるが、前年度までの取得率が46%だったことから前進していると言える。
2. キャリアラダーのレベルアップを25%に対しては、新人看護師以外では、14%に留まり未達成に終わった。
3. 業務マニュアルの改訂については、10月に改訂・登録が済んでいるため達成した。
4. 固定チームナーシングへの移行については、3に挙げた業務マニュアルの改訂に伴い、業務の整備を行い、1月より固定チームナーシングを開始しているため達成した。しかし、これまで急性期看護の経験が浅いスタッフが多くを占めている当病棟では、個々のスキルアップによる標準化が次年度に向けての引き続きの課題である。

【平成21年度の目標】

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 急性期病棟に必要な看護の標準化

(看護係長 金子由香子)

3 C病棟看護科

【平成20年度の報告】

平成20年度部署目標の回復期リハビリ病棟在宅復帰率は53～90%でした。

全患者対象に多職種における患者ケースカンファレンスを入棟1週間から実施し、その後1ヶ月毎に患者のリハビリ進捗度と、今後の方向性について多職種と協議し、在宅復帰に向けて、患者のQOLを高めるため在宅生活を想定した日常生活の援助を行いました。特に患者ケースによっては退院後に関わるケアマネを含めた担当者会議（多職種）も月2～5件実施していた。

また、継続看護として脳血管疾患患者を対象に、退院指導パンフレットを用いた退院指導を実施し看護サービスの提供を行いました。今後も患者のニーズに答えた内容を考慮して、継続看護として退院指導に取り組んでいきたいと考えています。

病棟として院内勉強会や研修への自主参加が少なかったため、看護の質向上の為に研修参加を促して行きたいと考えています。

【平成21年度の目標】

1. 回復期リハビリ病棟として患者のQOL質向上を目指す。
 - (1) 在宅復帰率60%以上
 - (2) 新規入院患者15%以上の重症者受け入れ
 - (3) 重症患者回復期病棟加算30%以上の改善を目指す
2. 継続看護への看護サービスの提供
 - (1) 看護サービスの提供（退院指導）継続看護の充実を図る
3. 看護サービスの質向上の為に自己研鑽

(看護科長 餅原博子)

4 C病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

1. 転倒・転落の減少に向けた業務改善

御家族・施設・前病棟等から排泄パターン・行動パターンの情報を得て、トイレ誘導・おむつ交換等検討・実施・評価・検討と繰り返してきた。結果 80 歳代・夜間、特に 23 時の転倒が多いことが判明、おむつ交換の時間やオムツの当て方を工夫し一時は減少が見られたが、後半増加傾向となり結果的には減少には繋がらなかった。原因の一つに、当該部署は急性期病棟ではあるが、他病棟からの長期入院患者の転入が殆どであり、後期高齢者・認知症の方が必然的に多くなり、転倒・転落のリスクも高くなっていると考えられる。今後は、更なるデータ分析を行い、個別性のある看護計画を立案・実施・評価・修正を行うと共に、スタッフ全員がその事を認識・実践できるようスタッフ教育も必要と考える。

2. 質の高い看護サービスに向けた看護実践能力の向上

当該部署の勉強会開催は目標達成できたが、参加率は平均すると 56.6%と低かった。学びたい事・業務をされていて疑問に思う事等を事前に調査してからの開催であったが、他部門への講師依頼が多く、受身での研修が多かったのも原因の一つと考える。

院内外の研修への参加は延べ人数 31 名だが参加者は固定されていた。ラダーのレベルアップにも関連することであるが、全員がワンランクアップするということにはいたらなかった。

【平成 21 年度の目標】

1. 個別性に配慮した退院支援の実施
2. 継続教育の実施と質の向上

(看護科長 新井幸子)

5 C病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度の目標は、

1. こどもと触れ合う時間を多く持ち個別に応じた看護サービス提供を図る。
2. 自己のキャリア開発に向けた勉強会・研修会への自発的参加

1. に対しては、①各勤務における業務の見直しと改善を行い、9月より小児科外来と病棟との一元化を開始し、6ヶ月が経過した。病棟・外来のスタッフをローテーションしつつ、業務の見直し改善を行なったことで、業務内容・使用物品の統一が図れてきたと評価できた。②イベント開催では、年3回の予定(七夕・ハロウィン・クリスマス会)にひな祭りの会も追加開催し、こども達の笑顔を見ることが出来た。③入院時オリエンテーションパンフレット・退院指導パンフレット(ギプス・喘息)を作成し現在も活用中である。今年度は、こどもと触れ合う時間を多く持つことで、個別に応じた看護サービス提供を図る事が出来たと評価できた。

2. に対しては、小児看護に関する研修会・勉強会へ1~2名/月ではあるが、自発的に参加していた。前年度に比べ、自己のキャリア開発に向けて取り組む姿勢が見られてきた事は、部署にとって大きな前進であった。

【平成 21 年度の目標】

1. 小児病棟・小児科外来一元化における、継続看護の実施
 - (1) 病棟・外来一元化に対するカンファレンスの実施 1回/月
 - (2) 小児科入院患者継続看護の実施 100%
2. 個々に応じたこどもの触れ合いを大切に
にした看護サービスの標準化
 - (1) 小児に関する勉強会の実施 1回/月
 - (2) 季節毎の行事に応じた壁画作成とイベントの開催 2回/年(七夕・クリスマス)
(看護係長 佐々木美保)

4 D病棟看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は安全・安心・満足できる看護の実践を目標にあげ、継続看護の強化と快適な療養環境の提供を重点課題として取り組んだ。

継続看護では、助産師外来の改正を行い、担当助産師 4 名の育成により助産師外来を 3 枠へ増設でき、受診妊婦の増加につながったが目標数への到達には至らなかった。しかし医師の妊婦健康診査時の個別保健指導への取り組みとして、手順書の作成とテキストの更新、バースプラン、妊娠分娩サポートチェック、乳房チェック等をもりこみ、終日保健指導専従助産師 1 名の配置により、初回・中期妊婦健診指導が全妊婦を対象に開始できた。

また、集団指導のふぁみり〜くらすでは、プログラム内容を改訂し、自作 VTR を活用するなどにより新プログラムを導入した。

療養環境の改善では、6 床部屋の流動的活用により、満床時以外は 4 床部屋としたことで、ハードへのクレームがゼロとなった。助産師外来、産後 2 週間健診、ふぁみり〜くらすの利用者数に関しては目標値には到達できなかったため、次年度への継続課題とする。

【平成 21 年度の目標】

1. 継続看護の充実

外来病棟看護の連携強化として、両間の業務シフトをリンク

流産死産の保健指導の充実

2. 安全安心看護の提供

5S 活動の継続取り組みとして、整理整頓による物品管理により、不動在庫数の減少
災害看護への取り組みとして、部署災害時手順書の作成と避難訓練の実施

クリニカルパスの充実として、全改訂と新規作成

3. 顧客満足度への取り組み

療養環境整備として、ベランダの有効活用
アメニティーの充実として、分娩時のおみやげ、食事の改善

(看護係長 斉藤靖枝)

集中治療室看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、集中治療室総入室患者数 646 名、平均在室日数 4.1 日でした。利用者数に大きな変化はなく、在室日数は更に短縮されてきている傾向がありました。昨年度同様、日々目まぐるしい看護展開を行ってきました。そのような中、安全な療養環境提供に向けた業務改善と、質の高い看護サービス提供に向けた看護実践能力の向上を目標に取り組んできました。

安全な療養環境提供に向けた業務改善としては、業務マニュアルの改訂・登録を行いました。

質の高い看護サービス提供に向けた看護実践能力の向上としては、ICU 技術チェックリストの見直し・改訂の実施。キャリアラダーのレベルアップ 30% を目標とし、40% アップが図れ達成した。また、認定看護師の育成支援として 2 名が受験。今年度は通らなかったが、引き続き次回受験予定であるため支援を行っていきます。

【平成 21 年度の目標】

今年度の目標の達成状況も踏まえ 21 年度は、下記項目を目標に置き取り組んでいきます。

1. 安全な療養環境の提供

看護サービスの標準化・感染管理の充実

- (1) 根拠を含めた ICU 看護手順の改訂
- (2) 感染対策に関する認識強化及び徹底

2. 人材育成

専門能力の開発・向上

- (1) 集中治療室ラダー作成・運用
- (2) 認定資格受験支援

(集中ケア認定看護師 2 名受験予定)

(看護科長 菅原美奈子)

救急初療室看護科

【平成 20 年度の報告】

救急初療室看護科となって 2 年目の今年は、8 月に病院の目標でもあった救急 ICU の特定集中治療室加算を取得する事ができた。

救急 ICU では、約 550 名の患者を受け入れることができ、救急室では約 5,000 件の救急車を受け入れることができた。

スタッフの学習意欲も高く、院内研修だけでなく、院外の専門的研修に約 85% のスタッフが参加し、自己研鑽に務めていた。しかし、研修参加が多かったため、参加後の報告会の開催が不十分であり、部署内の知識の向上につながったとは言い切れないところがあった。

年度末になってしまったが、救急初療室の部署ラダーが完成した。評価を実施したところ、内容の見直しが必要であり、次年度早急に見直していく必要がある。しかし、部署ラダーを用いて評価を行ったことで、個人の課題だけではなく、部署としての課題も新たに見つけることができた。

部署内の勉強会については、次年度ラダーを用いてレベル別の教育計画を立案して行う事とした。

また、マニュアルの遵守と、部署内での決定事項の周知が不十分で、同じようなインシデント報告が提出されることがあったため、次年度はそれらを改善できるよう部署目標とした。

【平成 21 年度の目標】

1. 救急初療室ラダーを用いた教育の実施
2. マニュアルを遵守した技術の統一
3. 院内決定事項の周知徹底

(看護科長 平井悦子)

手術室看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、ISO9001 及び P マーク更新審査を基軸に各種業務マニュアルの整備・各種計画の実践を進めてきた。更新審査に対して是正なく終了したことは計画通りに進捗したと評価できた。また、今年度は 4,622 件もの手術が実施された。これは前年度より 266 件の増加に値し、約 1 ヶ月手術の 7 割に相当する。手術室の稼働率も高く、業務多忙の中でも、各診療科・部署の協力により手術室品質目標の「円滑で安全な手術室運営の実践」が展開できたと評価できる。

手術室看護科としての品質目標は「業務改善」「看護の質向上」の側面から、手術に使用する医療材料のピッキング業務を院内物流 SPD 作業に移譲することができた。これにより看護師の業務量が幾分削減でき手術患者へ関わる時間捻出ができたが、術後訪問実施率が 35% であった。実施率が半数にも及ばなかったのは手術件数の増加が関与していると考えられる。手術介助という専門能力の指標として手術室看護ラダーによる評価を実施し、レベル別の教育計画を立案することができた。しかし、ケースカンファレンスの実施が目標未達成であったことなどを踏まえると、次年度継続し取り組んでいくことが山積しているように考える。

今年度評価から次年度は手術室の可視化を目指し PDCA サイクルを展開していく。

【平成 21 年度の目標】

1. 手術管理システムの構築と運用
2. 診療報酬・物品管理からの勉強会
3. 物品供給システム（ワゴン）の導入
4. 習熟度段階表別教育の実施・評価

(看護科長 高橋健治)

中央材料室看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度の目標は、患者に安全な医材の提供、不動態在庫をなくすことによる経営参画を立案した。

業務改善に伴い、回収業務の追加及び院内全部署からの洗浄・滅菌業務が入り、業務マニュアルの改訂を行うことで、患者に安全な医材の提供を実施することができた。

また不動態在庫の管理として各外来・病棟の器械の保管状況・在庫管理の巡視を行った結果紛失が非常に多くあり、中材で在庫管理している器材が不足する状況になっていた。

前年度定数の見直しをし、管理していたが、過剰定数になっており、滅菌ぎれが生じ再滅菌をする器材が増加していた。不足器材に関しては必要数の補充を行った。

キャリアラダーの研修では、中材業務の中では研修内容が一致せず、出席しても伝達が不十分になってしまい、レベルアップまでつなぐことができず残念であった。

手術器械の滅菌に対し、新しい機械が入り器材も新しいものが増えて業務改善が必要となり、業務内容に合わせたチェックリストを作成し、部署内でのレベルアップをする必要があると考える。

【平成 21 年度の目標】

1. 手術器械の洗浄・滅菌の見直し
2. 職種別のチェックリスト作成と評価
3. 標準予防策の徹底
4. 5Sの継続

前年度に続き部署訪問を定期的実施し患者に安全な医材の提供を継続する。

(看護科長 小山美江)

外来看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、1. 継続看護 2. 質の高い看護の提供 3. 業務改善を目標に挙げ取り組んできた。

1. 継続看護では、記録用紙への記載がむずかしく、記入の方法も部署によって違うなど、スタッフ個々の取り組みにも認識の差があった。記録委員を中心に、病棟スタッフと連携することであらたな記録用紙作成へと繋げることができた。
2. 質の高い看護の提供では、看護外来開設に向けての支援として、がん化学療法認定看護師、糖尿病療養指導士の活動のバックアップのみにとどまってしまった。今後、フットケア外来の開始、DMの回診への参加など患者により深く関わられるよう支援して行きたい。
3. 業務改善としてDPC導入により在院日数の短縮化がすすむなか、手術前後の検査や処置が増え、化学療法などの複雑な治療も外来で施行されるようになるなど多様化してきている。それに伴い勤務時間超過が40時間～50時間という部署もあったため、30時間以内を目標に処置、患者数を配慮した人員配置、フレックス勤務の導入などで超過時間を削減することができた。今後も継続看護の充実を図るために病棟訪問やカンファレンスへの参加など積極的に関わって行きたい。

【平成 21 年度の目標】

看護の標準化を図り質の高い看護サービスが提供できる。

1. 継続看護の充実
2. 組織力を高める

(看護係長 高田祐子)

透析室看護科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、「安全な透析環境と質の高い看護サービスの提供」を品質目標として掲げ、1 年間実施してきた。

1. 個別性に配慮した継続看護の実施

外来患者を対象に、担当看護師を決め看護計画を立案・実施した。4 時間という短い透析時間の中で、患者への関わりが増え評価できる症例も増えている。今後も継続していく。

2. 安全な透析環境の提供に向けた看護の標準化とキャリアラダーのレベルアップ

透析室業務マニュアルの見直し・改定は今後も継続していく。キャリアラダーのレベルアップは目標の 4 名を上回る 5 名となった。

3. チーム医療の連携を高め質の高い透析医療を提供する。

患者ケースカンファレンスを計 43 回実施した。今後はより実りあるカンファレンスの実施と協働する臨床工学技士との連携を高めることが課題である。

【平成 21 年度の目標】

1. 看護師のキャリアアップを図り、透析看護の専門性を高め、看護の質向上へつなげる

- (1) 透析についての勉強会の実施
- (2) キャリアラダーのレベルアップ

2. 臨床工学技士との安全で効率的な業務改善と労働環境の整備

- (1) 臨床工学技士との業務改善
- (2) 各種手順書の整備

3. 外来患者への看護展開と継続看護の実施

(看護係長 高瀬裕子)

巡回検診看護科

【平成 20 年度の報告】

巡回健診看護科は、平成 20 年度の始まりとともに旧産業保健室看護科より分離発足した。

当科では「巡回健診現場での看護サービスの質の向上」を目標として取り組んできた。各巡回健診時のインシデント、アクシデントを毎日の業務報告書に記録することで、その原因と対策を個人で考えるとともに、ミーティングで話し合ってきた。その対策をそれぞれの健診現場で活かしていく姿勢が、定着しつつあるように思われた。巡回健診という特殊な看護の状況にあって、コミュニケーションのとりにくいナース間での、インシデント、アクシデント、その他の情報の交換も増えてきたように感じられた。

また、マニュアルの見直し、実施によって準備時の確認の徹底、各企業で異なる健診内容の把握の徹底を行ってきた。

これにより当初の目標はほぼ達成されたといえる。

【平成 21 年度の目標】

1. 健診現場での事故防止

- (1) インシデント・アクシデントの振り返り（分析、原因、解決策）

2. 巡回健診業務の専門性を踏まえた実践能力を身に付ける

- (1) 巡回健診看護科の力量チェックリストの作成と実施

3. 健診現場に必要な接遇を身に付ける

- (1) 健診現場での接遇マニュアルを作る
(看護主任 山室直子)

保健指導科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、10 月からの特定保健指導開始に伴い、マニュアル作成のほか、実施準備を中心とした年となった。

特定保健指導開始までに部署内学習会を実施。新人保健師と経験者がペアで保健指導を実施し、実践的教育の機会とした。実践的教育は、個々の保健師の弱点に容易にアプローチでき、効果的だった。3 月時点では、互いに相談・助言を繰り返しながら、各自特定保健指導を実施。今後は各自がカンファレンスに保健指導上の問題点を提起し、共通の学習課題として取り組むことで、全体の力量向上をはかる。

保健師ラダーは全段階完成し、活用可能になった。2 月の評価時点では特定保健指導の最終評価が実践できておらず、保健師ラダーレベル認定は見送りとなった。

記録様式については、産業保健・特定保健ともに見直しし、修正案作成。昨年までの記録とは大きく変化した。しかし、記載基準の標準化・統一が未だ不十分であるため、次年度の課題とする。

次年度は人員増に伴い、保健指導科の業務拡大を検討している。既存の特定保健指導プログラムの他、新たなプログラムの検討、また、院内活動への参加を予定。

【平成 21 年度の目標】

1. 特定保健指導の充実
 - (1) 効果ある保健指導の実施
 - (2) 保健指導プログラムの実施
2. 保健指導サービスの質の向上
 - (1) 保健師ラダー I 全員取得
 - (2) 健康相談記録の見直し・標準化

3. 院内保健活動の開始

(新井梨乃)

看護支援科

【平成 20 年度の報告】

看護支援科は、看護業務がスムーズに行うための支援をすることを目的として新たに立ち上げられた科であるため、その目標を①各部署間での情報を共有し看護の標準化を目指した支援、②個別性に配慮した看護サービス継続への支援とした。

具体的施策としては、病棟で運用されている看護技術手順書を見直し整理を行うと同時に、病院内で使用されている検査説明用紙の見直しと統一をはかった。また、相談窓口業務にも携わり患者さんの声に耳を傾け適切な診療科の案内や相談を受けることで不安軽減に努めた。

8 月には退院支援部門を新たに立ち上げ、退院困難な患者への関わりを持つことで入院から退院までの流れを把握し、病診連携や MSW、訪問看護等他部門との連携も深まり、病棟で勉強会を実施することで少しずつではあるが継続看護の必要性も理解されてきている。

手探りではあったが、新設部署としては手応えのあった年だと思う。今年度の経験を生かし、次年度は更に充実した年にしたいと思っている。

【平成 21 年度の目標】

1. 退院支援部門の構築
2. 医療クラーク部門の立ち上げ
(看護科長 野崎浩子)
(看護係長 大川原みどり)

褥瘡管理科

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度 4 月に新規に立ち上げた部署であり、まず業務マニュアルや手順書などを作成し登録を行った。

部署目標として、質の高い看護サービス提供に向けた専門領域での看護実践をあげ、ストーマ外来の開設と重点的なケアにおける褥瘡管理・加算取得・算定に取り組んできた。

ストーマ外来開設に関しては、外来患者の指導は行っているが算定にはみださず開設にはいたらなかった。次年度、早急に開設していく。

重点的なケアにおける褥瘡管理・加算取得・算定に関しては、4 月に申請を行った。重点的なケアが必要とする患者に対し、適切な褥瘡予防・治療のためにケア介入を行うが全病棟対象までにはいたらなかったため、褥瘡対策委員会や今年度より専任看護師とも連携をとりながら次年度は拡大していく。

その他、専門領域において看護職に対しての指導の場が少なかったため、次年度は積極的に指導・相談ができるようにしていきたい。

【平成 21 年度の目標】

1. 看護外来開設における継続した看護の実践・指導、在宅指導料算定
2. 重点的なケアにおける褥瘡管理・加算算定
3. 専門領域での看護実践・勉強会の実施
(看護主任 松本有希子)

平成20年度 院内教育研修会

No	研修名	期日	参加人数
1	看護倫理 外部講師講演会	4月19日	74名
2	部署品質目標発表	4月28日	37名
3	中間・育成面接の仕方	5月7・9・10日	22名
4	クリニカルラダーの理解	5月12～16日	50名
5	標準・感染予防策	5月19日～21日	71名
6	看護研究発表会	5月24日	116名
7	研究計画書・文献検索方法	5月26～28日	26名
8	実習指導者としての役割と理解	6月2～4日	42名
9	特殊薬剤の理解	6月9～11日	74名
10	新人情報交換会	6月13～20日	67名
11	分析方法	6月16・18・19日	27名
12	統計の取り方	6月23～25日	39名
13	看護補助者 標準感染予防策	6月27日・7月4日	60名
14	危険予知訓練	7月1～3日	69名
15	主任初任者研修	7月4日	7名
16	入院時患者情報の取り方	7月7～9日	83名
17	針刺し事故予防策	7月14～16日	76名
18	原稿の書き方・プレゼンテーション	7月22日～23日	18名
19	輸血・血液製剤の取り扱いと理解	7月28～30日	95名
20	救急薬剤の理解	8月4～6日	114名
21	処置別感染予防策	8月11～13日	32名
22	トピックス フィジカルアセスメン	8月15日	45名
23	看護問題と看護計画の立案	8月18～20日	67名
24	新人情報交換会	8月21・29日	66名
25	リーダーシップ概論	8月25～27日	51名
26	定期健康診断と予防接種	9月1～3日	37名
27	看護経過記録	9月8～10日	61名
28	災害看護の理解	9月16～18日	40名
29	看護補助者研修 概論	9月24日	6名
30	事例発表会	9月27日	4名（8名発表）
31	看護補助者研修 各論	11月5日	26名
32	新人情報交換会	11月7日・21日	66名
33	インシデント・アクシデントの傾向と対策	11月10～12日	119名
34	看護記録監査	11月17～19日	33名
35	十字形チャート分析	11月25～27日	51名
36	伝達講習会	11月28日	18名
37	目標管理の概要	12月1～3日	62名
38	クラーク研修	12月4日	24名
39	教育担当者情報交換会	12月5日	28名
40	洗浄・消毒・滅菌の基礎	12月8～10日	22名
41	ディベート	12月15日	27名
42	中途入職者研修	12月19日	28名
43	個人目標設定	1月19～21日	56名
44	目標設定の仕方	1月26～28日	16名
45	ディベート討論会	2月27日	58名
46	新人情報交換会	3月6・13日	61名
47	部署品質目標成果発表	3月17日	24名

薬剂部

部長 増田裕一

部門品質目標

平成 20 年度

- ・ 薬剤管理指導業務の実施 (1,600 件/月)
- ・ 注射薬混注に関する勉強会の実施
- ・ 院内副作用収集 (5 件/月)
- ・ 調剤過誤率 0 への取り組み
- ・ スキルアッププログラムの作成及び実施
- ・ 病棟配置薬品の見直しによる購入金額の減少

平成 21 年度

- ・ 薬剤管理指導業務の実施 (2,100 件/月)
- ・ 外来患者に対するお薬相談の充実
- ・ 治験の実施
- ・ プレアボイド報告体制強化
- ・ 注射薬混注に関する勉強会の実施
- ・ 認定・専門取得の推進
- ・ 調剤過誤 0 への取り組み
- ・ 採用薬品の不動在庫見直しによる購入額の減少

職員構成 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

薬剤師 41 人
事務 2 人

施設認定および施設基準

薬剤管理指導業務実施施設
厚生労働省副作用報告協力施設

認定・専門取得

認定薬剤師 5 名
日本糖尿病療法指導士 2 名
認定実務実習指導薬剤師 1 名
感染制御認定薬剤師 1 名

業務実績

業務内容	19年度実績 (月平均)	20年度実績 (月平均)
総レセプト数	1,384	1,440
算定患者数	1,025	1,333
実施率(%)	74.06	92.55
薬剤管理指導業務		
請求件数	1,546	2,157
50点退院加算件数	597	578
50点麻薬加算件数	31	36
TDM実施件数	14	11
外来化学療法加算件数	102	95
無菌製剤処理加算件数	102	95
外来薬剤情報提供件数	219	684

その他

- ・ 薬剤師当直毎日実施 (24 時間業務体制)
- ・ I V H 無菌製剤調整実施

学会発表

- ・ 第 13 回日本緩和医療学会 1 題
- ・ 医療薬学フォーラム 2008
第 16 回 C P シンポジウム 1 題
- ・ 第 18 回医療薬学会年会 1 題
- ・ 第 2 回日本緩和医療薬学会 1 題
- ・ 日本病院薬剤師会関東ブロック
第 38 回学術大会 1 題
- ・ 第 24 回日本環境感染学会総会 1 題
- ・ 第 24 回日本静脈経腸栄養学会 1 題

研究会・勉強会発表

- ・ がん専門薬剤師育成セミナー 6 題
- ・ 感染制御専門薬剤師育成セミナー 4 題
- ・ NST 専門薬剤師育成セミナー 2 題
- ・ 第 34 回埼玉がん緩和ケア研究会 1 題

診療技術部

品質方針

部門品質目標

平成20年度

- ・ 接遇の向上、投書0件を目指す
- ・ 緊急依頼受け入れの向上
- ・ 医療安全教育
- ・ 各部署HIS端末の設置（画像・検査データの共有化）
- ・ 職務要件ラダーの確立
- ・ ISO9001更新に向けてマニュアル整備

平成21年度

- ・ 接遇の向上
- ・ 医療安全教育
- ・ 病理・透析・リハビリ・栄養科オーダーリングシステム導入
- ・ 職務要件ラダー・個人目標シートを用いた人事考課の試行
- ・ 各種規程・マニュアル更新

科長 田中武志

平成 20 年度総括と平成 21 年度の展望

平成 20 年度は PACS の拡充として 2 次導入を行い、画像配信、レポートシステム、検診システムが稼働し、フィルムレス化が達成された。

また、患者満足度の向上の一環として毎年行っている患者待ち時間調査の結果は、一般撮影検査において平成 19 年度／6.2 分、平成 20 年度／3.6 分と大幅に短縮することに成功した。これは RIS の導入で、受付時の事務処理にかかる時間の短縮と件数減少によるものと思われる。また、フィルムレス化が実現されたことにより、フィルム受け渡しにかかる待ち時間がなくなったことも、患者満足度に貢献していると考えられる。しかし、患者接遇に関しては、今年度 5 件の投書があり、接遇に対する意識の再確認と教育の必要性が浮上し、来年度の課題となった。

平成 23 年に予定している放射線治療の開始にあたり、認定取得が困難とされる医学物理士の取得を掲げ、1 名の取得者を実現した。

また、診療技術部での職務要件書に基づく職員評価に先立ち、放射線技術科で職務要件書による評価を試行し、基礎が確立できたと思われる。平成 21 年度は、この職務要件書と個人目標シートを用い、職員のスキルアップと評価制度の確立を目指す。

各部門の検査件数については、一般撮影件数が昨年度に比べ減少した。この原因として、一般撮影件数の約 4 割を占める整形外科の完全予約診療に伴う、外来数減少によるものと考えられる。

マンモグラフィ検査では、外来検査の予約枠を廃止し、予約無しで検査施行可能としたことと、乳房検診の予約枠を 22 枠から 26 枠に増枠したことで、昨年度に比べ約 5 % の件数増加がみられた。また、乳房検診が広く知れ渡ってきたこともあり、今後も件数の増加が見込まれる。

近年、放射線被曝に対する世間の関心が高まっており、平成 21 年度は患者被曝線量管理、ガイドラインに則った管理の確立を行い、医療被曝低減施設認定の取得を目指す。

部署品質目標

平成 20 年度

- ・感染・リスク・個人情報・介助講習会参加
- ・PACS 二次導入（画像配信、レポートシステム、健診システム）
- ・規定・業務マニュアルの見直し
- ・検査待ち時間調査
- ・職務要件書に基づく評価の確立

平成 21 年度

- ・科内接遇勉強会の実施
- ・感染・患者安全対策勉強会の参加
- ・個人情報・介助講習会の参加
- ・職務要件ラダー・個人目標シートを用いた人事考課の試行
- ・各種規定・マニュアル更新
- ・血管造影装置更新
- ・医療被ばく低減施設認定の取得

施設認定および施設基準

マンモグラフィ検診施設画像認定

職員構成（平成 21 年 3 月 31 日現在）

放射線技師	41 人
事務	4 人
アシスタント	4 人

認定資格

医学物理士	1 名
第一種放射線取扱主任者	2 名
核医学専門技師	1 名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	3 名

設置機器

一般撮影装置 (CR)	5 台
多軌道断層装置	1 台
移動型 X 線装置	4 台
外科用イメージ	2 台
歯科用パノラマ X 線装置	1 台
骨塩定量測定装置	1 台
X 線透視装置 (DR)	4 台
乳房撮影装置 (デジタル)	1 台
SPECT 装置	2 台
血管撮影装置	2 台 (Biplane 1 台 Single 1 台)
MDCT	2 台 (64 列 1 台 16 列 1 台)
MRI	2 台 (1.5T パラレルイメージング)

業務実績

区分/年度	平成18年	平成19年	平成20年	区分/年度	平成18年	平成19年	平成20年		
一般撮影				X線TV					
体部	61,461	61,319	63,713	外来	UGI	314	284	234	
四肢	13,750	13,225	10,975		特殊	2,367	2,030	2,288	
パントモグラフィ	1,398	1,291	5,762		BEM	1,208	1,176	1,118	
DIP	395	352	262	ドック	UGI	14,771	15,169	15,474	
ポータブル撮影	12,615	13,668	13,111	Angio					
マンモグラフィ				循環器科	心カテ	452	581	705	
外科	1,377	1,827	1,753		PCI	296	466	721	
産婦人科	15	20	18		不整脈	149	214	203	
整形外科	0	0	1		下肢	96	116	53	
循環器科	0	0	1		他	61	162	225	
健康管理課	2,277	3,643	3,989	脳外科	脳 アンギオ	118	74	36	
CT					コイル 塞栓術	12	13	14	
頭部	単純	8,496	8,478		8,184	TAE	0	0	2
	造影	938	1,042		1,059	動注	24	9	11
胸部	単純	3,826	4,315	4,389	放射線科 消化器科	腹部 アンギオ	19	9	15
	造影	1,272	1,703	1,870		TAE	75	70	65
腹部	単純	4,320	3,922	4,031		動注	5	5	5
	造影	3,412	3,538	4,219		コイル 塞栓術	5	4	4
四肢	単純	254	274	325		リザーバ	3	5	3
	造影	12	11	16	核医学				
MRI				脳	263	290	225		
頭部	単純	5,528	5,934	5,497	心臓	615	531	454	
	造影	525	513	715	骨	611	617	706	
胸部	単純	125	187	223	腫瘍炎症	249	277	296	
	造影	77	55	83	その他	323	292	261	
腹部	単純	1,270	1,448	1,569					
	造影	144	138	187					
脊椎	単純	2,494	2,288	2,234					
	造影	67	73	53					
四肢	単純	942	803	925					
	造影	112	82	66					

科長 小島徳子

部署品質目標

平成 20 年度

- ・ 接遇マナーの向上と理解
- ・ 緊急検査対応の充実
- ・ 人格と技術の育成
- ・ 生理検査電子化の推進
- ・ IS09001 更新に向けてマニュアルの整備

平成 21 年度

- ・ 接遇マナーの向上と理解
- ・ 緊急検査対応の充実
- ・ 人格と技術の育成
- ・ チーム医療参画への理解と協力
- ・ 病理オーダリングシステムの検討
- ・ 各種マニュアルの更新

施設基準 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

検体検査管理加算 (I)、(III)

職員構成 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

臨床検査技師 53 人 (非常勤者を含む)
 視能訓練士 6 人、助手 1 人
 臨床心理士 1 人
 事務職 6 人

主な資格・認定 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

超音波検査士 9 人
 細胞検査士 3 人
 国際細胞検査士 1 人
 認定心電検査技師 1 人
 認定輸血検査技師 1 人

学会発表 (平成 20 年度分)

日本医学検査学会 1 題
 関東甲信地区医学検査学会 3 題
 埼玉県医学検査学会 3 題
 埼玉県臨床検査技師会講義 5 題

業務実績

(#1: 院内処理へ変更、#2: 一部外注へ変更)

(*: 検査技術科実施のドック・健診分を追加)

区分/年度		平成 19 年	平成 20 年
検体検査	生化学検査	82,053	92,047
	H b A 1 c	39,243	53,949
	血液一般検査	84,081	83,736
	血液凝固検査	21,486	27,767
	血液形態検査 #1	5,640	27,457
	尿検査	74,657	68,079
	便検査 #2	46,943	7,729
	精液検査 (AIH 含む)	149	96
	輸血検査	1,879	2,342
	感染症検査	9,704	10,397
	血液ガス検査	4,391	3,038
生理検査	心電図 *	21,263	31,406
	A B I ・ P W V	1,292	1,399
	ホルター心電図	2,727	1,511
	トレッドミル検査	707	570
	脳波検査	343	312
	睡眠時無呼吸検査	140	148
	心臓超音波	5,238	5,374
	腹部超音波 *	15,032	21,154
	体表・乳腺超音波	4,658	5,671
病理検査	肺機能検査 *	1,242	11,221
	聴覚検査	6,725	7,108
	細胞診検査	15,877	15,205

科長 小林由美子

平成 20 年度総括と平成 21 年度の展望

平成 20 年度は、標準プログラムを見直すことによる質の安定を、また、教育と業務の統合のためクリニカルラダーを作成した。結果、安定した質の中で1患者当りのリハビリ量も増加させることができた。

平成 21 年度は職能要件ラダーを個人の目標及び人事考課に反映させるために試行を重ねていく。それにより、更に教育を徹底させたい。また、祝日においてもリハビリテーションを提供し（入院患者のみ）、患者の回復に貢献するという役割を果たしていきたいと考える。

部署品質目標

平成 20 年度

- ・投書件数；0 件
- ・リハビリテーション提供数の安定
- ・各種勉強会の参加
- ・リハビリテーション標準プログラムの見直し
- ・職能要件ラダーの確立
- ・職務要件書に基づく評価の確立
- ・マニュアルの整備/更新

平成 21 年度

- ・接遇の向上
- ・医療安全教育の徹底
- ・リハビリオーダーリングシステムの導入
- ・職務要件ラダー・個人目標を用いた人事考課の試行
- ・マニュアルの見直し
- ・リハビリ提供量の安定（祝日提供）

職員構成（平成 21 年 3 月 31 日現在）

理学療法士	51 人
作業療法士	19 人
言語聴覚士	6 人
助手	2 人
事務	5 人

施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション（I）
- 運動器リハビリテーション（I）
- 心大血管疾患リハビリテーション（I）
- 呼吸器リハビリテーション（I）
- （回復期リハビリテーション病棟入院料1重症患者回復病棟加算）

業務実績

リハビリテーション対象延べ患者数（年間総数）

分類 / 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
入院	99,488 人	65,121 人
外来	24,381 人	20,417 人

リハビリテーション提供数（年間総数）

分類 / 年度		平成 19 年度	平成 20 年度
入院	理学療法	167,543 単位	189,452 単位
	作業療法	56,882 単位	66,219 単位
	言語聴覚	18,725 単位	17,491 単位
外来	理学療法	27,334 単位	32,911 単位
	作業療法	9,911 単位	10,934 単位
	言語聴覚	354 単位	244 単位

（1 単位 = 20 分）

平成 20 年度在宅復帰率（月平均）

退院患者様数		182 人
退院先	自宅	162 人
	施設	11 人
	病院	7 人
在宅復帰率		91.1%

※リハビリテーションを受けた後、退院なさった患者様数

平成 20 年度その他の活動

学生実習受入数	理学療法学生	28 人
	作業療法学生	23 人
	言語聴覚学生	6 人

上尾市講師協力

上尾市社会福祉協議会主催

・生活訓練教室	31 回
・スポーツレクリエーション	12 回
・失語症訓練教室	9 回
・介助教室	1 回
・上尾市訪問リハビリ指導	7 回
・外部講師協力	3 回

科長 肥留川正弘

部署品質目標

平成 20 年度

- ・ 接遇の向上
- ・ 緊急依頼受け入れ向上
- ・ 医療安全教育
- ・ ISO9001 更新に向けてマニュアルの整備
- ・ 職務要件書作成

平成 21 年度

- ・ 接遇の向上
- ・ 意欲・技術力を育てる環境づくり
- ・ 職務要件ラダーを用いた人事考課
- ・ 業務の細分化・明確化
- ・ コスト管理と採算管理

職員構成 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

臨床工学技士 8 人

認定資格

体外循環技術認定士 4 名
 呼吸療法認定士 2 名
 第 1 種 ME 技術実力検定試験合格 1 名

管理機器

平成 21 年 3 月 31 日現在

治療及び治療補助装置 <small>治療、刺激、環境維持、生体機能補助装置</small>	台数	診療及び診断補助装置 <small>生体現象測定記録、医用監視装置</small>	台数
人工呼吸器	43	患者監視装置	94
麻酔器・麻酔器用ベンチレーター	16	分娩監視装置	8
輸液ポンプ	262	経皮酸素炭酸ガスモニター	4
シリンジポンプ	130	パルスオキシメーター	46
電気・超音波メス	10	連続自動血圧測定装置	116
除細動器 (DC)	13	血流計	3
自動体外式除細動器 (AED)	8	深部体温モニタ	1
フットポンプ	23	酸素濃度計	2
低圧持続吸引器	6	SvO ₂ 連続心拍出量測定装置	7
ネプライザー	96	黄疸計	1
補助循環装置 (IABP)	3	血液凝固時間測定器	3
人工心肺装置	1	血管内エコー	3
心筋保護装置	1		
自己血回収装置	1		
経皮的な心肺補助装置 (PCPS)	1	合計	927
体外式ペースメーカー	9		
カンガルーポンプ	3		
コンプレッサー	5		
酸素テント	3		
保育器	6		

施設認定および施設基準

医療機器安全管理

業務実績

* 緊急呼び出し回数 388 回/年

区分/年度		19 年	20 年	
心臓外科手術 (人工心肺操作関連)	CABG	18 件	16 件	
	CABG (オフポンプ)	41 件	37 件	
	弁置換・形成術	24 件	24 件	
	大血管置換術	9 件	5 件	
	CABG+弁形成・置換術	6 件	5 件	
	その他	3 件	5 件	
合計		101 件	92 件	
緊急手術		12 件	11 件	
心臓カテーテル	CAG	581 件	705 件	
	PCI	466 件	721 件	
	EPS・ABL	80 件	52 件	
	PTA	116 件	53 件	
	その他	162 件	225 件	
合計		1,405 件	1,756 件	
緊急カテ		199 件	156 件	
ペースメーカー ICD・CRTD	植込み術	新規	58 件	65 件
		交換	25 件	40 件
	PM チェック		622 件	766 件
	ICD・CRTD チェック		94 件	111 件

医療機器安全管理勉強会開催

項目/年度	平成 19 年	平成 20 年
BLS・AED 関連	14 回	11 回
人工呼吸器	7 回	10 回
ME 機器関連	3 回	7 回
合計	24 回	28 回

科長 大久保渉

平成 20 年度総括と平成 21 年度の展望

臨床工学科血液浄化係の平成 20 年度は業務に熟練したスタッフの離脱と新入スタッフへの対応に影響をうけた 1 年でした。そういった中で業務に関しては入院透析 26.7%増、CHDF は前年度 44 件から 192 件と 77%増、全体をみても 4.3%増の業務実績を残すことが出来ました。すべてのスタッフが厳しい状況の中、努力と工夫を重ねこの様な成果を残すことが出来たのではないかと考えております。

「患者様第一主義」を常に念頭において業務の効率化、個々のスタッフの能力向上等による質の向上を目指したいと考えます。様々なピンチを少しでもチャンスに変えていけるように、スタッフ一同、奮闘、努力していきたいと思っております。

部署品質目標

平成 20 年度

- ・RO タンク内の消毒の実施
- ・細菌培養の実施
- ・白血球除去療法 (L-CAP/G-CAP) のマニュアル見直し
- ・血液吸着療法 (DHP/PMX) のマニュアル見直し
- ・持続的血液透析濾過法 (CHDF) のマニュアル見直し
- ・血漿吸着療法 (LDL) のマニュアル見直し
- ・血漿交換療法 (PE) のマニュアル見直し
- ・職務要件ラダーの確立

平成 21 年度

- ・学会発表 (2011 年 9 月 アフェレーシス学会)
- ・臨床工学科部門職務要件ラダーの施行
- ・臨床実習カリキュラムの作成・施行
- ・透析関連機器のメンテナンス計画書の作成・施行

職員構成 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

臨床工学技士 14 人

設置機器

透析コンソール	37 台
個人用透析コンソール	4 台
HDF 用コンソール	8 台
個人用 HDF コンソール	1 台
RO 水処理装置	2 台
多人数用透析液供給装置	1 台
透析液粉末自動溶解装置	1 台
特殊血液浄化装置	1 台
持続的血液浄化装置	1 台
エンドトキシン測定装置	1 台
細菌培養保管器	1 台

業務実績

サテライトクリニック (提携同グループ病院)
 エイトナイン内科クリニック

区分/年度	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
血液 透析	22,561	22,054	21,967
入院 透析	2,962	2,780	3,793
持続的血液浄化	48	44	192
血漿交換	14	16	7
白血球除去療法	21	15	21
血液吸着	15	10	37
血漿吸着	5	5	32
計	25,626	24,924	26,049

人工透析 (33 床)

臨床工学技士 5 名
 患者数 100 名

上尾中央腎クリニック

人工透析 (24 床)

臨床工学技士 5 名
 患者数 66 名

上記のサテライトクリニックの患者様の導入、シャント作成、手術時の入院透析、急変時を当院にて対応しています。

科長 佐藤美保

平成 20 年度総括と平成 21 年度の展望

平成 20 年度は、委託スタッフと協同し、食事の安全管理・教育への取り組みを積極的に推し進めた結果、誤配・異物混入件数減少率は、目標を上回る成果を出す事ができた。

また、職務要件書ラダーを新たに作成、運用を開始した事により、管理栄養士に求められているスキルを明確にし、チーム・個人に対する意識付けができた。

しかし、栄養指導の拡充として取り組んだ保健指導は、プロジェクトチーム（他部門との連携）において栄養科が担う役割を十分に示す事が出来ず、思うような結果に結びつけられなかった。

平成 21 年度は、今年度の結果を踏まえ、5S 活動に重点をおき、業務全般へ発展、展開させ、委託スタッフとの新たなチーム編成により、全員で取り組む基盤を作り、そこから生まれる相乗効果に期待したいと思っている。

また、新たに作成した個人目標チャレンジシートを運用、面接を実施し、個人の目指す技術・能力向上が、部署の品質目標達成へ確実に繋げていける体制を再構築していきたいと考えている。

部署品質目標

平成 20 年度

1. 食事患者安全教育と手順の確立
(安全管理報告件数減)
2. 情報共有による栄養管理・栄養指導の拡充と効率化（電子カルテの進捗状況を元に）
3. 管理栄養士ラダーの再構築
(適材適所の人材配置・教育マニュアル内容充実)

平成 21 年度

1. 電子カルテに向けた栄養管理・指導システム導入の推進
2. 5S 活動の発展（ソフトへの展開）
～食事の安全管理と教育
栄養指導内容組み直し～
3. 職務要件ラダーと個人目標シート活用による人事考課施行

職員構成（平成 21 年 3 月 31 日現在）

管理栄養士	7 人
委託職員栄養士	8 人
委託職員調理員	19 人

所属学会

日本栄養士会
日本病態栄養学会
日本静脈経腸栄養学会
日本栄養改善学会

認定資格

日本静脈経腸栄養学会
NST 専門栄養士 1 名

食数比率

一般食	62%	特別食	38%
-----	-----	-----	-----

業務実績

【栄養管理実施加算算定率 月平均】

	平成 19 年度	平成 20 年度
栄養管理実施加算	99.8%	99.9%

【栄養指導総件数】

分類/年度	平成 19 年度	平成 20 年度
入院栄養指導	1,941	2,174
外来栄養指導	890	768
人間ドック 栄養指導	340	334
調理実習	121	79

【その他の活動】

- ・NST 活動全般・NST 実地修練受入れ事務局担当
- ・褥瘡・緩和ケア・クリニカルパスチーム活動
- ・生活習慣病教室
- ・学会発表

科長 新井寛

部署品質目標

平成 20 年度

- ・ IS09001 及び P マーク 認定更新準備
- ・ 労働衛生サービス機能評価の更新準備
- ・ 勉強会の積極的実施+感染・リスク等

平成 21 年度

- ・ 接遇・医療安全の向上
- ・ 職務用件ラダー人事考課の試行
- ・ 各種マニュアル等の更新
- ・ 人材育成と専門分野教育研修会参加

職員構成 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

診療放射線技師	1 人
臨床検査技師	7 人
非常勤 (診療放射線技師)	12 人

認定資格

臨床病理二級 (生化・血液・細菌学)	1 名
--------------------	-----

設置機器

胸部撮影装置 (移動式)	3 台
X線TV装置 (移動式)	2 台
FDP胸部装置 (移動式)	1 台
心電計 (移動式)	6 台
眼底装置 (移動式)	2 台

施設認定および施設基準

- ・ 労働衛生サービス機能評価機構認定
- ・ P マーク 認定
- ・ IS09001-2000 認定

平成 20 年度学会・研修会参加実績

- ・ 埼玉放射線学術大会
- ・ 埼玉臨床検査学術大会
- ・ 全国衛生団体連合会精度管理講習会

平成 21 年度学会・研修会予定

- ・ 埼玉放射線学術大会
- ・ 埼玉臨床検査学術大会
- ・ 全国衛生団体連合会精度管理講習会

【その他の活動】

- ・ 巡回健診合同責任者会議
- ・ AMG 放射線合同研修会
- ・ 戸田 GI カンファレンス

業務実績

区分/年度		平成 20 年
放射線部門	胸部 (間接)	30,730
	胸部 (直接)	8,441
	胸部 (DR)	2,1065
	胃部 (間接)	6,504
	合計	66,740
検査部門	EKG	36,267
	眼底	2,522
	合計	38,789

平成 20 年度総括と平成 21 年度の展望

平成 20 年度は、4 月巡回健診技術科が発足した。労働衛生サービス・P マーク・IS09001 の更新をした。また、コスト削減の努力として非常勤技師 (診療放射線技師) コストの見直しをした。成果については、平成 21 年度に成果がでる。

平成 21 年度は、個人目標シートを用いた人事考課の試行 (職務用件ラダー: 発足) 予定、個人の能力・技術向上を期待している。

また、接遇・医療安全の向上、人材育成専門分野教育研修会の積極的な参加により、個人のスキルを向上させたい。

最後に、チームワークを大事にして連携を計り、円滑なる巡回健診を遂行したい。

事務部

事務部

【平成 20 年度の部門品質目標】

1. 患者満足度の向上
2. 救急医療体制の強化
3. 第三者評価の更新
4. 業務の効率化の推進
5. B館基本計画案作成
6. 人材育成の強化

【平成 20 年度総括】

患者満足度の向上については、接遇クレームの削減と外来予約センターの設立を目標とした。患者支援課とよろず相談・総務課の連携でわずかであるが減少傾向にある。今後も継続していく方針である。かねてからの外来予約センターは、外来医事課協力により順調に動き出した。今後は予約率 Up を目指す。

救急医療体制の強化については、医師当直・看護師の確保ができ、救急 ICU の施設基準を取得ができた。

第三者評価については、目標の 36 回の勉強会の達成はできなかったが、ISO9001 及び P マークの認証更新が行えた。

業務の効率化については、自動支払いシステムを導入し、成果が得られている。

B館基本計画案作成については、苦戦をしていたが、6社に対し、当院の方針を説明、次年度各社によるプレゼンテーションを予定。その後、業者決定後に建築委員会を定期的開催する予定である。

人材育成の強化は、事務部の各科の特性を踏まえたラダーができた。今後は事務部共通ラダーの作成に取り掛かる。

【平成 21 年度の目標】

1. 外来予約センターの充実
2. サービスの向上
3. 建築将来構想と推進
4. 業務の効率化の推進
5. 人材育成の強化
6. 地域連携の強化

(事務部長 斎藤雅彦)

患者支援課

【平成 20 年度の報告】

平成 19 年 10 月末、患者支援課が発足、同時に専任者が着任した。従来から、よろず相談所窓口や総務課（電話・メール・総合受付等）で、クレームの対応を行ってきたが、一時的な対応で解決に至らない案件について当課が共に対応し、後に当課が主体となって双方納得の行く解決を目指すこととした。

更に、院内 21 箇所に設置した、ご意見箱によるクレーム収集を合せて、クレーム対策・検討委員会が再編整備された。クレームの集計、要旨取りまとめ、改善への対案、情報の周知、活用、研修等での啓蒙活動を開始した。平成 20 年度は、数ヶ月の準備・助走を経て本格的活動の初年度となった。

1. 個別クレームの早期円満解決にむけて
 2. クレーム検討・対策委員会の運営
 - ・部門毎・委員会の集計と分析・対応
 - ・要旨のまとめ、関係部門への伝達、活用
 - ・ご意見箱からの回答
 3. 情宣・啓蒙活動
 - ・病棟外来責任者委員会
 - ・診療部科長会
 - ・上尾塾、AMG 看護師研修
 4. ADR 的対応・解決に向け諸研修受講
- 以上を業務目標として取り組んだ。
すべてが始めての経験であり、まずは規程を定め、手順を作り、試行錯誤の 1 年であった。

【平成 21 年度の目標】

基本的に上記 1. ～ 4. を踏襲し、夫々を深化・深耕していきたい。

- ・松村副課長が入職、全館の巡回を開始。
全職員とのコミュニケーションを計る。
- ・患者家族による詐害行為の予防、早期解決に注力し、全職員の正常な業務遂行を守る。

(課長 丸田宜利)

総務課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は IS09001 の更新及び P マークの更新も控えていたことから、文書の更新や課内勉強会開催、マニュアル追加整備を主に目標計画を立てた。

インストラクター輩出は 3 名研修会に参加させたが、合格者を出すことが出来なかった。次年度に再チャレンジし、1 名輩出していきたい。

課内勉強会については、開催月は計画通りではなかったが目標回数は達成した。次年度も勉強会を継続していく。

経費節減への取り組みについては、目標数字を立てて当課として取り組んではみたが、目標数字には程遠く、当課だけの取り組みでは解決することが出来なかった。結果としては、病院全体として取り組まなければ目標を達成することは難しいと判断し、今年度は断念し次年度に持ち越すことにした。

取引業者との再評価・秘密保持契約については計画通り目標を達成。新しい取引業者との取引が開始された段階で随時契約を取り交わしていく。

保育の質の向上については、現在の保育園から新しい場所へと新築移転することで、質が向上すると考え目標を立てたが、経営者の判断では質の向上とは判断できないとの評価であったため、次年度の目標に実際の運用面、保育内容の改訂を検討していくこととした。

【平成 21 年度の目標】

1. 接遇インストラクター 1 名輩出
2. 安全運転講習会の実施
3. SPD 委託業者とミーティング
4. ワークアウトの実施
5. 課内勉強会の実施
6. 園児増加による保育内容の見直し
(課長 平澤誠)

人事課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、新卒採用に関して特に薬剤師の採用が計画通りに進まなかった。要因としては、薬剤師養成課程の変更に伴い卒業生の著しい減少があげられます。次年度も卒業生の減少が続きますので、対策を練る必要があります。中途採用については、10 月以降特に事務採用試験への応募が増えた印象があります。これも景気悪化の影響があると考えられます。

IS09001 の更新審査、及び P マークの更新審査がありました。当課は個人情報も多く抱える部署であり準備に大変苦労しました。

事務部ラダー作成では、各部署の皆様にも多大なるご協力をいただき基盤が出来たと思います。さらに修正すべき点を洗い出し、より良い物へ進化させて行く必要があると考えます。

最後に課内勉強会の実施が計画通り実施出来なかった 1 年でした。人材育成の観点からも重要であり、次年度はしっかり取り組んでいく所存です。

【平成 21 年度の目標】

1. 医療の質向上に向けた採用活動
 - ・適正な採用計画の作成及び採用活動の実施
2. 業務改善の実践
 - ・ワークアウトによる業務改善の実施
 - ・時間外勤務の削減（年平均 20 時間以下へ）
3. 人材育成の強化
 - ・専門資格取得に関する規程作成
 - ・課内勉強会開催（年 6 回開催）
(係長 中山隆元)

経理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度目標の報告としては、ISO9001 及び P マークの更新審査ということで、マニュアル等の見直しに力を入れた。特に、6 月と 11 月に全マニュアルを総点検し最新版とした。

月次決算の迅速化については、1 ヶ月以内に完了という目標で取り組んだ。結果としては、決算業務、中間決算業務の関係で 5 月と 11 月が間に合わず、翌月となってしまった。

現金出納の正確化については、満足の行く結果が得られなかった。次年度の重点目標として、根本的に業務を見直す予定である。

元帳の電子媒体による管理は、富士ゼロックスのソフト（ドキュワークス）を使用、11 月より本格稼働となる。元帳等、紙ベースでの検索より格段の能率アップとなった。又、電子媒体での保存の為、今後は過去のデータの検索も可能となり、倉庫へ行って帳簿を探して調べるといった煩わしさから開放される。

研修会の実施も年 4 回、エクセル勉強会、金融関係勉強会、年末調整勉強会、経理研修会を行った。

今年度に関しては、現金出納の正確化を除き、概ね目標を達成した。

【平成 21 年度の目標】

1. 月次決算の迅速化
2. 現金出納の正確化
3. 研修会の実施
4. マニュアル等の見直し
5. インストラクターの養成

(課長 大前敏昭)

外来医事課

【平成 20 年度の報告】

【達成】

- 査定率の減少
- 勉強会の定期実施
- 業務ローテーションの実施

【改善の見られた事項】

- 未収金の発生防止
- 未収金の回収
- 時間外の削減

【未達成】

- 返戻率の減少
- 離職問題

【総括】

昨年度より引き続いた目標も多かったが、半分以上の目標が達成又は改善が見られる結果となった。【査定率の減少】については全ての月において目標値を大きく下回る結果となり、今後は、目標値ではなくキープライン値として設定値を下回らない様、努力が必要である。

未収金問題に関しては、第 3、4 四半期において改善がみられ、目標をクリアできる月が目立つ様になった。回収については、業務をルーチン化した事が改善へとつながったと考えられる。未達成項目については、引き続き改善に向けた取り組みが必要である。

【平成 21 年度の目標】

1. 外来予約センター人員の充足
2. 予約率調査の実施
3. 医事課業務改善（新業務フロー実施）
4. 人材育成（ラダー導入）
5. 離職問題
6. 待ち時間調査の実施

平成 21 年度の目標の中で、医事課業務改善が一番大きな課題となり、業務の効率化を図る上で修正が必要と感じました。

(課長 山根達弥)

入院医事課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度 4 月に行われた医療点数改正により、様々な業務変更や手順の作成に追われた。又、1 月から DPC の送信データの変更に伴う、業務手順の変更があり、なにかと多忙な年であった。

患者サービスの一環である「全退院患者の概算費用連絡体制の構築」を模索するも、多くの障害に阻まれ、構築には至らなかった事が非常に残念である。対外部署との連携がとりにくい現状も踏まえ、21 年度の目標として、自部署で改善計画した DPC コーディング可能職員の 3 名増員を立案した。

入院レセプトチェックツールの導入に関しては、時期通りの導入が出来たものの、満足の出来るチェック内容は得られなかった。具体的には、保険証の記号・番号の誤りが多く、返戻率上昇の要因となっており、それらに対するチェックが必要であった。しかしながらチェックツールには対応する仕組みがなく、結果は保険確認の担当を配置する事となり、業務軽減には至らなかった。

目標を高く設定していた訳ではないにも関わらず、未達成の目標が多くなってしまった。

次年度も目標として、視点を変換して達成努力する。

【平成 21 年度の目標】

1. 入院時医学管理加算の取得
2. 時間外削減
3. 人材強化（勉強会実施）
4. DPC 承認者の増員
5. 返戻率の減少
6. 査定率の減少

（主任 小池慎吾）

巡回健診課

【平成 20 年度の報告】

顧客満足の度合いを確認する為に、平成 20 年 10 月よりアンケートを実施した。顧客からの意見を毎週の定例ミーティングで共有し、課全体の質の向上に努めた。日を重ねる毎に、満足をいただける評価を頂戴した。

また、第三者評価として、当課限定の労働衛生サービス機能評価機構の更新審査があった。ISO9001 の更新審査、P マークの更新審査と重なり非常に大変な年であった。しかし、そのような環境もあって体制の見直しは勿論、マニュアルの更新もしっかり行えた。21 年度も PDCA サイクルで、より良い体制作り而努力する。

売上げに関しては、19 年度と比較して、6.5%増という実績が上げられた。これは、企業（顧客）の新規獲得があったが故である。社会情勢の厳しい世の中で、満足できる成果と考えている。

その他の目標では、残念ながら健診結果の報告期限 21 日以内が守れなかった。超過勤務時間の削減も必須な目標であり、顧客へは迷惑をかけてしまったとも感じている。結果処理でも特定健診の開始に伴い、業務量も増加していることは否めない中で、職員の努力は評価したい。

【平成 21 年度の目標】

1. 2 次検査及び精査の実態把握（紹介状）
健診受診者の追跡調査を行い、把握出来るようにする。
2. 結果報告の期限厳守
報告期限を 21 日以内として今年度は達成する。
3. 健診受診者の満足度の充実
4. 売上げ額の増加
5. 産業医を新任へ移行
6. 超過勤務時間の削減と制限
超過勤務最低 20%減を目指し、課を上げて全力で取り組む。

（係長 松森健悦）

健康管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は売上の向上と受診者満足度の向上、職員教育に焦点を当てた 1 年であった。

新規契約と既存契約の見直しを行いつつ、外部団体(健康保険組合・企業)との時代に合った契約内容を通し、金額調整や内容調整の充実を図った。

一方で受診者の要望(クレーム)を分析し、改善を行い、新たな形(婦人科検査室の設置)を作ることが出来たのは、既存施設での可能性を探る上でも意味が大きいことであった。

また、ISO9001 等でのマニュアルの更新も通常業務の見直しという上では、重要であるということ再認識できるものであった。

しかし、職員の教育については、「CMS 事務職認定試験」の合格率にも表れた通り成果があまり出なかった。これについては、職員一人一人の意識の問題もあるが、指導不足も要因の一つと考えられる。引き続き次年度以降の課題にもなった。

平成 21 年度には、人間ドック学会の『人間ドック健診施設認定機能評価』の更新を控えている。今年度の基盤の上に、今まで以上の目標を職員一丸で達成出来る様、努力していきたい。

【平成 21 年度の目標】

1. ドック健診施設機能評価、更新
2. 売上前年対比 1,000 万増
3. 業務改善(アンケートの実施)
4. 実務に即した勉強会
5. 特定保健指導契約獲得

(係長 栗田俊樹)

地域連携課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度の当課目標に対して、8 割程度は達成できたと考える。ただ、目標に対しての達成度にバラつきがあるため、課題は残ってしまった。

病診連携室では紹介患者数を月 950 名とした。第 1・第 2 四半期で当初目標を達成したため、月 1,050 名と上方修正を行った。その結果、下半期では未達成の月が目立った。だが初めて紹介患者数が月平均 1,000 件を超えた。

医療相談室では、入院患者の早期介入率 50%を目指した。月平均 40%強であったが、第 1 四半期では 30%弱の介入率であったものが、第 4 四半期で 50%を超えるまでになった。引き続き数値の管理を行っていく。回復期リハ病棟転棟時の介入は 100%達成できた。

介護保険相談室では要介護 3 以上の割合を 60%以上にでき、特定事業所加算申請を行い、承認された。県内 1,500 を超える居宅の中でまだ数ヶ所という快挙である。ケアプラン稼働率に関しては下り気味になってしまった。

地域包括支援センターでは、上尾市からの要請通り、年 4 回の介護予防教室を開催。次年度も上尾市内の包括の模範施設となるよう活動をしていく。

【平成 21 年度の目標】

1. 紹介患者数アップ
2. MSW 介入率アップ
3. 回復期リハ病棟在院日数短縮
4. 特定事業所加算 (I) 堅持
5. ケアプラン稼働率アップ
6. 各種教室開催
7. 課内勉強会実施

(主任 中山浩司)

施設課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度の目標として、(1)メンテナンスの予定と実施、(2)設備保全知識教育 (3)災害非常時における対応訓練の実施を目標に掲げた。

(1)に関しての実績としては、メンテナンスは年間計画通り行なわれた。予定表を確認しながら計画的に実施した事が良かった点だと思う。

(2)に関しては、各設備の取扱方法を習得していく教育だったが、全部が全部習得する事は難しいと言う事が分かった。新しい建物(A館)に関しては最新の図面(電気配線等)は存在し、それを基に勉強会を含む取扱方法はできた。しかし、古い建物(C、D、E、F館)については、図面が無かったりし、直接現場にて確認、機器の取扱を実践し習得するしかなかった。

(3)に関して、災害時の対応訓練であるが、昨今地震・落雷による停電等が発生して被害を被る事がある。特に、6月から7月にかけては落雷による停電が発生する事が多々ある。この災害に対しては、施設課員が今回力を入れて努力した項目であった。

次年度にも、この様な災害に対し教育・訓練を行なって行く計画を立てている。総合的にみて、少々反省点もあるが、満足のできた年度であった。

【平成 21 年度の目標】

1. メンテナンス予定と実施
2. 災害対策に配慮した安全教育
(火災報知設備・非常放送設備
給水設備の取扱)
3. 非常時の対応訓練の実施
(地震時・台風時・停電時の対処)
4. 専門知識向上に向けた自己啓発
(課長 徳永昭範)

文書管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、ISO9001 の更新審査、並びにPマークの更新審査があり、文書管理課にとっては大変な年となった。

また、勉強会を年 36 回開催し、ISO9001 並びに個人情報保護に関する勉強会を定期的で開催することを目標として掲げていたが、残念ながら勉強会を全て実施することはできなかった。これは非常に悔やまれるが、次年度の目標として勉強会を予定通りに開催することを目標として再提示していることに現れるように、勉強会こそが基礎になるということを踏まえて実施していく。

学会発表に関しては、目標として掲示したが、今回は発表する題材が選択できず、また言い訳がましいが参加する学会での発表演題ができなかったため、当年度は学会発表を見送った。この演題に関しては、次年度にも改めて目標として再掲示した。

その他目標に関しては、目標を達成しているが、目標を低めに設定したとか、定量的でない目標であるわけではないので、今年度に関しては、満足できた年度であったと考えている。

【平成 21 年度の目標】

1. ISO9001 サーベイランス (特別審査)
2. 内部監査員養成講座開催
3. 業務見直し手伝い
4. ISO9001 規格勉強会
5. Pマーク規格勉強会
6. 学会発表
7. 内部監査 (全部署)

前年度未達成だった目標に関しては、必ず達成させる。

(主任 土屋晃一)

情報管理部

情報管理部

【部門品質目標】

【平成 20 年度】

1. 電子カルテ導入による情報の共有化
2. 患者安全活動の推進
3. 感染対策に関する意識向上
4. 人材育成のための体制整備

【総括】

情報の共有化と業務の効率化を目的とした電子カルテの導入については、ハードの整備が遅れたこともあり、今年度の実現は達成できなかった。日程を見直し、継続して電子カルテ化に向けた準備を推進していく必要がある。

患者安全については、5 S活動を中心に診療・看護環境を整備するなど、目標としていたレベルには到達したと考える。

感染対策については、標準予防策の徹底から始まり、感染症の勉強会を通じ職員の意識は高まった。

【人材確保】

平成 20 年度中途入職	2 名
平成 21 年度新卒入職	4 名

【平成 21 年度目標】

1. 情報収集、情報提供の充実
2. 院内感染対策の意識・スキル向上に向けた取り組み
3. 患者安全活動の推進
4. がん診療拠点病院に準じた診療体制の整備

(情報管理部長代理 柿崎守光)

情報システム課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は次年度稼働に向けた電子カルテシステムと処置オーダーリングシステムの準備作業、それと放射線画像管理システムと循環器画像管理システムの導入を行った。

放射線画像管理システムの導入に伴い、フィルムレス運用が開始されたことは、業務の効率化に大きく寄与したものと考えられる。

次年度稼働予定だった電子カルテシステム導入は延期となったが、スケジュールの見直しを行い、処置オーダーリングシステムや他システムの構築も併せて検討する。今後も医療情報システム導入によるメリットを最大限活かせるよう努力していく。

【平成 21 年度の目標】

1. 処置オーダーの導入
2. 病理オーダー、部門システムの導入
3. 輸血オーダー、部門システムの導入
4. リハビリオーダーの導入
5. 服薬指導システムの導入

(係長 大坂剛彦)

医療情報管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、特に診療記録の保管・管理の徹底に力を入れ取り組んできた。

具体的には、医療情報管理課から持ち出す全ての診療記録に対し、借用書を発生させ所在管理の徹底に努たり、診療記録で長期保存を希望するものに対して、申請書の作成を徹底させるなど、中央管理体制の強化を実施してきた。

これらの取り組みから、物理的保管・管理は充実しつつあるが、データの作成・管理については、まだまだ課題が多い。

次年度から、院内がん登録も開始され、データの扱いについては、特に注力する必要があると考えている。クリニカルインディケータの充実も含めて次年度から、新たな取り組みを開始したい。

【平成 21 年度の目標】

1. 記録不備の改善
2. クリニカルインディケータの充実
3. 人材育成
4. データ整備
5. 診療記録の管理強化
6. 院内がん登録業務の推進

(岩井由美子)

感染管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は、「病院感染・職業感染対策のマニュアルの見直しと遵守強化」「サーベイランスによるベースライン把握と感染率低減」を部署目標に、一部マニュアルの改訂、手術部位感染サーベイランスのデータ収集、MRSA/緑膿菌/セラチア検出率の算出に取り組んだ。また、感染管理課の業務手順およびフローを整備することもできた。

第 3・4 四半期は、部署成員が研修のため不在の状況となり、設定した数値目標達成までは至らなかったが、ICT 部会や看護部の協力をいただき、データ収集および MRSA/緑膿菌/セラチア検出率算出は継続することができた。

【平成 21 年度の目標】

平成 20 年度評価をふまえ、継続事項と感染管理教育の強化を図るために、以下の目標について取り組んでいく。

1. 感染対策マニュアルの改訂・登録
2. ICT 部会と協働した年間教育の運用
3. 手術部位感染発生率の算出とフィードバック
4. 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランスの実施
5. 感染管理コンサルテーションシステムの確立

(課長 荒井千恵子)

医療安全管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は

①インシデント・アクシデントレポート分析による
各部署への改善要求の実施

②情報の共有化

③報告書作成の啓蒙に取り組んできた。

①に関しては、23 件の改善要求依頼を行ったものの、その後の継続的なフォローに課題を残した結果となった。②に関しては、院内 Web への掲載、看護業務部会等での情報共有の徹底、③に関しては隔月ではあるが、医療安全管理課便りを作成し、インシデント集計報告及び院内事例を病棟外来責任者委員会・診療部科長会で周知・啓蒙を行った。

また、5 S 活動では、業務改善委員会の協力のもと、各部署の積極的な活動がみられ、環境の改善を行うことができた。次年度は、上記のことを継続・充実させ、患者安全に取り組んでいきたい。

【平成 21 年度の目標】

1. 改善要求へのフォローアップ
2. 患者安全に関する意識の向上
3. リスク感性の向上

(課長 高柳克江)

組織管理課

【平成 20 年度の報告】

平成 20 年度は委員会活動の事務局としての役割が主な活動となった。各委員会で検討すべき課題の振り分けや議事録等の確認作業を実施した。

ISO9001 の更新に向けた支援事業としては、各委員会から提出された年間計画表に基づき委員会活動の進捗管理を実施した。しかし、いくつかの委員会では、年間計画の作成が滞ることがあり、目標管理・進捗管理が徹底されていないケースも散見された。次年度の改善すべき課題としてあげられる。

病院機能評価機構の評価項目に基づき、院内サーベイの企画・運営を行った。また、院内サーベイ後のフィードバックや改善状況の確認なども行った。

今後も基本的な業務に変わりはないが、上記のことを継続・充実させることを目標として医療の質改善に寄与していきたい。

【平成 21 年度の目標】

1. 各委員会からの書類確認・添削
2. AMG 医療の質向上委員会参加
3. 各委員会からの情報収集と提供
4. ISO9001 : 2008 に沿った
執行組織・委員会等の見直し
5. がん診療拠点病院の申請

(主任 黒須直美)

8. 各委員会活動報告

水曜会

活動目的	<p>組織運営において、最終的な意思決定機関を頂点としたヒエラルキーの確立は必要不可欠なものである。</p> <p>院内における様々な問題について、所轄の各委員会で討議され解決を試みるが、その委員会レベルで解決できない場合には当委員会に上申される。</p> <p>水曜会は、それら上申された諸問題を経営的・実務的な観点から討議し、最終的な決定を下す役割を担っている。</p>
構 成	<p>委員長：中村院長</p> <p>委 員：徳永院長代理 上野副院長 村松診療部部長 高沢診療部副部長 工藤看護部部長 木村看護部副部長 風間看護部副部長 齋藤事務部部長 福田事務部副部長 大塚事務部副部長 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 田中診療技術部部長 増田薬剤部部長 小林リハビリ技術科科長 小島検査技術科科長 山根外来医事課課長 大前経理課課長 平澤総務課課長 長岡交流渉外課課長 情報管理部責任者</p>
開 催 日	毎月 第4水曜日 17:30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年度基本方針について 2. 年次事業計画の承認 3. 人事昇給の承認 4. 外来予約センターの設置について

執行責任者委員会

活動目的	<p>当委員会は、上申された諸問題の執行に関する会議として、また、各部門において目標実施計画の進捗管理を行う会議として、実務的な観点から討議し、執行に関する諸問題の最終的な判断を下す会議とする。但し、経営的な諸問題については、当委員会で討議した後、最高意志決定機関である水曜会へ上申することとしており、院内の執行に関する諸問題を解決する目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：徳永院長代理</p> <p>委 員：上野副院長 村松診療部部長 高沢診療部副部長 工藤看護部部長 風間看護部副部長 木村看護部副部長 齋藤事務部部長 福田事務部副部長 大塚事務部副部長 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 田中診療技術部部長 増田薬剤部部長 小林リハビリ技術科科長 情報管理部責任者</p>
開 催 日	毎月 第2木曜日 18:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年次事業計画の策定 2. 部門別年度品質目標実施計画の策定 3. 四半期毎の品質目標実施計画の進捗管理について 4. G館・B館整備計画について 5. 個人情報保護に関する情報交換

病棟外来責任者委員会

活動目的	<p>院内の様々な、実務的な諸問題に対して、各病棟・外来の責任者は様々な情報を得ておく必要があり、病院幹部間の情報の共有化は不可欠なものである。また、院内の実務的な諸問題についても検討しなければならない。</p> <p>これらを念頭に、水曜会や他の基幹委員会の決定を病棟・外来に広く周知徹底させ実務における諸問題を解決することを目的とする。</p>
構 成	<p>委員長：徳永院長代理 委 員：中村院長 上野副院長 村松診療部部長 高沢診療部副部長 工藤看護部部長 風間看護部副部長 木村看護部副部長 齋藤事務部部長 福田事務部副部長 大塚事務部副部長 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 増田薬剤部部長 各病棟診療責任者 各外来診療責任者 各病棟看護責任者 各外来看護責任者 各診療技術部責任者 各情報管理部責任者 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 丸田患者支援課課長</p>
開 催 日	毎月 第2月曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各部署・委員会からの報告 2. 高濃度カリウムならびにキシロカイン製剤に関する規程の周知 3. 禁煙について 4. 安全管理報告書・患者からの意見の集計報告

診療部科長会

活動目的	<p>院内の様々な経営的、実務的な諸問題に関して、各診療科の責任者は様々な情報を得ておく必要がある。また病院幹部間の情報共有化は不可欠なものである。これらも念頭に、水曜会の決定を診療部に広く周知徹底される目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：中村院長 委 員：中村会長 水村エイブイクリニック院長 徳永院長代理 上野副院長 村松診療部部長 高沢診療部副部長 各診療科責任者 工藤看護部部長 風間看護部副部長 木村看護部副部長 齋藤事務部部長 福田事務部副部長 大塚事務部副部長 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 田中診療技術部部長 増田薬剤部部長 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 長岡交流渉外課課長 高柳医療安全管理課課長 丸田患者支援課課長 間山交流渉外課主事 院長秘書</p>
開 催 日	毎月 第4月曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入院数、救急車受け入れ件数、入院・外来の延べ患者数、剖検数、CT・RI 撮影件数等の分析 2. 科別入院時検査外来実施率の分析 3. H20 年度診療部目標について 4. 安全管理報告書・患者からの意見の集計報告

患者安全対策委員会

活動目的	<p>医療行為を行う際、不幸にも医療事故と称される予期し得ない事態が発生する場合があります。医療行為は人間が行うものであり、医療事故は避けることの出来ないものである。しかし、医療事故を減らすべく努力を怠ることは許されるものではなく、医療従事者は個人として患者の安全を最優先に考え行動するべきであるが、この問題は組織全体で取り組みがなされるべきであり、組織横断的な検討を行うべく、当院において医療事故を未然に防止し、安全かつ適切な医療を提供する目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：宮内外科科長 委 員：徳永院長代理 村松診療部部長 高沢診療部副部長 井上内科科長 古川産婦人科科長 矢吹脳神経外科科長 江口麻酔科医長 工藤看護部部長 高橋(健)看護部科長 平井看護部科長 餅原看護部科長 指出看護部科長 高柳医療安全管理課課長 荒井感染管理課課長 齋藤事務部部長 福田事務部副部長 大塚事務部副部長 塩沢事務部次長 増田薬剤部部長 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 丸田患者支援課課長 他 15名</p>
開 催 日	毎月 第1火曜日 17:30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理報告書の集計報告 2. 院内勉強会について 3. 緊急放送コードの改定について 4. 周術期 VET ガイドラインの運用について 5. 医療安全記事より事例検討

感染対策委員会

活動目的	<p>院内感染症の発生は、時として組織の崩壊を招きかねない極めて重要な問題であり、これらに対する検討もなされる必要がある。感染リスクの低減を図るために、各部門の職員を対象とした感染防止についての教育や情報の提供が重要であり、感染疾患を予防し、対策を実施する仕組みなどの体制整備と構築を目的として活動している。</p>
構 成	<p>委員長：村松診療部部長 委 員：中村院長 徳永院長代理 上野副院長 海田整形外科副科長 黒沢小児科科長 矢吹脳神経外科科長 工藤看護部部長 木村看護部副部長 小山看護部科長 高橋(健)看護部科長 香川看護部係長 増田薬剤部部長 小倉薬剤部主任 加藤薬剤師 小島検査技術科科長 肥留川臨床工学科科長 松本検査技術科主任 齋藤事務部部長 比留間外来医事課係長 長井総務課主任 高柳医療安全管理課課長 荒井感染管理課課長 外部委員：タップ 泰成産業 飯田科長 (AML)</p>
開 催 日	毎月 第2木曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染情報レポートの分析 2. 特定抗生物質使用状況の分析 3. 感染対策マニュアルの改定 4. バンコマイシン耐性腸球菌のアウトブレイクに対する対策 5. 多剤耐性緑膿菌のアウトブレイクに対する対策

診療委員会

活動目的	<p>院内の一般診療に関する諸問題を報告し、討議する目的で水曜会所轄委員会の一つとして診療委員会を置く。所轄委員会から上申された諸問題を討議し、執行責任者委員会へ上申する基幹委員会である。</p>
構 成	<p>委員長：上野副院長 委員：中村院長 徳永院長代理 村松診療部部长 高沢診療部副部长 工藤看護部部长 齋藤事務部部长 福田事務部副部长 大塚事務部副部长 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 増田薬剤部部长 各病棟診療責任者 各外来診療責任者 各診療技術部責任者 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 長岡交流渉外課課長 中山人事課係長 栗田健康管理課係長 松森巡回健診課係長 比留間外来医事課係長 三上外来医事課係長 稲葉外来医事課係長 小池入院医事課主任 大坂情報システム課係長</p>
開催日	毎月 第4月曜日 19:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所轄委員会からの報告 2. 入院時医学管理加算の施設基準取得のための検討 3. 死亡診断書記載マニュアル改定の検討 4. 後期高齢者総合評価記載基準の検討

救急医療委員会

活動目的	<p>日本の救急患者発生頻度は人口 10 万人あたり 1 日平均で一次救急患者が 150 人（比較的軽度の容態の救急患者）、二次救急患者が 5 人（入院を要するような重症患者）三次救急患者 1 人（生命に危険のあるより重篤な患者）の割合で発生するとされている。これは都市部でもそれ以外の地域でもほぼ平均している。</p> <p>当院は、上尾市立病院を引き継いだ形で発足した経緯と現在の地域からのニーズがあり、一次救急・二次救急さらには一部三次救急医療を担っているのが現状である。これらの諸事情を踏まえての救急患者受け入れをマネジメントすることは容易ならざるものであり、これに集約的な検討をすることを目的に活動している。</p>
構 成	<p>委員長：矢吹脳神経外科科長 委員：上野副院長 村松診療部部长 橋本生活習慣病センター長 黒沢小児科科長 華山心臓血管外科科長 海田整形外科副科長 平田麻酔科副科長 小林循環器科副科長 瀧内科医師 竹中内科医師 工藤看護部部长 平井看護部科長 高橋(健)看護部科長 谷島看護部科長 菅原看護部科長 滝沢看護部係長 香川看護部係長 金子看護部係長 大川原看護部係長 佐々木看護部主任 齊藤検査技術科主任 酒井放射線技術科主任 大島薬剤部主任 塩沢事務部次長 中山外来医事課主任 他 2 名</p>
開催日	毎月 第3金曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月別救急室患者入院数、重症入院患者内訳、救急車受入状況、救急車断り件数・分類等の分析 2. 紹介患者の受け入れについて検討 3. 揮発性薬剤服用患者に対する対応について検討 4. ホットライン受け入れ時対応マニュアルの改定 5. 救急 ICU 業務規程の作成

医療の質向上委員会

活動目的	<p>現代の医療はソフト面ハード面を問わず日進月歩であり、絶えず進化し続けているのは言うまでもない。このようにあらゆる意味で進化し続ける医療環境の中で、その医療の現場の担い手である我々上尾中央総合病院職員は、その質を維持させることだけに汲々としているだけでは淘汰される運命にあるといっても過言ではないと考える。</p> <p>“医療の質”という言葉の意味するところは、非常に広範囲な内容を含んでおり、一言では言い表せるものではない。</p> <p>この極めて重要かつ難解、そして実践困難と思われる問題に積極的に取り組むことは当院の理念を達成する上で不可欠なものと考えます。</p> <p>医療の質向上に向けた諸問題を討議する目的として医療の質向上委員会を置く。</p>
構 成	<p>委員長：村松診療部部長 委 員：徳永院長代理 井上内科科長 宮内外科科長 大塚整形外科科長 藤岡麻酔科科長 工藤看護部部長 風間看護部副部長 木村看護部副部長 野崎看護部科長 増田薬剤部部長 田中診療技術部部長 小林リハビリ技術科科長 肥留川臨床工学科科長 佐藤栄養科科長 小島検査技術科科長 齋藤事務部部長 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 小池入院医事課主任 土屋文書管理課主任 岩井医療情報管理課員 他 2 名</p>
開 催 日	毎月 第 4 土曜日 8：00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 院内サーベイの実施 2. 疾患別患者数、診療の質、再入院率、死亡統計等の分析 3. 入院時医学管理加算の施設基準取得のための検討 4. がん診療連携拠点病院指定に向けた検討

輸血委員会

活動目的	<p>当委員会は、現代医療において輸血療法は極めて有用かつ必要不可欠な治療法であるという見解であるが、この治療法は、発生頻度は少ないとはいえ様々な副作用や合併症、あるいは事故が発生する可能性を秘めた治療法であることから、輸血療法の副作用や合併症の調査ならびに情報収集に関すること、輸血療法における事故の予防、ならびにそれに関する啓蒙、輸血・血液製剤投与に関する計画と実施など、血液製剤の管理についての諸問題を解決する目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：高沢診療部副部長 委 員：中熊外科副科長 平田麻酔科副科長 泉福内科医長 風間看護部副部長 岩屋看護部係長 高田看護部係長 佐藤看護部主任 高橋看護部主任 黒須看護師 小島検査技術科科長 清水検査技術科員 長谷川検査技術科員 吉野検査技術科員 神谷薬剤師 落合堂事務部次長 森田入院医事課主任 齊藤総務課主任</p>
開 催 日	2ヶ月に1回 第4火曜日 17：30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血副作用件数の分析 2. 輸血後感染症検査実施への取り組みについて検討 3. HIV 結果の取り扱いについて検討 4. 院内巡視の実施 5. 日本輸血・細胞治療学会認定の I&A 受審について検討

薬剤適正使用委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は高度医療・急性期医療を行っており、更には臨床研修指定病院・医療機能評価機構認定病院として、教育あるいは医療の質の向上の面からも、薬剤使用に関わるマネージメントは重要な問題である。</p> <p>また、薬剤の専門家である薬剤師と、薬剤を使用する医師、また、薬剤の投与に関して重要な位置をしめる看護師との連携は密接なものであるべきであり、これらの各部署同士の意思疎通・議論等が行われることこそが、薬剤による治療に関して必要欠くべからざるものとする。</p> <p>これら、薬剤使用に関する諸問題を討議する目的で薬剤適正使用委員会を設置する。</p>
構 成	<p>委員長：村松診療部部長</p> <p>委 員：徳永院長代理 上野副院長 井上内科科長 宮内外科科長 古川産婦人科科長 黒沢小児科科長 小林循環器科副科長 土肥看護部科長 滝沢看護部係長 香川看護部係長 金子看護部係長 土屋看護部主任 増田薬剤部部長 新井薬剤部副部長 小倉薬剤部主任 小島検査技術科科長 福田事務部副部長 比留間外来医事課係長 三上外来医事課係長 荒井感染管理課課長</p>
開 催 日	毎月 第3木曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定抗生物質使用患者数の分析 2. 抗生剤の適応外使用について検討 3. 特定抗生物質使用手順・抗 MRSA 薬使用届及び TDM 依頼表の改定 4. 病棟配置抗生物質の検討 5. 薬剤感受性セットの見直し

抗癌剤専門部会

活動目的	<p>医療の現場において、抗癌剤治療を行うにあたり薬剤使用に関するルールの明確化が必要である。特に、上尾中央総合病院は高度医療・急性期医療を行っており、更には臨床研修指定病院・医療機能評価機構認定病院として、教育あるいは医療の質の向上の面からも、抗癌剤投与に関わるマネージメントは重要な問題である。また、抗癌剤の専門家である薬剤師と、抗癌剤を使用する医師、また、抗癌剤の投与に関して重要な位置をしめる看護師との連携は密接なものであるべきであり、これらの各部署同士の意思疎通・議論等が行われることこそが、抗癌剤投与による治療に関して必要欠くべからざるものとする。</p> <p>これら、抗癌剤治療に関する諸問題を討議する目的で薬剤適正使用委員会の所轄会議の一つとして抗癌剤専門部会を置くこととする。</p>
構 成	<p>委員長：古川産婦人科科長</p> <p>委 員：西川消化器科科長 大崎耳鼻科科長 佐藤泌尿器科科長 黒沢小児科科長 中熊外科副科長 泉福内科医長 土肥看護部科長 金子看護部係長 土屋看護部主任 鈴木看護師 竹波看護師 伊藤看護師 馬場看護師 増田薬剤部部長 中野薬剤部主任 神谷薬剤師 比留間外来医事課係長</p>
開 催 日	毎月 第1金曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学療法施行状況報告 2. プロトコールの見直し 3. 抗癌剤使用登録医師の更新 4. 中心静脈・動注ポートの自己抜針について検討 5. 抗癌剤血管外漏出時対応マニュアルの作成

N S T 委員会

活動目的	<p>NST(Nutrition Support Team : 栄養サポートチーム)部会は、病態管理をする医師、直接患者に接する機会の多い看護師、必要量や摂取量を評価し経腸・経口栄養を調整提供する管理栄養士、薬の副作用・薬効・点滴等の管理をする薬剤師などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い最良の方法で栄養支援する部会のことである。</p> <p>NST は、当院において、入院時又は、入院中の患者の栄養評価を行い、栄養状態の低下している患者に対して、適切かつ質の高い栄養管理の選択・提供により、患者の回復を高め、疾病治療、感染予防、褥瘡予防、早期離床、在院日数の短縮に貢献する事を目的とする。</p>
構 成	<p>委員長：徳永神経内科科長 委 員：橋本生活習慣病センター長 石黒形成外科科長 中熊外科副科長 栗田外科医師 魚住内科医師 新井看護部科長 渡辺看護部主任 貴志看護師 野口看護師 藤本薬剤師 石岡薬剤師 佐藤栄養科科長 小林検査技術科主任 柴田検査技術科員 柿沼リハビリ技術科員 川島栄養科主任 長岡栄養科主任 福田事務部副部長 駒井入院医事課主任</p>
開 催 日	毎月 第3火曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. NST 回診の実施 2. アウトカムの評価に向けてのデータ収集について検討 3. 後期高齢者退院時栄養・食事管理指導料の算定について検討 4. NST 実地修練の受け入れ 5. 教育施設カリキュラムの見直し

病院食改善委員会

活動目的	<p>病院食改善部会は、患者のより良い栄養状態を維持するため、病院食の味・香り・彩り・盛り付けの改善・新サービスの企画などに取り組み、食事に対する満足度を向上させる為の部会である。入院生活における食事は唯一とも言える楽しみであり、これを充実させることは多くの入院患者が要求していることである。当部会は、これらのニーズに応えることを最大の目的として病院食改善に向けて活動している。</p>
構 成	<p>委員長：西川消化器科科長 委 員：前山看護部主任 高橋看護部主任 中島看護部主任 佐藤栄養科科長 白石栄養科係長 柿沼リハビリ技術科員 泉栄養士 長岡栄養科主任 青木栄養士 福田事務部副部長 中山人事課係長 外部委員：日清医療食品</p>
開 催 日	毎月 第2火曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別メニューの実施に伴う現状調査と改善 2. 嗜好調査アンケートの実施と結果分析 3. 異物混入誤配件数の分析 4. 延食の対応について検討 5. 食事指示・変更マニュアルの改定

手術室運営委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は急性期医療・高度医療の担い手として地域からの期待と要求を担っている。その中で、急性期医療・高度医療を実践する上で極めて重要な役割を演ずるのが手術室である。手術室の運営如何によって、その組織における急性期医療、そして、高度医療のレベルが左右されるといっても過言ではない。</p> <p>当委員会は、この極めて重要な手術室の円滑な運営をはかることを目的として日々活動している。</p>
構 成	<p>委員長：藤岡麻酔科科長 委 員：徳永院長代理 村松診療部部長 宮内外科科長 矢吹脳神経外科科長 大塚整形外科科長 富田歯科口腔外科科長 華山心臓血管外科科長 石黒形成外科科長 古川産婦人科科長 大崎耳鼻科科長 佐藤泌尿器科科長 平田麻酔科副科長 高草木眼科医師 工藤看護部部長 高橋(健)看護部科長 菅原看護部科長 高橋看護部係長 佐藤看護部係長 小川看護部主任 関根看護部主任 原看護部主任 佐々木看護部主任 新井薬剤部副部長 松本臨床工学科係長 大塚事務部副部長 小池入院医事課主任 中山人事課係長 腰塚情報システム課員</p>
開 催 日	毎月 第1火曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術室使用実績及び分析 (麻酔別件数・診療科別件数・感染症症例件数) 2. 手術料による実績評価 (前年度比・前月比) 3. 手術室におけるインシデントレポート分析 4. 手術枠の再編成について検討 5. 手術関連機器購入について検討

集中治療室運営委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は急性期医療、そして、高度医療の担い手として地域からの期待と要求は大いなるものである。急性期医療、そして、高度医療を実践する上で極めて重要な役割をするのが集中治療室である。集中治療室の運営如何によって、その組織における急性期医療、そして、高度医療のレベルが左右されるといっても過言ではない。</p> <p>地域のニーズに答えるべく、集中治療室を運営するためには、スタッフの配置や設備・機器等の整備、ならびに感染管理・清掃管理などについて体制を整える必要がある。当委員会は、この極めて重要な集中治療室の円滑な運営をはかることを目的に活動している。</p>
構 成	<p>委員長：藤岡麻酔科科長 委 員：上野副院長 矢吹脳神経外科科長 斉藤循環器科科長 華山心臓血管外科科長 江口麻酔科医長 平井看護部科長 高橋(健)看護部科長 菅原看護部科長 田島看護部係長 木下看護部主任 新井薬剤部副部長 清水・高橋ベッドコントローラー 中山臨床工学科主任 福田事務部副部長 中山人事課係長 井上入院医事課員</p>
開 催 日	毎月 第4水曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集中治療室使用実績及び分析 (入室患者数・平均在院日数・疾患名) 2. 保険請求額による実績評価 (前年度比・前月比) 3. 人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプの使用状況報告 4. 集中治療室カンファレンス参加実績報告 5. ベッドコントロールの適正化に関する検討 (適切な後方ベッドへの移行など)

DPC 委員会

活動目的	DPC 導入にあたり、DPC 制度に関する院内啓蒙活動や DPC 導入後のメリット（医療の質の標準化、質の管理面、医業収益の変化等）や、戦略的な請求・収益管理に向けた DPC コーディングのための院内体制整備などを行い、色々な角度から D P C を分析・解析・評価し問題点などを抽出し、改善をはかることを目的として活動をしている。
構 成	委員長：矢吹脳神経外科科長 委 員：徳永院長代理 村松診療部部長 井上内科科長 宮内外科科長 大塚整形外科科長 長田病理科科長 平田麻酔科副科長 江口麻酔科医長 工藤看護部部長 高橋(玲)看護部科長 岩屋看護部係長 小川看護部主任 土屋看護部主任 大島薬剤部主任 小林リハビリ技術科科長 野本検査技術科係長 鹿又放射線技術科係長 塩沢事務部次長 中山地域連携課主任 岩井医療情報管理課員 他 10 名
開 催 日	毎月 第 1 土曜日 8：00～
活動報告	1. DPC データ解析（診療報酬・平均在院日数・日当点など） 2. 医薬品状況報告 3. リハビリテーション実施状況報告 4. MDC6 別症例分析 5. 医療材料費支出分析

クリニカルパス委員会

活動目的	クリニカルパスは、医療の質向上・看護の質向上・情報の共有化・経営効率のアップなど、様々な面からきわめて重要である。また、地域において、医療の質を落とさずに入院による在院日数を短縮し、開業医からストレスなく紹介患者を受け、その後かかりつけ医へ逆紹介する地域連携システムを構築するため、入院前後にわたって情報を共有化することが必須となってきている。 今後の地域連携パスや疾患別診療ネットワークの構築も視野に入れ活動している。
構 成	委員長：大塚整形外科科長 委 員：徳永院長代理 華山心臓血管外科科長 泉福内科医長 松下消化器科医長 工藤看護部部長 高橋(玲)看護部科長 指出看護部科長 佐藤栄養科科長 鹿又放射線技術科係長 干場リハビリ技術科係長 穴原検査技術科係長 堀越薬剤部主任 落合堂事務部次長 山根外来医事課課長 比留間外来医事課係長 森田入院医事課主任 大野地域連携課員 大坂情報システム課係長 岩井医療情報管理課員 高橋医療情報管理課員
開 催 日	毎月 第 3 土曜日 8：00～
活動報告	1. クリニカルパス作成基準の作成 2. クリニカルパス使用手順の作成 3. バリエーション分析に関する勉強会 4. クリニカルパス大会に企画・運営 5. クリニカルパス作成支援

褥瘡対策委員会

活動目的	<p>現在、日本において褥瘡患者の70%が病院で発症し、その50%は1ヶ月以内に発症しているとされている。様々な原因で褥瘡は発症するが、治療だけでなくその予防や再発予防も含めた管理が必要であると認識している。院内において褥瘡回診チームの発足や褥瘡対策に関するマニュアルなどを作成・周知させることで、褥瘡に対するナレッジマネジメントの実践を目的としている。</p>
構 成	<p>委員長：高橋脳神経外科副科長 委 員：石黒形成外科科長 新井看護部科長 野崎看護部科長 吉野看護部主任 堀籠看護部主任 入澤看護部主任 松本看護部主任 大橋看護師 長岡栄養科主任 川野検査技術科主任 川辺リハビリ技術科員 藤本薬剤師 斉藤薬剤師 福田事務部副部長 駒井入院医事課主任</p>
開 催 日	毎月 第2木曜日 8:15～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡対策マニュアルの改定 2. 褥瘡回診 3. 褥瘡保有率の把握と分析 4. 日常生活自立度別入院患者数およびマット使用状況等の把握 5. 創傷管理に関する勉強会の実施

労働安全衛生委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院が地域の基幹病院としての役割を全うするため、組織として職場における労働者の安全や健康を確保することは非常に重要であると考えている。これらの考えから、快適な職場環境を構築するため、労働災害防止基準の確立や責任体制の明確化、自主的活動の促進など、労働安全に関する諸問題を検討・改善することを目的として活動を進めている。</p>
構 成	<p>委員長：向山人間ドック科科長 委 員：徳永院長代理 工藤看護部長 高橋看護部係長 神谷薬剤師 佐々木放射線技術科科長代理 川野検査技術科主任 金井リハビリ技術科主任 山崎臨床工学科主任 落合堂事務部次長 平澤総務課課長 栗田健康管理課係長 宝田人事課主任 為貝巡回健診課主任 中山外来医事課主任 荒井感染管理課課長</p>
開 催 日	毎月 第4木曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. HBV・インフルエンザワクチン接種率の向上 2. 院内職場巡視 3. 各種抗体価測定促進（麻疹・風疹・ムンプス・水痘） 4. 針刺し事故に関する情報収集および分析 5. 過重労働について検討

人材育成委員会

活動目的	<p>病院組織において最も重要な要素は人材である。人材は育成していくものであり、これを蔑ろにすることは医療の質の低下、組織の衰退につながるといっても過言ではない。</p> <p>上尾中央総合病院は、安全な医療の提供や患者満足度を向上させるためにも積極的な教育が必要であると考えます。</p> <p>当委員会は、病院の理念である「愛し愛される病院」を実現するために、臨床・倫理・接遇などあらゆる要素の人材育成推進を目的に活動している。</p>
構 成	<p>委員長：徳永院長代理</p> <p>委 員：橋本生活習慣病センター長 井上内科科長 長田病理科科長 華山心臓血管外科科長 工藤看護部部長 風間看護部副部長 菅原看護部科長 高橋(健)看護部科長 斎藤看護部係長 佐々木看護部係長 新井薬剤部副部長 田中診療技術部部長 小林リハビリ技術科科長 小島検査技術科科長 齋藤事務部部長 山根外来医事課課長 小谷外来医事課主任 中山人事課係長 松森巡回健診課係長 土屋文書管理課主任 秋本総務課主任</p>
開 催 日	毎月 第3月曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種職員教育に関する企画（患者安全・感染対策・倫理に関する研修など） 2. 各部門・部署のキャリアラダーの作成 3. 院内における各認定の承認 4. 人材育成に関する部会活動の管理・支援

一時救命処置普及委員会

活動目的	<p>Basic Life Support (BLS) とは一般市民が行なうことのできる1次救命処置であり、Advanced Life Support (ALS) とは高度の医療処置を含む2次救命処置のことである。この2つから成り立つものが心肺蘇生法 (Cardio-Pulmonary Resuscitation : CPR) と定義され、医療現場において重要な処置のひとつとしてあげられる。</p> <p>上尾中央総合病院は二次救急医療機関であり、多くの急性期患者を抱えている。当院では、多くの医師、看護師、医療従事者が心肺蘇生法をマスターし、院内患者急変など緊急時にすばやく対処できるような教育と体制作りを目標としている。</p> <p>これら、救命処置の技術取得や処置に関する諸問題を討議する目的で人材育成委員会の所轄会議の一つとして活動している。</p>
構 成	<p>委員長：華山心臓血管外科科長</p> <p>委 員：矢吹脳神経外科科長 田村麻酔科医師 荒牧外科医師 香川看護部係長 金子看護部係長 池田看護部主任 小笠原看護師 新井看護師 新井薬剤部副部長 中山臨床工学科主任 藤井放射線技術科主任 岩佐リハビリ技術科員 吉成検査技術科主任 塩沢事務部次長 小谷外来医事課主任</p>
開 催 日	毎月 第2金曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. AED 導入に向けた活動 2. 一次救命に関する教育・普及活動 3. BLS に準じた院内資格認定制度の検討 4. 一次救命トレーニング用ファントム導入に関する検討 5. BLS・ACLS等の資格取得者の把握・管理

臨床研修委員会

活動目的	<p>医療界において、医師の育成は最重要課題のひとつであり、上尾中央総合病院もその課題に取り組むことは高度医療を実践する指導的立場にある大規模病院としての責務であると考え。当院はその意識のもと、臨床研修指定病院の認定を受け、臨床研修医の受け入れを積極的に行い、その育成に寄与するものである。</p> <p>当院が目標とするのは、専門性の高いスペシャリストの養成ではなく、広い視野を持ったゼネラリストの養成であり、なおかつ、スペシャリストへの道筋を閉じることなく、光明の見出せる教育である。これらを実践すべく、臨床研修医に関する様々な問題点を検討解決する目的で日々活動している。</p>
構 成	<p>委員長：長田病理科科長 委 員：徳永院長代理 上野副院長 藤岡麻酔科科長 井上内科科長 黒澤小児科科長 綾部放射線科科長 華山心臓血管外科科長 富田歯科口腔外科科長 菅原内科医師 菅原看護部科長 佐々木看護部係長 増田薬剤部部長 北村リハビリ技術科主任 新井薬剤部副部長 塩沢事務部次長 中山人事課係長 外部委員：牛尼院長(開業医)</p>
開 催 日	毎月 第2火曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研修医の招聘活動 2. 臨床研修医の教育プログラムの見直し 3. 研修医勉強会の支援 4. 臨床研修の見学に関する見学者評価票の作成 5. 臨床研修指導医の育成

学術委員会

活動目的	<p>院内外で行なわれた勉強会または研修会、学会や研究会発表の成果は、活動成績として記録に残し、業績として取りまとめ、業績集や病院年報として作成されるべきであり、誰もがが必要な場合には、すぐ閲覧できるように整備する必要がある。これまで臨床研修委員会や、総務課でこれらの業務を担当してきたが、十分な検討がなされず今日に至っている。これら、学術に関する諸問題を討議する目的で人材育成委員会の所轄会議の一つとして発足し活動している。</p>
構 成	<p>委員長：橋本生活習慣病センター長 委 員：上野副院長 綾部放射線科科長 長田病理科科長 高橋(健)看護部科長 菅原看護部科長 佐々木看護部係長 新井薬剤部副部長 松本臨床工学科係長 小林放射線技術科係長 熊谷臨床工学科係長 青木リハビリ技術科主任 小林検査技術科主任 川島栄養科主任 落合堂事務部次長 中山人事課係長 山崎総務課員</p>
開 催 日	毎月 第1水曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 院内学術研究発表会の企画・運営 2. 職員学術活動の評価・管理 3. 院内伝達講習に関する推進活動

業務改善委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は、旧態依然とした業務形態の抜本的な見直しを図り、業務の無駄をなくし効率化を図るために、「ISO9001」「プライバシーマーク」認定を業務改善のツールとして取り組んできた。</p> <p>これら2項目はそれぞれにおいて関連する箇所が多く、同時進行をすることで取得に関する業務の無駄を省くことができ、病院の改善にもつながる。また、病院機能評価受審も同じようにその内容において、重複、あるいは、相似・相当する部分が数多くある。</p> <p>当委員会は、上記3項目を同時進行するプログラムを立案し、諸問題を解決することを目的として活動している。</p>
構成	<p>委員長：高沢診療部副部長</p> <p>委員：黒沢小児科科長 工藤看護部部長 木村看護部副部長 野崎看護部科長 指出看護部科長 岩屋看護部係長 高橋看護部係長 大島薬剤部主任 肥留川臨床工学科科長 干場リハビリ技術科係長 佐藤栄養科科長 白井栄養科係長 穴原検査技術科係長 土岐放射線技術科員 大塚事務部副部長 山根外来医事課課長 土屋文書管理課主任 平澤総務課課長 中島医療情報管理課員</p>
開催日	毎月 第4水曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISO9001・プライバシーマーク認定維持に関する取り組み 2. 院内ワークアウト大会の企画・運営 3. 託児所の改善・増築に向けた取り組み 4. 業務改善に関する委員会・部会の統括管理 5. 業務改善に向けた活動全般

外来運営委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は、「愛し愛される病院」という理念のもと、患者第一主義を基本姿勢に日々診療業務をおこなっている。しかし、必ずしも患者本位の運用がなされているとは限らず、外来部門に関する課題を抽出・分析・改善する場として活動している。</p>
構成	<p>委員長：高沢診療部副部長</p> <p>委員：橋本生活習慣病センター長 宮内外科科長 大塚整形外科科長 風間看護部副部長 寺久保看護部科長 滝沢看護部係長 川瀬看護師 藤原看護部主事 大島薬剤部主任 鹿又放射線技術科係長 野本検査技術科係長 大塚事務部副部長 山根外来医事課課長 比留間外来医事課係長 三上外来医事課係長 中山地域連携課主任 大坂情報システム課係長 間山交流渉外課主事</p>
開催日	毎月 第2火曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. セカンドオピニオン外来設置に向けた検討 2. 外来待ち時間短縮に向けた検討 3. 診療科対応マニュアルの改定 4. 外来業務効率化に向けた活動全般

ボランティア部会

活動目的	<p>上尾中央総合病院においては、理念である「高度な医療で愛し愛される病院」として、患者と関わるボランティア活動を支援するとともに、活動環境を整備することに尽力することとする。また、業務の特殊性から最低限の教育・研修も必要と考えられる。これらボランティア受入に関する諸問題を検討・改善することを活動目的として当部会を設置する。</p>
構 成	<p>委員長：高沢診療部副部長 委 員：木村看護部副部長 寺久保看護部科長 佐々木放射線技術科科長代理 斎藤薬剤師 平澤総務課課長 山根外来医事課課長 丸田患者支援課課長 松村患者支援課副課長 斉藤総務課主任 秋本総務課主任</p>
開 催 日	随時開催
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア招聘に向けた取り組み 2. ボランティア活動内容の検討 3. ボランティア受入時の研修カリキュラムの作成 4. ボランティア活動の支援・管理 5. ボランティア活動に関する諸問題について検討

災害対策委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は地域の基幹病院としての役割をはたすために、予見できない自然災害・工場災害・列車事故などの集団災害に備える必要があることから、集団災害に対応できるように平素から準備を怠ることなく努めている。また、院内において考えられる全ての災害に関しても危機管理上極めて重要な問題として捉えている。当委員会は災害対策全般に関する事項を検討することを目的として活動している。</p>
構 成	<p>委員長：藤岡麻酔科科長 委 員：工藤看護部部長 指出看護部科長 香川看護部係長 池田看護部主任 村松看護部主任 工藤看護師 関根薬剤師 肥留川臨床工学科科長 佐藤栄養科科長 大塚事務部副部長 平澤総務課課長 徳永施設課課長 鈴木施設課主事 森川施設課員 関根外来医事課員 中山地域連携課主任 眞瀬情報システム課員</p>
開 催 日	毎月 第1金曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災訓練の企画・運営 2. 非難訓練の企画・運営 3. 院内防災施設の管理 4. 災害対策の視点から院内巡視 5. 学会参加等による情報収集

病診・病病連携委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院が社会資本としての責務を全うするためには、地域で果たすべき役割・機能と責任を明確にし、他の医療機関や保健・福祉施設等との協力と連携を深め、当院のもつ医療機能を効率的に発揮し、地域住民に信頼性の高い医療を提供することが必要である。また、地域の各種データ（診療圏の人口の動態・高齢化率など）を収集・分析して当院の役割を定めて、当院の理念・基本方針と診療機能に関する情報を地域の医師会や医療協議会などへ積極的に提供していかねなければならない。そして、最終的には、地域の医療における役割分担を明確にすること、高度な地域医療を提供すること、更には、地域支援病院となり地域に密着した医療が提供できることを目標として活動をしている。</p>
構 成	<p>委員長：上野副院長 委 員：中村院長 徳永院長代理 高沢診療部副部長 富田歯科口腔外科科長 黒沢小児科科長 橋本生活習慣病センター長 工藤看護部部長 野崎看護部科長 大川原看護部係長 堀越薬剤部主任 田中診療技術部部長 干場リハビリ技術科係長 川島栄養科主任 齋藤事務部部長 落合堂事務部次長 山根外来医事課課長 松森巡回健診課係長 小池入院医事課主任 中山地域連携課主任 他 4 名 外部委員：玉城院長(開業医)</p>
開 催 日	毎月 第1月曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他施設から紹介率・入院率・逆紹介及び返書率の向上に向けた対策 2. 紹介患者お断り件数の分析と対策 3. 栄養相談件数報告と依頼件数増加に向けた対策 4. 病診連携便りの作成 5. 予約診療開始に伴う紹介患者受け入れ体制の構築

在宅支援委員会

活動目的	<p>従来、医師と看護師の往診という形で在宅医療が実践されてきたが、最近では地域住民のニーズの高まりや多様化に対応して新しい形の在宅支援の確立が急務である。</p> <p>このためには、医師や看護師だけでなく、薬剤師・理学療法士など多様な職種の参画が必要で、在宅支援のシステムそしてネットワーク作りを推進する必要がある。そして、施設間だけでなく、施設内（医療従事者間）のコミュニケーションを十分に図らなければならない。</p> <p>当委員会は在宅支援に関する病院と中間施設等との密接なコミュニケーションを構築することを目的として活動している。</p>
構 成	<p>委員長：上野副院長 委 員：徳永神経内科科長 橋本生活習慣病センター長 土肥看護部科長 野崎看護部科長 大川原看護部係長 工藤看護部主任 前山看護部主任 高橋看護師 中野薬剤部主任 白井栄養科係長 瀬倉リハビリ技術科主任 大塚事務部副部長 中山地域連携課課長 藤沢外来医事課主任 中山地域連携課主任 名藏地域連携課主任 長井総務課主任 外部委員：秋元係長(訪問看護) 大鐘係長(訪問看護) 吉田センター員(包括支援センター)</p>
開 催 日	毎月 第4木曜日 8:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護・訪問栄養指導等報告 2. 医療相談件数報告 3. 在宅支援を行う上での現場における諸問題の検討

ベッド管理委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は、一般病床 753 床の急性期医療を主とした病院である。急性期医療を行う上で、救急搬送患者受け入れ態勢の確立は必要不可欠なものであり、それに対応したベッド管理体制は必須である。また、保険医療を行う上でも様々な基準が設けられており、これらをクリアしながら効率的なベッド管理を行なうことは地域医療を担う当院にとって、非常に重要である。</p> <p>これらのニーズに応えるべく、常に入院患者を受け入れられる体制作りを目的として、日々活動している。</p>
構 成	<p>委員長：矢吹脳神経外科科長 委 員：上野副院長 齊藤循環器科科長 古川産婦人科科長 石黒形成外科科長 北口リハビリ科科長 富田歯科口腔外科科長 中熊外科副科長 橋本生活習慣病センター長 工藤看護部部長 平井看護部科長 谷島看護部科長 菅原看護部科長 餅原看護部科長 新井看護部科長 佐々木看護部主任 増田薬剤部部長 村上リハビリ技術科主任 塩沢事務部次長 稲葉外来医事課係長 小池入院医事課主任 他 4 名</p>
開 催 日	毎月 第 3 水曜日 8：00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平均在院日数、長期入院患者退院状況、病棟・科別 3 ヶ月超患者件数等の報告と分析 2. 空床時の入院断り理由の分析と対策 3. 長期入院患者・リハビリ実施患者の分析 4. 退院支援計画書等の記載基準の改定

情報管理委員会

活動目的	<p>2005 年 4 月より個人情報保護法が全面施行され、情報を管理するうえでこれを遵守することが必要である。</p> <p>上尾中央総合病院の院内に蓄積されるあらゆる情報、ならびに院内・院外に発信するあらゆる情報を統括しなければならない。</p> <p>情報の共有化を図るために、情報を管理するハード面やパソコンのスキル向上のための勉強会などに関しても検討し、院内業務の潤滑化を図る。</p> <p>また、個人情報ならびにプライバシーを保護し、当院におけるプライバシー保護のために必要な実施体制の整備、適正な運営、プライバシー保護の円滑を図る。</p>
構 成	<p>委員長：宮内外科科長 委 員：徳永院長代理 矢吹脳神経外科科長 平田麻酔科副科長 工藤看護部部長 風間看護部副部長 平井看護部科長 増田薬剤部部長 田中診療技術部部長 秋山リハビリ技術科主任 大塚事務部副部長 山根外来医事課課長 平澤総務課課長 秋本総務課主任 土屋文書管理課主任 長島地域連携課員 他 10 名</p>
開 催 日	毎月 第 2 金曜日 8：00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADO の運用について検討 2. 病院ホームページの改定 3. 個人情報保護に関するセキュリティー同意書の改定 4. すこやか健康教室の開催 5. 共有パソコンの配布

広報部会

活動目的	地域の保健・医療・福祉施設などに自院の診療機能に関する情報を提供し、地域との連携を促進するため、そして、病診病連携の推進を計るための院外広報誌「アウングル」と院内における情報の共有化を目指すための院内広報誌「ピリカ」の発刊・編集を目的として活動をしている。
構成	委員長：平田麻酔科副科長 委員：小林看護部主任 島田放射線技術科主任 鈴木検査技術科主任 石井リハビリ技術科員 丸田患者支援課課長 中山人事課係長 秋本総務課主任 藤沢外来医事課主任 土屋文書管理課主任 山崎総務課員 横田地域連携課主任
開催日	毎月 第3水曜日 17:30～
活動報告	1. 院内広報誌「ピリカ：23～26号」の発行 2. 院外広報誌「アウングル：14～19号」の発行 3. 病院ホームページについて検討

診療記録管理委員会

活動目的	医療における最も重要な診療情報の記録形態として診療記録が存在するのは言うまでもない。この診療記録の記載状況如何で、医療の質・患者安全・保険診療等において問題が発生することを我々は理解しており、これを整備・充実させることは医療を行う上で必要不可欠な問題である。診療記録に関する諸問題を解決するために活動をしている。
構成	委員長：長田病理科科長 委員：徳永院長代理 綾部放射線科科長 西川消化器科科長 工藤看護部部長 木村看護部副部長 横山看護部科長 餅原看護部科長 大島薬剤部主任 竹中リハビリ技術科主任 大塚事務部副部長 山根外来医事課課長 小池入院医事課主任 小島情報システム課員 岩井医療情報管理課員 高橋医療情報管理課員
開催日	毎月 第4火曜日 8:00～
活動報告	1. 退院時サマリ未完成任务・サマリ記載状況の報告とその対策について検討 2. 診療記録の保管方法・貸出し方法について「診療記録取扱規程」の改定 3. 所在不明診療記録の取扱いに関する「診療録探索記録運用マニュアル」の作成 4. 永久保存の指示のある「診療記録の取扱いに伴う規程」の改定 5. 「看護サマリ記載基準」「看護計画記載」等の規程の作成

診療記録開示検討委員会

活動目的	当委員会は、診療記録の開示を含めた診療情報の提供について、患者と医療従事者とのより良い信頼関係の構築、情報の共有化による医療の質の向上、医療の透明性の確保、患者の自己決定権、患者の知る権利の観点などから積極的に推進し、患者と医療従事者が診療情報を共有していくことを目的として、個人情報保護法（法律第57号）ならびに医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン（平成16年12月24日、厚生労働省）に則り、診療記録開示を行っていく為の検討委員会として活動している。
構 成	委員長：徳永院長代理 委 員：村松診療部部長 工藤看護部部長 増田薬剤部部長 田中診療技術部部長 齋藤事務部部長 情報管理部責任者 山根外来医事課課長
開 催 日	随時開催
活動報告	1. 6件の開示申請があり、すべて全面開示 2. 診療記録開示に関する規程の改定

図書委員会

活動目的	上尾中央総合病院は急性期医療・高度医療を提供する施設であるとともに、厚生労働省認定の臨床研修指定病院でもある。これらのなかでは、エビデンスに基づいた医療の実践が強く求められ、その教育体制も必要不可欠とされている。医学の進歩に即応して医療の質の維持・向上を図るために、医師・医療従事者が必要とする図書・文献を適切に管理し、閲覧することのできる図書室機能の充実は必須であり、これらを実践することを目的として活動を行なっている。
構 成	委員長：上野副院長 委 員：井上内科科長 佐々木看護部係長 高田看護部係長 藤本薬剤師 吉田放射線技術科主任 中島リハビリ技術科員、大前経理課課長 綱川総務課主事 山崎総務課員
開 催 日	毎月 第2土曜日 8:00～
活動報告	1. 図書室だよりの発行 2. 図書購入申請の検討 3. 図書室規程集の改定 4. 定期購読雑誌の講読希望調査実施 5. 情報検索ツールについて検討

倫理委員会

活動目的	当委員会は、医療を実践していく上で必要である職業倫理に関すること、患者の権利に関する方針についての検討、臓器提供に関すること、臨床における倫理に関する方針についての検討、臨床研究、臨床治験の倫理的妥当性の検証、セクシャル・ハラスメントに関する諸問題、医療従事者に対する行動ガイドラインの策定、全職員を対象とした教育・研修の実施に関する事項などを解決する目的で活動している。
構成	委員長：井上内科科長 委員：上野副院長 徳永神経内科科長 大塚整形外科科長 高橋脳神経外科副科長 工藤看護部部長 菅原看護部科長 斉藤看護部係長 新井薬剤部副部長 竹中リハビリ技術科主任 齋藤事務部部長 塩沢事務部次長 小谷外来医事課主任 外部委員：松本氏(弁護士) 矢島氏(元学校長)
開催日	毎月 第4金曜日 8:00～
活動報告	1. 倫理に関する勉強会の実施 2. 倫理規程や患者権利章典等の各種規程の改定について検討 3. 臨床研究・臨床試験に伴う倫理審査の実施

治験審査委員会

活動目的	治験（治療試験）は医療の向上においては必要不可欠なものであり、高度な医療を実践している上尾中央総合病院においても、さまざまな臨床治験に参加するべきものである。この治験に参加するためには医薬品の臨床試験の実施に関する基準（GCP）に基づき、上尾中央総合病院における臨床治験実施の規程が必要となってくる。当委員会ではこのような質の高い治験に関する諸問題を討議する目的で活動している。
構成	委員長：上野副院長 委員：井上内科科長 徳永神経内科科長 大塚整形外科科長 大崎耳鼻科科長 齋藤循環器科科長 増田薬剤部部長 新井薬剤部副部長 丸岡看護部主任 土屋看護部主任 小島検査技術科科長 齋藤事務部部長 大前経理課課長 三上外来医事課係長 柿崎組織管理課係長 田端経理課主任 外部委員：矢島氏(元学校長) 朽木氏(自治会長)
開催日	毎月 第2木曜日 8:00～
活動報告	1. 治験を実施するために必要な規程の作成 2. 治験の実施及び継続について検討

患者満足度向上委員会

活動目的	<p>医療の本質は、患者がいかに満足するかという点に収束するものであり、近年さまざまな方面から患者満足度に関する問題点が指摘されている。また、社会情勢も含めてこの問題に取り組まざるを得ない状況が形成されている。この点からも患者満足度の向上は医療機関における最重要課題の一つである。意識の向上に向けた取り組みは、全職員が関与する問題であり、職員のすべてに対して求められるものである。そこで、全職員が参加し、日常の業務の中で患者満足度の向上に向けた提案、情報を共有化する場をしてワーキンググループを構築し、患者満足度の向上へ向けての様々なスキルのアップをはかる目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：徳永院長代理 委 員：中村院長 上野副院長 村松診療部部长 高沢診療部副部长 大塚整形外科科長 工藤看護部部长 木村看護部副部长 風間看護部副部长 齋藤事務部部长 福田事務部副部长 大塚事務部副部长 塩沢事務部次長 落合堂事務部次長 田中診療技術部部长 増田薬剤部部长 小林リハビリ技術科科長 小島検査技術科科長 山根外来医事課課長 大前経理課課長 平澤総務課課長 長岡交流渉外課課長 情報管理部責任者</p>
開 催 日	毎月 第4水曜日 17:30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各WGブロック会議、インストラクター総括部会、A館総合案内からの報告 2. 患者満足度調査の実施と結果から改善 3. 原因分析手法の研修会の実施

インストラクター部会

活動目的	<p>患者から期待されるサービスの結果は「納得」「安心」「満足」が全てである。医療従事者が患者に提供できるサービスは、診療・検査・治療・看護・院内整備などいくつかあげられるが、病院に来院する患者に技術以外、職種に関係なく提供できるサービスは接遇である。上尾中央総合病院において患者満足度（サービス）を向上させるため、接遇に関する取り組みをしている。接遇の向上に向けた研修の企画運営実施を行い、マニュアルの作成等患者満足度の向上のために職員に指導するべくインストラクターを配置し、インストラクターは接遇の向上にむけた研修の企画、患者対応全般の諸問題などを検討する。</p> <p>病院全体の患者満足度の向上を目指し、職員が接遇に関する広い知識と接遇応対ができるコミュニケーション能力を持たせることを目的として活動している。</p>
構 成	<p>委員長：佐々木(庸)放射線技術科主任 委 員：斉藤看護部係長 鹿又放射線技術科係長 鹿志村看護師 宮澤看護師 佐々木(健)放射線技術科員 岡田リハビリ技術科主任 伴検査技術科主任 児玉放射線技術科主任 岡田検査技術科員 斉藤総務課主任 柿崎組織管理課係長</p>
開 催 日	毎月 第2火曜日 18:30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接遇研修の実施 2. マスタースタッフ、インストラクター認定試験の実施 3. 接遇マナーマニュアルの改定 4. 院内巡視の実施 5. 患者満足度調査の実施

クレーム対策検討委員会

活動目的	<p>上尾中央総合病院は、「愛し愛される病院」という理念のもと、患者第一主義を基本姿勢に日々診療業務をおこなっている。しかし、職員が考えるサービスと利用者が考えるサービスが必ずしも一致するものではなく、様々な要望やクレームを真摯に受け止め改善に向けた努力を継続する必要がある。</p> <p>その一助となる利用者からの声を収集・分析・改善することを目的とする。</p>
構 成	<p>委員長：高沢診療部副部長 委 員：徳永院長代理 上野副院長 村松診療部部長 大塚整形外科科長 木村看護部副部長 野崎看護部科長 佐々木(庸)放射線技術科主任 中野薬剤部主任 塩沢事務部次長 平澤総務課課長 長岡交流渉外課課長 関交流渉外課係長 丸田患者支援課課長 高柳医療安全管理課課長 松村患者支援課副課長 山根外来医事課課長 三上外来医事課係長 外部委員：濱川氏(We Can) 島川氏(We Can)</p>
開 催 日	毎月 第3木曜日 17:00～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当院に寄せられる意見・苦情等の対応を検討 2. 患者・家族からの意見・質問について、当院からの返答を公開

よろず相談所窓口部会

活動目的	<p>臨床研修病院においては患者からの苦情処理窓口の設置が義務づけられているように、接遇面からも、患者安全の面からも、個人情報面からも、そして、経営面からもこの問題は真剣に受け止めるべき問題である。当部会ではこの患者からの苦情を積極的に、一元化して受け付ける窓口を設置し、“よろず相談所窓口”と銘打っており、この窓口の運営・苦情処理を行う目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：山根外来医事課課長 委 員：徳永院長代理 高沢診療部副部長 塩沢事務部次長 平澤総務課課長 丸田患者支援課課長 松村患者支援課副課長 比留間外来医事課係長 三上外来医事課係長 稲葉外来医事課係長 中山外来医事課主任 小谷外来医事課主任 古澤外来医事課主任 小池入院医事課主任 西尾入院医事課主任 高木入院医事課主任 森田入院医事課主任 長島地域連携課員 高柳医療安全管理課課長 外部委員：濱川氏(We Can) 島川氏(We Can)</p>
開 催 日	毎月 第4金曜日 17:30～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者満足度調査での事務員の対応等についての改善 2. 窓口研究会と称したクレーム対応の勉強会を開催

臨床検査適正化委員会

活動目的	<p>現在、臨床検査は極めて高い精度で行われているが、さらに求められるのは検査の精度保障と標準化さらには検査結果の統一性であると思われる。</p> <p>しかし、医療費の高騰に伴う経費の適正化が叫ばれている中で、検査の適正化、効率化は避けて通れないものであり、検査業務体制の確立と改善も、おのずと必要となってくる。</p> <p>また、臨床検査を実施する上で、職員の感染対策に関しても注意を払わなければならない。臨床検査から得られる情報を活用しての臨床支援、さらに診断ロジックの構築、さらには実践的な事例の蓄積を行うことにより臨床検査の適正化が図られると考える。</p> <p>当委員会はこれらを実践していく目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：長田病理科科長</p> <p>委 員：中熊外科副科長 泉福内科医長 指出看護部科長 小島検査技術科科長 齋藤検査技術科主任 栗田健康管理課係長 田口外来医事課主任</p>
開 催 日	4 か月に 1 回 第 3 木曜日 8：15～
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外部精度管理への取り組みについて検討 2. 検査項目について検討 3. 検体検査加算・外来迅速検体加算の算定について検討

医療ガス安全管理委員会

活動目的	<p>現在の医療においては酸素・麻酔ガス・窒素・圧縮空気など各種ガスの使用がなされており、その重要性は高いものである。これら医療に用いられるガスを医療ガスと称するが、その扱いにより患者安全に対し危険な状況が発生する可能性を秘めたものである。医療ガスの使用時には、医療ガスの設備の安全管理を図らなければならず、患者の安全を確保することが重要である。</p> <p>これら医療ガスの供給設備の安全管理を徹底し、患者の安全を確保する目的で活動している。</p>
構 成	<p>委員長：藤岡麻酔科科長</p> <p>委 員：北口リハビリテーション科科長 工藤看護部部长 風間看護部副部长 木村看護部副部长 高橋(健)看護部科長 平井看護部科長 菅原看護部科長 小山看護部科長 滝沢看護部係長 香川看護部係長 新井薬剤部副部长 肥留川臨床工学科科長 穴原検査技術科係長 小林放射線技術科係長 福田事務部副部长 徳永施設課課長 半田施設課主任 長井総務課主任 中野外来医事課主任 森川施設課員</p>
開 催 日	1 年に 1 回
活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ガス安全管理構成員の検討 2. 医療ガス勉強会の開催について検討 3. 緊急・災害時の液体酸素の供給について検討

9. Clinical Indicator

クリニカルパス別使用数

退院(転科)数	12,780
クリニカルパス使用数	4,335

クリニカルパスID	クリニカルパス名	使用数
01-001	慢性硬膜下血腫-穿頭血腫除去術	25
01-002	未破裂性脳動脈瘤-クリッピング術	8
01-005	ラクナ梗塞(軽症)	1
01-006	脳梗塞回復期リハビリテーション(3ヶ月コース)	4
02-001	白内障(両眼)-水晶体再建術	64
02-002	眼瞼下垂症-眼瞼挙筋短縮術	29
02-003	硝子体手術-糖尿病性網膜症	42
02-005	網膜剥離-網膜復位術	7
02-006	白内障(片眼)-水晶体再建術	218
03-001	睡眠時無呼吸症候群-睡眠ポリグラフ検査	132
03-002	慢性副鼻腔炎・鼻中隔彎曲症・頬部嚢胞	117
03-003	喉頭ポリープ・喉頭肉腫-顕微鏡下喉頭微細手術	62
03-004	慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎-鼓室形成術	33
03-005	突発性難聴	103
04-003	扁桃腺炎-口蓋扁桃摘出術	44
04-006	(左・右)自然気胸-胸腔鏡下肺部分切除術	13
05-001	心臓カテーテル検査1泊2日	485
05-002	ペースメーカー植込み術	51
05-003	心臓カテーテル検査(入院中・2泊3日)	16
05-004	心臓カテーテル治療(2泊3日)	204
05-005	冠動脈バイパス手術	1
05-006	経皮的冠動脈形成術1泊2日	135
06-002	鼠径ヘルニア-ヘルニア根治術	130
06-003	胆石症-腹腔鏡下胆嚢摘出術	47
06-004	大腸ポリープ-内視鏡的大腸ポリープ切除術(術後1泊)	263
06-005	大腸ポリープ-内視鏡的大腸ポリープ切除術(術後2泊)	35
06-006	鼠径ヘルニア(小児)-ヘルニア根治術	6
06-007	痔核-痔核根治術	4
06-008	胃切除術(幽門側)	2
06-009	PEG(経鼻胃管栄養実施者)	10
06-010	PEG(中心静脈栄養実施者)	1
06-011	大腸ポリープ-内視鏡的大腸ポリープ切除術(術前1泊術後1泊)	39
06-012	大腸ポリープ-内視鏡的大腸ポリープ切除術(術前1泊術後2泊)	4
06-013	胆石症-開腹胆嚢摘出術	4
06-015	大腸癌化学療法(FOLFOX4+アバスタチン)	3
06-018	PEG(経皮内視鏡的胃瘻造設術)	3

クリニカルパスID	クリニカルパス名	使用数
07-002	変形性股関節症-人工股関節全置換術	29
07-004	変形性膝関節症-人工膝関節全置換術	20
07-005	手根管症候群-手根管開放術	5
08-001	皮膚・皮下腫瘍-摘出(切除)術	11
08-002	帯状疱疹	3
08-003	蜂窩織炎	4
09-001	乳癌-乳房温存術	4
11-001	前立腺肥大症-経尿道の前立腺切除術	45
11-002	前立腺腫瘍-経直腸的前立腺生検	202
11-003	膀胱腫瘍-経尿道的膀胱腫瘍摘除術	65
11-005	腎生検	3
11-006	前立腺癌-前立腺全摘除術	33
11-007	真性包茎・仮性包茎-環状切除術	9
11-008	尿管結石-経尿道的結石破碎術(土曜入院)	23
11-009	尿管結石-経尿道的結石破碎術(平日入院)	33
11-010	腎摘除術(開腹)	12
11-011	腎摘除術(斜切開)	2
11-012	腎尿管全摘除術	9
12-001	正常分娩	431
12-002	帝王切開(平日入院)	85
12-003	婦人科良性開腹手術	134
12-004	婦人科良性腔式手術	29
12-005	流産-子宮内容除去術	107
12-006	帝王切開(土曜入院)	25
12-008	子宮頸部円錐切除術	15
14-001	新生児	511
16-003	アキレス腱断裂-アキレス腱縫合術	15
16-004	膝内障-関節鏡手術	33
16-005	前十字靭帯損傷-ACL再建術	7
16-006	抜釘術	74
16-007	顔面骨骨折-抜釘術	2
16-008	外傷性反復性膝蓋骨脱臼-ET上尾法	6
16-009	足関節果部骨折-足関節靭血的整復固定術	1
16-010	小児上腕骨顆部骨折(外顆・顆上)-靭血的整復内固定術	1
16-013	大腿骨頸部骨折-人工骨頭置換術	2

※対象は平成20年4月以降に入院し、平成21年3月末までに退院した患者(転科患者を含む)

※使用数は延べ使用数

※パスID (MDC 01~16)-(クリニカルパス登録順番号)

再入院率

※再入院率はDPC患者のみを対象とする

	再入院数	様式1 退院データ数	再入院率
4月	48	893	5.4%
5月	50	898	5.6%
6月	41	864	4.7%
7月	51	943	5.4%
8月	52	919	5.7%
9月	47	838	5.6%
10月	47	954	4.9%
11月	52	939	5.5%
12月	70	1,051	6.7%
1月	49	787	6.2%
2月	44	890	4.9%
3月	59	932	6.3%
計	610	10,908	5.6%

平成20年度 MDC6別上位25症例数（平成20年4月～平成21年3月まで）

No.	MDC6	疾患名	症例数	平均在院日数
1.	050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	1,171	3.9
2.	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	466	24.6
3.	060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	424	3.5
4.	010060	脳梗塞	285	36.8
5.	020110	白内障、水晶体の疾患	266	6.0
6.	110080	前立腺の悪性腫瘍	251	6.6
7.	050130	心不全	201	32.7
8.	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	198	27.3
9.	060020	胃の悪性腫瘍	174	22.2
10.	110310	腎臓または尿路の感染症	172	13.5
11.	060035	大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	161	10.3
12.	100070	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く)	154	19.8
13.	060150	虫垂炎	144	4.7
14.	040040	肺の悪性腫瘍	137	15.4
15.	060160	鼠径ヘルニア	136	6.2
15.	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	136	20.6
17.	030250	睡眠時無呼吸	135	2.2
18.	050030	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	132	17.2
19.	060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄	120	19.7
19.	150010	ウイルス性腸炎	120	5.9
21.	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	116	18.4
22.	180010	敗血症	114	46.4
23.	060040	直腸肛門(直腸、S状結腸から肛門)の悪性腫瘍	112	11.1
23.	060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	112	14.2
25.	030428	突発性難聴	97	13.2

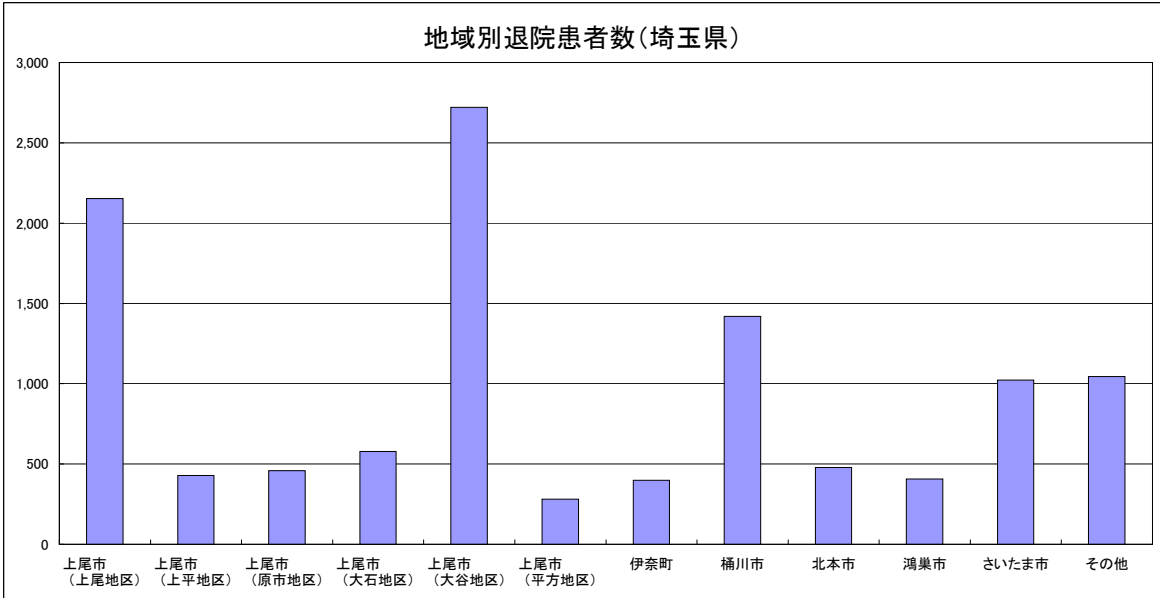
※MDC6は『医療資源を最も投入した傷病名』で分類されています

大分類	ICD-10	診療科																総計	
		リハビリ テーション 科	外科	眼科	形成外 科	耳鼻 咽喉科	循環 器科	小児科	消化器 科	心臓 血管 外科	神経内 科	整形外科	内科	脳神経 外科	泌尿器 科	皮膚科	産婦人 科		
I	感染症及び寄生虫症	A00-B99	3	20	0	1	20	10	71	112	7	9	3	88	5	9	5	5	368
II	新生物	C00-D48	2	582	0	59	146	5	0	263	2	1	18	86	35	361	2	191	1,753
III	血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	D50-D89	0	10	0	0	4	5	9	31	2	3	1	31	2	6	0	3	107
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	0	1	1	2	6	8	2	15	0	6	1	183	1	0	0	1	227
IX	循環器系の疾患	I00-I99	36	22	1	2	3	1,558	3	38	119	101	5	155	213	4	0	0	2,260
V	精神及び行動の障害	F00-F99	0	3	0	0	1	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9
VI	神経系の疾患	G00-G99	3	3	0	0	73	107	15	5	1	30	24	36	38	2	0	0	337
VII	眼及び付属器の疾患	H00-H59	0	0	288	31	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	322
VIII	耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	0	0	0	0	212	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	220
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	1	69	0	2	334	28	266	12	5	2	3	296	10	0	0	1	1,029
XI	消化器系の疾患	K00-K93	0	518	0	0	27	2	9	881	1	1	1	11	0	5	0	3	1,459
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	0	1	0	19	7	1	11	0	2	0	14	3	1	2	6	0	67
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	0	1	0	6	2	3	20	3	1	2	163	13	0	0	0	0	214
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	0	5	3	0	5	7	19	10	1	1	10	185	0	308	0	86	640
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	1	15	3	46	9	18	6	3	3		429	12	71	7	1	1	625
XV	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	O00-O99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	261	261
XVI	周産期に発生した病態	P00-P96	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	6	26
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	0	1	0	3	9	2	3	1	1	0	0	0	1	1	0	0	22
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	0	0	0	0	23	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
総 計			46	1,251	296	171	882	1,754	470	1,374	145	156	672	1,105	377	705	14	558	9,976

地域別退院患者数(平成20年度)

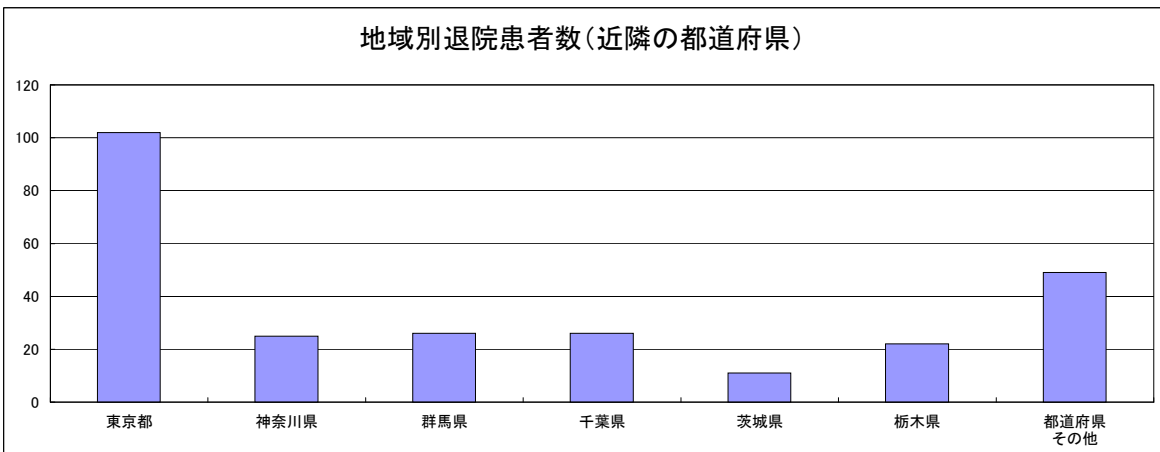
地域別退院患者数(埼玉県)

	上尾市 (上尾地区)	上尾市 (上平地区)	上尾市 (原市地区)	上尾市 (大石地区)	上尾市 (大谷地区)	上尾市 (平方地区)	伊奈町	桶川市	北本市	鴻巣市	さいたま市	その他
総計	2,153	428	459	578	2,721	281	399	1,419	478	407	1,022	1,044



地域別退院患者数(近隣の都道府県)

	東京都	神奈川県	群馬県	千葉県	茨城県	栃木県	都道府県 その他
総計	102	25	26	26	11	22	49



平成20年度 疾病分類別(大分類)・診療科別死亡数

※ICD-10(大分類)で分類されています。

大分類	性別	診療科												構成比(%)	総計
		外科	形成外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	循環器科	消化器科	心血管外科	神経内科	整形外科	内科	脳神経外科	泌尿器科		
総計	男	52	1	-	6	23	55	12	12	3	123	21	16	58.0%	324
	女	36	-	9	4	11	42	8	9	3	83	26	4	42.0%	235
	合計	88	1	9	10	34	97	20	21	6	206	47	20	100.0%	559
構成比(%)	男	16.0%	0.3%	0.0%	1.9%	7.1%	17.0%	3.7%	3.7%	0.9%	38.0%	6.5%	4.9%	0.2%	-
	女	15.3%	0.0%	3.8%	1.7%	4.7%	17.9%	3.4%	3.8%	1.3%	35.3%	11.1%	1.7%	0.2%	-
	合計	15.7%	0.2%	1.6%	1.8%	6.1%	17.4%	3.6%	3.8%	1.1%	36.9%	8.4%	3.6%	0.2%	-
I 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	男	2	-	-	-	3	1	1	3	-	13	-	-	7.1%	23
	女	1	-	-	-	-	1	2	1	-	16	-	-	8.9%	21
	合計	3	-	-	-	3	2	3	4	-	29	-	-	7.9%	44
II 新生物(C00-D48)	男	37	-	-	4	1	35	-	1	-	25	3	14	37.0%	120
	女	28	-	6	3	1	25	-	-	-	12	2	4	34.5%	81
	合計	65	-	6	7	2	60	-	1	-	37	5	18	36.0%	201
III 血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	男	1	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	1.5%	5
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	0.4%	1
	合計	1	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-	-	1.1%	6
IV 内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	男	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	0.9%	3
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	0.9%	2
	合計	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	0.9%	5
VI 神経系の疾患(G00-G99)	男	-	-	-	-	-	-	1	2	-	4	-	-	2.2%	7
	女	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	1.7%	4
	合計	-	-	-	-	-	-	-	4	-	6	-	-	2.0%	11
IX 循環器系の疾患(100-199)	男	1	-	-	1	12	3	7	2	-	15	14	1	17.3%	56
	女	2	-	1	-	8	3	6	4	2	18	20	-	27.2%	64
	合計	3	-	1	1	20	6	13	6	2	33	34	1	21.5%	120
X 呼吸器系の疾患(J00-J99)	男	5	-	-	1	3	6	2	4	1	46	3	1	22.2%	72
	女	4	-	2	1	1	-	-	2	1	20	4	-	14.9%	35
	合計	9	-	2	2	4	6	2	6	2	66	7	1	19.1%	107
XI 消化器系の疾患(K00-K93)	男	3	-	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-	3.7%	12
	女	1	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	5.1%	12
	合計	4	-	-	-	-	17	-	-	-	3	-	-	4.3%	24
XIV 尿路器系の疾患(N00-N99)	男	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	2.8%	9
	女	-	-	-	-	1	1	-	-	-	6	-	-	3.4%	8
	合計	-	-	-	-	1	2	-	-	-	14	-	-	3.0%	17
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	男	2	1	-	-	2	1	1	-	2	6	-	-	4.6%	15
	女	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	2.1%	5
	合計	2	1	-	-	2	4	1	-	2	8	-	-	3.6%	20
XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	男	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	0.6%	2
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	0.9%	2
	合計	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1	-	0.7%	4

10. 地域連携

平成20年度科別紹介患者数

件数
2,100

1,800

1,500

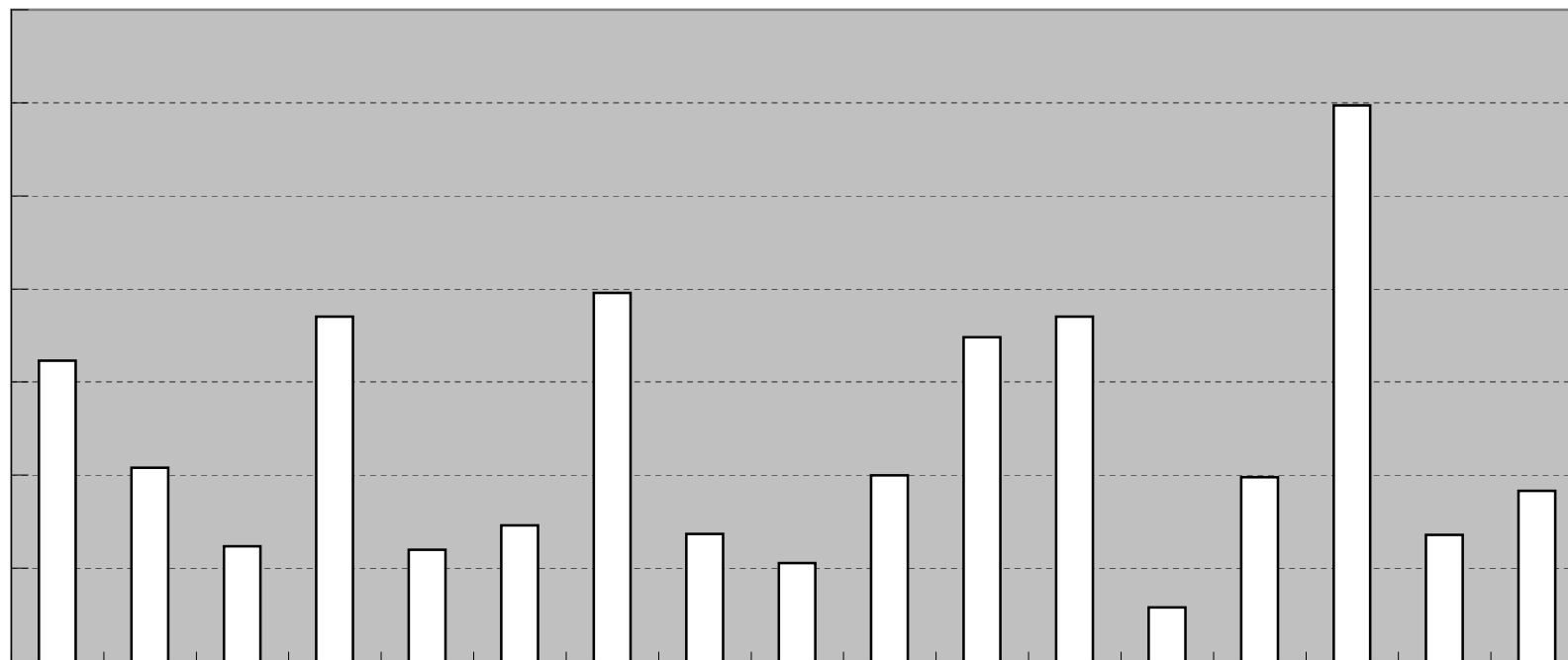
1,200

900

600

300

0



内科

外科

脳神経外科

整形外科

形成外科

小児科

耳鼻咽喉科

眼科

皮膚科

産婦人科

消化器科

循環器科

心臓血管外科

泌尿器科

歯科口腔外科

神経内科

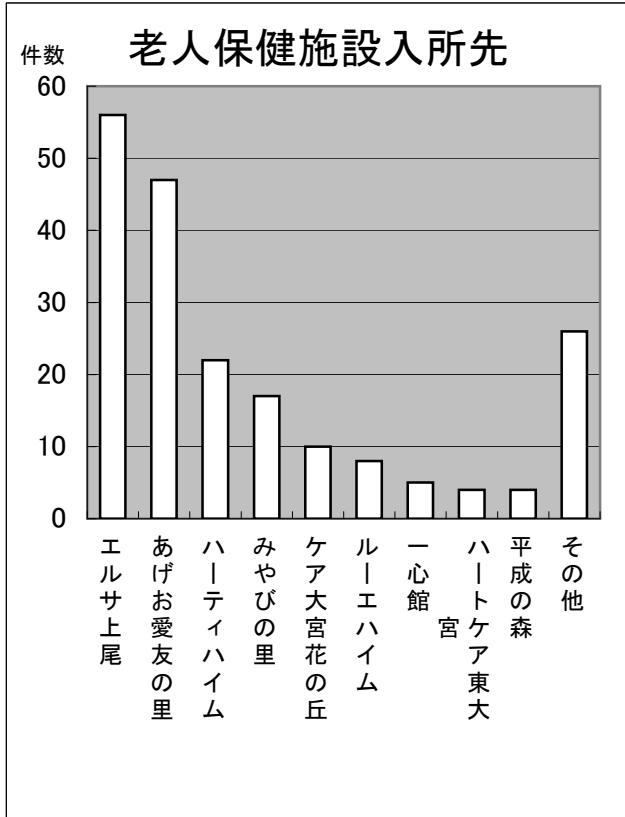
放射線科

診療科

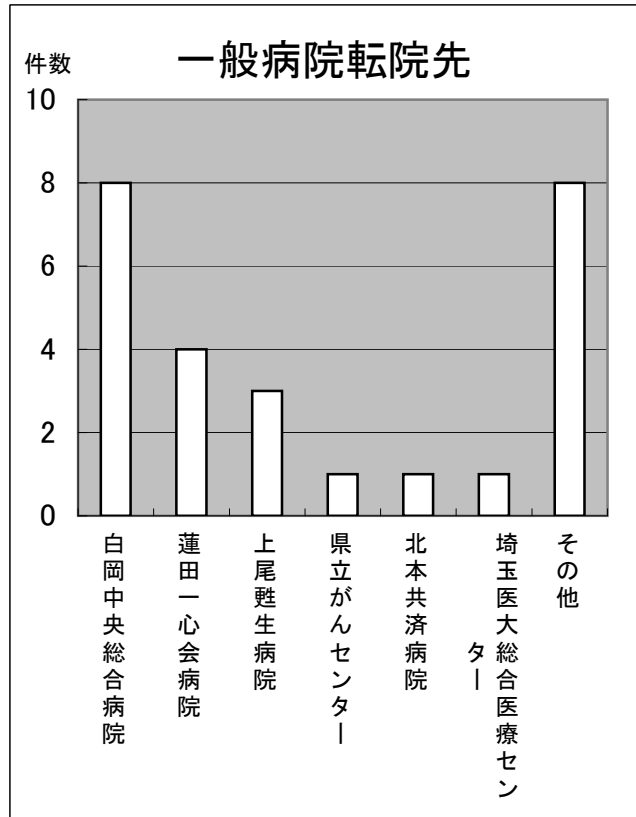
平成20年度医療相談室介入患者の主な転院・入所先件数

平成20年4月1日～平成21年3月31日

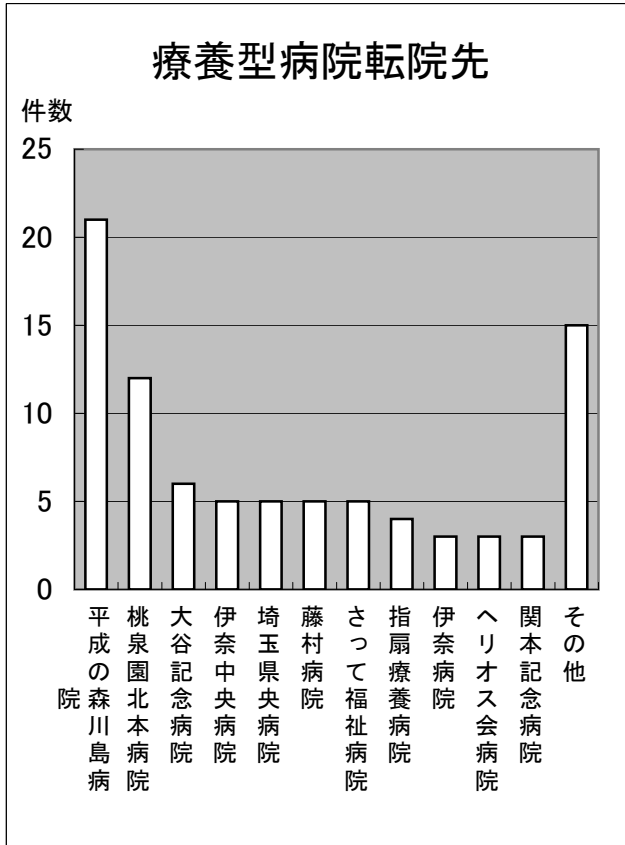
老人保健施設(199件)



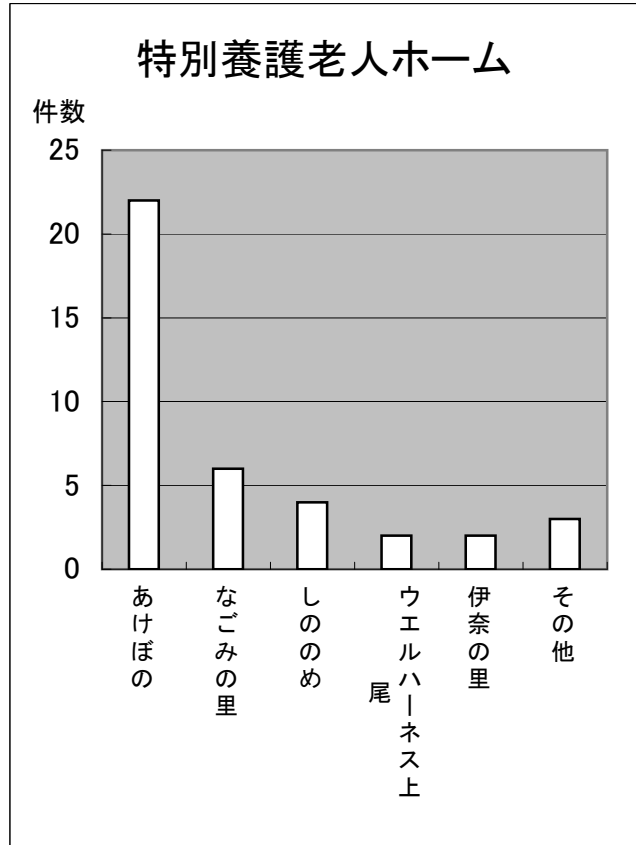
一般病院(26件)



療養型病院(87件)



特別養護老人ホーム(39件)



平成20年度施設別紹介実績

平成20年4月1日～平成21年3月31日

診療所

医療機関名	市区町村名	紹介患者数	紹介入院数
大森敏秀胃腸科クリニック	上尾地区	231	54
石橋内科クリニック	大石地区	181	28
波多野外科整形外科	大石地区	164	27
ゆげクリニック	桶川市	160	54
原田耳鼻咽喉科医院	桶川市	118	28
上尾整形外科	大谷地区	113	26
桶川駅前こどもクリニック	桶川市	113	39
いなぎe n tクリニック	北本市	112	44
桶川西口クリニック	桶川市	93	19
田口産婦人科内科	さいたま市	90	23
しばさき内科クリニック	原市地区	87	24
中澤医院	上尾地区	86	15
桶川K. Nクリニック	桶川市	82	10
なかじま循環器科内科クリニック	さいたま市	81	0
上平ファミリークリニック	上平地区	81	13
西村ハートクリニック	上尾地区	81	38
あだち内科 神経内科 クリニック	上尾地区	79	1
たまき整形外科・内科	上尾地区	78	16
(医) 東医研 松沢医院	大谷地区	72	10
中妻クリニック	大石地区	72	16
有馬整形外科	上尾地区	71	3
大宮セントラルクリニック	さいたま市	65	5
医療法人 藤塚医院	上尾地区	64	1
かすが耳鼻咽喉科医院	上尾地区	61	11
渡辺医院	桶川市	60	21
医療法人社団 わたまクリニック	鴻巣市	60	23
團クリニック	上尾地区	59	5
山中内科クリニック	大谷地区	58	10
江原医院	上平地区	57	20
愛仁クリニック	上平地区	56	10
中村内科医院	上尾地区	56	12
(医) 博美会 豊田医院	桶川市	53	13
山田ハートクリニック	鴻巣市	50	42
(医) 上尾内科循環器科	平方地区	49	15
おが・おおぐし眼科	上尾地区	48	16
上尾アーバンクリニック	上尾地区	48	26
蔵田医院	桶川市	47	15
(医) 河村クリニック	上尾地区	45	8
府川医院	桶川市	44	5
岡田医院	北本市	44	8
上尾胃腸科外科医院	上平地区	44	14
(医) 社団淳真会 榎本医院	大石地区	44	17
まきの内科クリニック	桶川市	43	9
ナラヤマレディースクリニック	上尾地区	42	11
松本内科医院	大石地区	39	10
朝日内科歯科医院	桶川市	39	11
小山内科医院	大谷地区	37	8
河本耳鼻咽喉科	行田市	37	23
上尾眼科	上平地区	36	6
村田内科胃腸科医院	大石地区	33	8
原内科眼科医院	上尾地区	33	9
伊藤内科医院	上平地区	33	22
大宮シティクリニック	さいたま市	31	9
桶川共立クリニック	桶川市	31	9
石川医院耳鼻咽喉科	深谷市	31	13

施設

医療機関名	市区町村名	紹介患者数	紹介入院数
介護老人保健施設 ケア大宮花の丘	さいたま市	55	15
介護老人保健施設 ハーティナーハイム	平方地区	29	20
介護老人保健施設 ボヌール	さいたま市	11	1
介護老人保健施設 鴻巣フラワーパレス	鴻巣市	9	1

病院

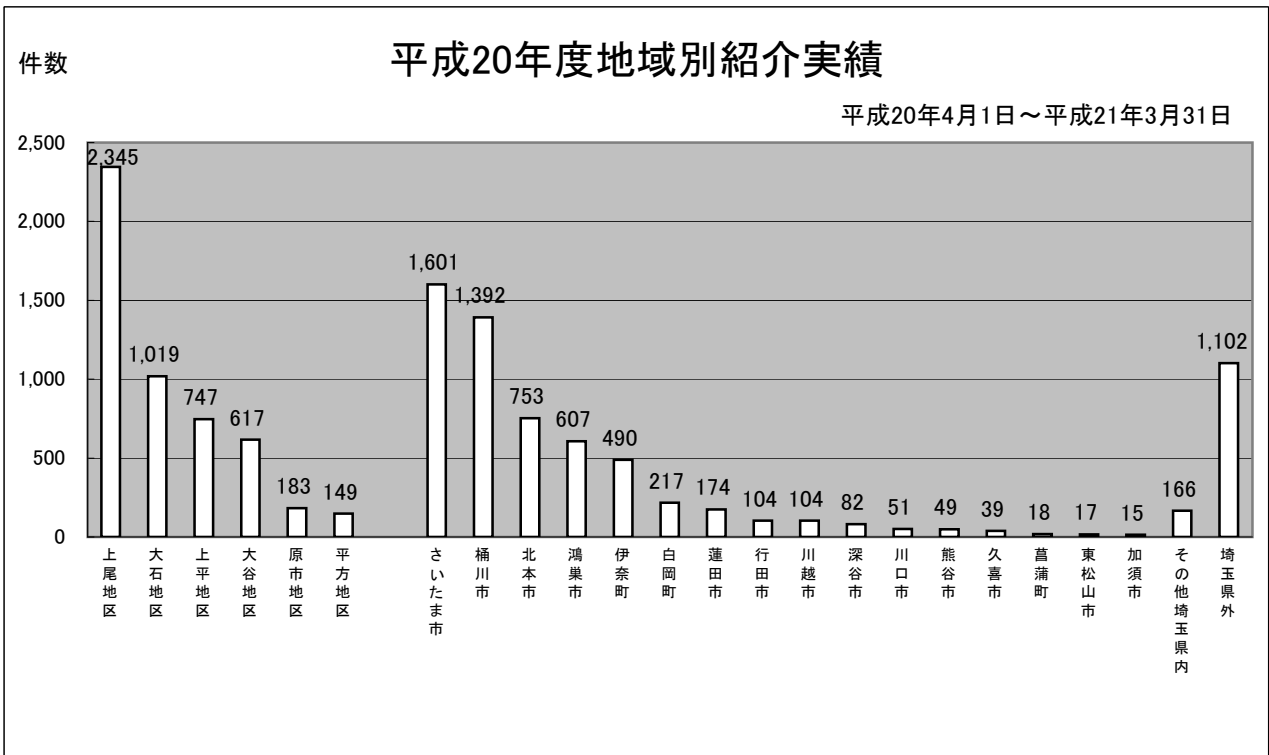
医療機関名	市区町村名	紹介患者数	紹介入院数
埼玉県中央病院	桶川市	135	80
埼玉県立がんセンター	伊奈町	129	31
北里大学北里研究所メディカルセンター病院	北本市	103	45
さいたま赤十字病院	さいたま市	96	26
埼玉医科大学総合医療センター	川越市	88	23
藤村病院	上尾地区	87	34
大宮医師会市民病院 大宮広域救急医療センター	さいたま市	60	28
北本共済病院	北本市	60	30
帝京大学医学部附属病院	東京都	47	11
埼玉脳神経外科病院	鴻巣市	47	19
埼玉県総合リハビリテーションセンター	平方地区	43	8
自治医科大学附属さいたま医療センター	さいたま市	43	16
深谷赤十字病院	深谷市	40	33
のぞみ病院（希望病院）	伊奈町	33	13
指扇病院	さいたま市	28	11
行田総合病院	行田市	26	18
武蔵野病院	上尾地区	25	5
藤倉病院	北本市	23	11
社会保険 大宮総合病院	さいたま市	22	8
埼玉県立小児医療センター	さいたま市	20	3
蓮田病院	蓮田市	20	10
埼玉県済生会鴻巣病院	鴻巣市	19	2
さいたま記念病院	さいたま市	17	7
埼玉県立精神医療センター	伊奈町	15	1
こうのす共生病院	鴻巣市	15	8
大宮中央総合病院	さいたま市	14	10
東京女子医科大学病院	東京都	13	3
埼玉社会保険病院	さいたま市	12	2
東京大学医学部附属病院	東京都	12	2
埼玉医科大学病院	日高町	11	1
埼玉県済生会川口総合病院	川口市	11	1
戸田中央総合病院	戸田市	10	0
埼玉県済生会栗橋病院	栗橋町	10	7

グループ病院・診療所・施設

医療機関名	市区町村名	紹介患者数	紹介入院数
白岡中央総合病院	白岡町	195	119
上尾甞生病院	大谷地区	176	75
伊奈病院	伊奈町	172	71
エイトナイン内科クリニック	上尾地区	172	29
介護老人保健施設 エルサ上尾	大石地区	167	36
上尾中央腎クリニック	上尾地区	139	26
東大宮総合病院	さいたま市	133	69
介護老人保健施設 あげお愛友の里	上平地区	125	23
蓮田一心会病院	蓮田市	92	33
アルシェクリニック	さいたま市	29	3

歯科

医療機関名	市区町村名	紹介患者数	紹介入院数
おにくぼ矯正歯科	上尾地区	106	5
わたなべ歯科医院	上平地区	49	0
なかむら歯科医院	上尾地区	45	1
林歯科医院	上平地区	43	0
医療法人社団 歯友会 赤羽歯科	上尾地区	41	3
柿沼歯科医院	上尾地区	37	0
渡辺歯科	上尾地区	36	0
小川歯科指扇クリニック	さいたま市	35	0
須田歯科医院	上尾地区	35	0
さくら歯科医院	伊奈町	35	0
北上尾歯科	上尾地区	34	0
ヤナセ矯正歯科	大石地区	33	1
土岐歯科医院	上尾地区	31	0
第一歯科診療所	大石地区	31	0
新海歯科医院	大谷地区	31	0
堀井歯科医院	大谷地区	31	0
佐藤歯科クリニック	鴻巣市	31	1
千代歯科医院	上尾地区	27	0
植木歯科医院	上平地区	26	0
ひるま歯科医院	桶川市	26	1
田島歯科クリニック	鴻巣市	24	0
たかだ歯科医院	桶川市	23	0
新世クリニック 歯科	大谷地区	23	0
大井歯科医院	鴻巣市	22	0
小林歯科医院	上平地区	21	0
内田歯科医院	上尾地区	18	0
竹林歯科	上平地区	18	0
三井歯科医院	大石地区	18	1
ひろ歯科クリニック	鴻巣市	17	0
立川歯科	上平地区	17	0
パトリアデンタルクリニック	さいたま市	16	0
愛歯科診療所	上尾地区	16	0
もりた歯科医院	大石地区	16	0
竹間歯科医院	北本市	16	0



11. 教育研究実績

学術業績

■ 診療部 ■

院長

【座長・司会】

1. 中村康彦
第50回全日本病院学会東京大会（東京都、11月）

【その他】

1. **2008年医療改革を読み解く-ジェネリック新時代の医療経営**
中村康彦、川渕孝一、増原慶壮、藤本正義
TOWA Communication Plaza 臨時増刊号（特別座談会）
2. **清話抄**
中村康彦
全日病ニュース 第703号 P:1

院長代理

【講演会発表】

1. **DPCにおける病院ガバナンスの重要性**
徳永英吉
よくわかるDPC対応セミナー（東京都、6月）
2. **病院における個人情報保護の考え方**
徳永英吉
川口市立医療センター 院内研修会（埼玉県川口市、6月）
3. **臨床の場における倫理感の醸成に向けて**
徳永英吉
杉並リハビリテーション病院 院内研修会（東京都、9月）

副院長

【総説】

1. **GERD(食道胃逆流症)について**
上野聡一郎
上尾市医師会報 第111号:4-5

【学会発表】

1. **当院における緩和ケアチーム活動の検討**
上野聡一郎、泉福恭敬、中野泰寛、増田朝子、増田裕一、木村友江、岩屋英美、安江佳美、関根美加子、長岡亜由美、名蔵智美
第46回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2月）

【講演会発表】

1. **喫煙による健康障害について**
上野聡一郎
上尾西ロータリークラブ 講演（埼玉県上尾市、9月）
2. **胆石症の外科的治療**
上野聡一郎

第 55 回日本消化器病学会関東支部 市民公開講座 (埼玉県上尾市、10 月)

【座長・司会】

1. 上野聡一郎
第 254 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、6 月)
2. 上野聡一郎
第 255 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、7 月)
3. 上野聡一郎
第 256 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、9 月)
4. 上野聡一郎
第 257 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、10 月)
5. 上野聡一郎
第 258 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、11 月)
6. 上野聡一郎
第 259 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、1 月)
7. 上野聡一郎
第 260 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、2 月)
8. 上野聡一郎
第 261 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、3 月)
9. 上野聡一郎
第 9 回臨床病理症例検討会 (埼玉県上尾市、6 月)
10. 上野聡一郎
第 10 回臨床病理症例検討会 (埼玉県上尾市、11 月)
11. 上野聡一郎
第 11 回臨床病理症例検討会 (埼玉県上尾市、3 月)
12. 上野聡一郎
第 2 回上尾市医師会外科医会学術講演会 (埼玉県上尾市、6 月)
13. 上野聡一郎
第 3 回上尾市医師会外科医会学術講演会 (埼玉県上尾市、9 月)
14. 上野聡一郎
第 1 回上尾市医師会緩和ケア勉強会 (埼玉県上尾市、8 月)
15. 上野聡一郎
第 4 回上尾市医師会医学会 (埼玉県上尾市、11 月)
16. 上野聡一郎
第 1 回上尾市医師会認知症対応能力研修会 (埼玉県上尾市、2 月)
17. 上野聡一郎
第 2 回上尾市医師会認知症対応能力研修会 (埼玉県上尾市、2 月)
18. 上野聡一郎
第 3 回上尾市医師会認知症対応能力研修会 (埼玉県上尾市、3 月)
19. 上野聡一郎
第 2 回上尾市医師会小児救急医療講演会 (埼玉県上尾市、3 月)

【その他】

1. 時論「療養病床削減の後に起こること」
上野聡一郎
上尾市医師会報 第 112 号:3-4

2. 勤務医コーナー「地域の救急医療について」

上野聡一郎

埼玉県医師会誌 706 : 115-116

3. 各県医師会報より「地域の救急医療について」

上野聡一郎

「熊医会報」熊本県医師会誌 第1483号 : 36958-36959

内科

【原著】

1. Relationship between response of gamma-glutamyltransferase to alcohol consumption and levels of fasting plasma glucose.

Hashimoto Y, Futamura A

Diabetes research and clinical practice 80:469-472

2. 病院職員の喫煙習慣と禁煙意欲について

橋本佳明、二村梓、高草木伸子、平澤誠、岩崎はるみ、野口小夜子、前山浩子、丸岡由和子、斉藤恭子、青木弘佳、大島聡子、岩佐優季、斉藤綾、高梨美穂、千葉陽子、寺内克彦、百瀬麻美、加藤佐代子

埼玉県医学会雑誌 印刷中

3. 病院職員の喫煙習慣と敷地内禁煙に対する意識—2008年のアンケート調査より

橋本佳明、高草木伸子、加藤佐代子、新井幸子、丸岡由和子、戸澤美香、井上ゆみ子、森美枝子、泉綾子、大島聡子、川邊祐子、斉藤綾、高梨美穂、千葉陽子、寺内克彦、百瀬麻美

埼玉県医学会雑誌 印刷中

4. 上尾市介護予防事業”元気アップ教室”の有効性について

橋本佳明、二村梓、吉田靖江、阿部井聡、吉田静子、持田ゆりえ

埼玉県医学会雑誌 印刷中

【単行本】

1. 運動療法の基本と実際

橋本佳明

慢性疾患薬物療法のツボ：脂質異常症 日本医事新報社

2. 原発性高脂血症の診断

橋本佳明

慢性疾患薬物療法のツボ：脂質異常症 日本医事新報社

3. 外来受診時のチェックポイント

橋本佳明

慢性疾患薬物療法のツボ：脂質異常症 日本医事新報社

4. 定期的な検査項目とその評価

橋本佳明

慢性疾患薬物療法のツボ：脂質異常症 日本医事新報社

5. 生化学検査

橋本佳明

臨床検査データブック 2009-2010 医学書院

【学会発表】

1. 喫煙に対する動脈硬化危険因子の反応の個体差

橋本佳明、二村梓

第51回日本糖尿病学会（東京都、5月）

2. 人間ドックで発見された生活習慣病症例における動脈硬化進展に関する検討. PWVを用いて(第3報)喫煙に関して

井上富夫、橋本佳明、向山美雄、梅田正五

第49回日本人間ドック学会(徳島県徳島市、9月)

3. アレルギー性鼻炎と喫煙との関係

橋本佳明、二村梓、井上富夫、向山美雄

第49回日本人間ドック学会(徳島県徳島市、9月)

【研究会・勉強会発表】

1. 喫煙と花粉症との関係

橋本佳明

第68回上尾市医師会糖尿病研究会(埼玉県上尾市、4月)

2. 運動時の発汗量と汗の電解質喪失量

橋本佳明

第69回上尾市医師会糖尿病研究会(埼玉県上尾市、6月)

3. 倦怠感、全身痛を主訴とした急性白血病の一症例

泉福恭敬

第10回臨床病理症例検討会(埼玉県上尾市、11月)

4. ACCORD試験の教訓

藤澤和彦

第4回上尾市医師会医学会(埼玉県上尾市、11月)

5. 糖尿病と花粉症との関係について

橋本佳明

第71回上尾市医師会糖尿病研究会(埼玉県上尾市、2月)

【講演会発表】

1. メタボリックシンドローム：病態と対処方法

橋本佳明

鴻巣保健所管内給食研究会(埼玉県鴻巣市、8月)

【座長・司会】

1. 橋本佳明

糖尿病セミナー2008(埼玉県上尾市、10月)

2. 橋本佳明

上尾地区糖尿病運動療法勉強会(埼玉県上尾市、3月)

3. 橋本佳明

上尾市民公開講座(埼玉県上尾市、3月)

【その他】

1. 日本内科学科雑誌座談会”臨床検査の現状と展望”

橋本佳明、矢富裕、小野敏嗣、三浦昇、村上正巳

日本内科学会雑誌 97(12):3014-3032

神経内科

【総説】

1. 肥厚性硬膜炎の診断と治療—最近の話題

山野井貴彦

神経眼科 25(4):451-458

【座長・司会】

1. 徳永恵子
第1回埼玉県中央脳卒中地域連携研究会（埼玉県上尾市、3月）

消化器科

【学会発表】

1. 当院における超高齢者及び若年者上部消化管出血の臨床的特徴と内視鏡的止血術の有用性に関する検討
山本龍一、高森頼雪、西川稿、川上知孝、笹本貴広、広瀬孝康、丸茂達之、明石雅博、吉川衆陽、山中正己
第75回日本消化器内視鏡学会総会（神奈川県横浜市、5月）
2. 下痢を主訴とした胆嚢結腸瘻の1例
川上知孝、山中正己、西川稿、高森頼雪、松下功、吉川衆陽、広瀬孝康、丸茂達之、笹本貴広、明石雅博、山本龍一
第75回日本消化器内視鏡学会総会（神奈川県横浜市、5月）
3. 残胃に発生した出血性GISTの一例
笹本貴広、川上知孝、山本龍一、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、高森頼雪、西川稿、山中正己、荒牧直、浦島太郎、宮内邦浩、長田宏巳
第86回日本消化器内視鏡学会関東地方会（東京都、6月）
4. 当院における胆嚢結石、胆管結石症に対する緊急ERCPと待機的ERCPの比較検討
山本龍一、西川稿、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、丸茂達之、高森頼雪、山中正己
第86回日本消化器内視鏡学会関東地方会（東京都、6月）
5. S状結腸膀胱瘻をきたした尿膜管癌の1例
江川優子、笹本貴広、三神昌樹、川上知孝、山本龍一、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、土屋昭彦、西川稿、山中正己、村松弘志、長田宏巳
第300回日本消化器病学会関東支部例会（東京都、7月）
6. 非典型的な画像を呈した肝細胞癌の1例
山本龍一、西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、明石雅博、笹本貴広、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、塩澤邦久、宮内邦浩、穴原賢治、長田宏巳、中野雅行、高森頼雪、山中正己
第49回日本消化器画像研究会（大阪府大阪狭山市、8月）
7. 出血性十二指腸潰瘍に対して内視鏡的止血術後に動脈血栓を来とし、壊死性胆嚢炎を併発した1例
明石雅博、江川優子、三神昌樹、川上知孝、山本龍一、笹本貴広、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第301回日本消化器病学会関東支部例会（東京都、9月）
8. 当院における悪性胆道狭窄の検討
西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、山本龍一、笹本貴広、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、山中正己
第44回日本胆道学会学術集会（愛知県名古屋市、9月）
9. 当院における胆管結石症に対する内視鏡治療 年齢別成績の比較検討
山本龍一、西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、笹本貴広、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、土屋昭彦、山中正己
第44回日本胆道学会学術集会（愛知県名古屋市、9月）
10. 当院における特発性内胆汁瘻の3症例の検討
三神昌樹、江川優子、川上知孝、山本龍一、笹本貴広、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第44回日本胆道学会学術集会（愛知県名古屋市、9月）

- 1 1. **当院で行われた内視鏡下の減黄術に対する疾患別、処置別検討**
西川稿、山本龍一、川上知孝、明石雅博、笹本貴広、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、高森頼雪、山中正己
第 76 回日本消化器内視鏡学会総会（東京都、10 月）
- 1 2. **胆管結石症に対する内視鏡治療 EST 及び EPBD の年齢別成績**
山本龍一、西川稿、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、丸茂達之、高森頼雪、山中正己
第 76 回日本消化器内視鏡学会総会（東京都、10 月）
- 1 3. **胆管浸潤・胆道出血により閉塞性黄疸を来した腎癌肝転移の一例**
笹本貴広、川上知孝、山本龍一、明石雅博、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、高森頼雪、西川稿、山中正己、坂本裕彦
第 12 回日本肝臓学会大会（東京都、10 月）
- 1 4. **胆管-空腸吻合術後に発生した吻合部狭窄および肝内結石に対して小腸内視鏡が有用であった 1 症例**
土屋昭彦、江川優子、三神昌樹、山本龍一、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、丸茂達之、松下功、西川稿、山中正己
第 34 回日本消化器内視鏡学会埼玉部会（埼玉県さいたま市、10 月）
- 1 5. **アルゴンプラズマ凝固術 (APC) が奏功した大腸毛細血管拡張の 1 例**
笹本貴広、三神昌樹、川上知孝、山本龍一、明石雅博、広瀬孝康、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第 34 回日本消化器内視鏡学会埼玉部会（埼玉県さいたま市、10 月）
- 1 6. **術前診断が困難であった胃癌の 1 例**
川上知孝、江川優子、三神昌樹、山本龍一、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、丸茂達之、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第 34 回日本消化器内視鏡学会埼玉部会（埼玉県さいたま市、10 月）
- 1 7. **9 年 6 ヶ月の長期予後が得られた HCV 陽性肝細胞癌の 1 例**
丸茂達之、江川優子、三神昌樹、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第 37 回日本肝臓学会東部会（東京都、12 月）
- 1 8. **非典型的な画像を呈した肝細胞癌の 1 例**
山本龍一、西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、塩澤邦久、宮内邦浩、穴内賢治、長田宏巳、中野雅行、高森頼雪、山中正己
第 37 回日本肝臓学会東部会（東京都、12 月）
- 1 9. **当院における 10 年間の肝細胞癌の治療成績**
三神昌樹、西川稿、山中正己
第 37 回日本肝臓学会東部会 パネルディスカッション（東京都、12 月）
- 2 0. **内視鏡切除が可能であった魚骨 (アオブダイ) による小腸穿孔の 1 例**
土屋昭彦、江川優子、三神昌樹、山本龍一、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、西川稿、山中正己
第 87 回日本消化器内視鏡学会関東地方会（東京都、12 月）
- 2 1. **術前経口膵管内視鏡検査が有用であった主膵管型膵管内乳頭腫瘍の 1 例**
山本龍一、西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、塩澤邦久、宮内邦浩、山中正己
第 87 回日本消化器内視鏡学会関東地方会（東京都、12 月）
- 2 2. **診断に難渋した胆嚢管癌の 1 例**
松下功、江川優子、三神昌樹、川上知孝、山本龍一、明石雅博、笹本貴広、丸茂達之、広瀬孝康、吉川衆陽、土屋昭彦、西川稿、山中正己
第 302 回日本消化器病学会関東支部例会（東京都、12 月）

23. **胃癌術後7年4ヶ月後に発生した肝内胆管癌・肺扁平上皮癌の同時性重複癌の1例**

関健朗、山本龍一、江川優子、三神昌樹、川上知孝、笹本貴広、明石雅博、広瀬孝康、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦

第303回日本消化器病学会関東支部例会（東京都、2月）

【研究会・勉強会発表】

1. **ESD(内視鏡的粘膜切除術)治療について**

土屋昭彦

4科合同勉強会（埼玉県上尾市、4月）

2. **ESD(粘膜剥離術)治療について**

土屋昭彦、西川稿、江川優子、三神昌樹、山本龍一、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、丸茂達之、吉川衆陽、松下功

第23回上尾消化器疾患研究会（埼玉県上尾市、9月）

3. **肝臓悪性黒色腫の1例**

笹本貴広

第33回A・Y・Oカンファランス（消化器症例検討会）（埼玉県さいたま市、10月）

4. **肝炎集団検診の実情と方向性**

西川稿

第6回埼玉県肝がんセミナー（埼玉県さいたま市、1月）

5. **術前診断に苦慮したGauzeomaの1例**

山本龍一、西川稿、江川優子、三神昌樹、川上知孝、笹本貴広、明石雅博、広瀬孝康、丸茂達之、吉川衆陽、松下功、土屋昭彦、山中正己

第38回肝胆膵治療研究会（愛知県名古屋市、3月）

【座長・司会】

1. 西川稿

第253回上尾市医師会学術講演会（埼玉県上尾市、5月）

2. 西川稿

埼玉県中央エリア病診連携の会（埼玉県上尾市、6月）

3. 笹本貴広

第34回日本消化器内視鏡学会埼玉支部会（埼玉県さいたま市、10月）

4. 西川稿

埼玉臨床消化器病セミナー2009（埼玉県さいたま市、2月）

【主催・共催】

1. 西川稿

第55回日本消化器病学会関東支部 市民公開講座 消化器病診療の最前線（埼玉県上尾市、10月）

外科

【学会発表】

1. **Weekly-Paclitaxelを中心とした集学的治療により長期にわたりQOLを維持できたMBCの1例**

飯塚美香

第16回日本乳癌学会総会（大阪府大阪市、9月）

2. **魚骨による小腸穿通を大腸内視鏡で摘出しえた1例**

荒牧直、岩崎賢太郎、飯塚美香、塩澤邦久、栗田淳、中熊尊士、宮内邦浩、上野聡一郎、三神昌樹、土屋昭彦、西川稿

第70回日本臨床外科学会総会（東京都、11月）

【研究会・勉強会発表】

1. PSTとしてAC-T施行後のTS-1+TAMで長期NCを得られたstageIV乳癌の1例
飯塚美香
第30回日本癌局所療法研究会（福岡県久留米市、5月）

【講演会発表】

1. 消化器がんに対する腹腔鏡下手術の現況
金平永二
福井県地域がん診療研修会・特別講演（福井県福井市、1月）

【座長・司会】

1. 宮内邦浩
北里大学外科腫瘍学研究会（東京都、2月）

整形外科

【原著】

1. 大腿骨転子下骨折の骨接合 dynamic condylar screwとlocking compression plate-distal femurの比較
松井健太郎、小林誠、松下隆
骨折 30(2):311-314
2. 足関節外果骨折の内固定 Antiglides plateとlateral plateの比較
松井健太郎、小林誠、松下隆
骨折 30(2):351-354
3. 骨化を伴ったアキレス腱付着部断裂に対し骨付き膝蓋腱を用いて再建した1例
村田佳太郎、印南健、大塚一寛、高尾昌人、松下隆
臨床整形外科 43(7):731-734
4. 大腿骨転子下骨折に対するLocking Compression Plate-Distal Femurを用いた治療
松井健太郎、小林誠、松下隆
整形災害外科 51(11):1393-1399
5. Guyon管に生じた神経鞘腫と同側肘部管症候群を併発した1例
志保井柳太郎、鳥濱智明、大塚一寛、海田長計、佐々木剛、福永秀、岩井俊也、安井洋一
埼玉県医学会雑誌 43(1):318-320
6. 成人橈骨頸部骨折にたいしてMetaizeau techniqueを用いて肘機能を再建できた1例
安井洋一、志保井柳太郎、岩井俊也、福永秀、佐々木剛、鳥濱智明、海田長計、大塚一寛
埼玉県医学会雑誌 43(1):321-324

【学会発表】

1. 関節リウマチに対するミゾリビン食間単回投与方法の有効性と安全性の検討（第1報）
笹原潤、西村慶太、中村直嗣、福永秀、松下隆
第52回日本リウマチ学会総会（北海道札幌市、4月）
2. 関節リウマチに対するミゾリビン食間単回投与方法の有効性と安全性の検討（第2報）
中村直嗣、西村慶太、福永秀、笹原潤、松下隆
第52回日本リウマチ学会総会（北海道札幌市、4月）
3. 踵・舟状骨癒合症に対して癒合部切除および遊離皮下脂肪移植を行った一例
松井健太郎、高尾昌人、印南健、松下隆
第33回日本足の外科学会（東京都、6月）
4. 大腿骨転子部骨折の内固定後に骨頭下二次骨折を生じた3例
松井健太郎、小林誠、松下隆

第 34 回日本骨折治療学会（福岡県福岡市、6 月）

5. **下肢偽関節に対する腸骨ブロック移植**

西原信博、佐々木剛、大塚一寛

第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

6. **陳旧性アキレス腱断裂に対して lindholm 変法を用い良好な術後成績を得られたスポーツ選手の 1 例**

佐藤健二、大塚一寛、印南健

第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

7. **市中獲得型 MRSA (CA-MRSA) による小児臀部皮下および殿筋内膿瘍の 1 例**

原田紀子、福永秀、岩井俊也、松井健太郎、鳥濱智明、海田長計、大塚一寛

第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

【講演会発表】

1. **小児のスポーツ障害**

鳥濱智明

上尾市スポーツ少年団認定員研修会（埼玉県上尾市、12 月）

形成外科

【原著】

1. **当科における顔面骨骨折手術例の臨床検討**

朴圭一、石黒匡史、馬場香子、下総美奈子、内沼栄樹

埼玉県医学会雑誌 43(1):160-164

【学会発表】

1. **成人の臍ヘルニア手術の検討**

馬場香子、石黒匡史、柴田裕達、毛利麻里、増田竜児、高野知子、内沼栄樹

第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会（愛知県名古屋市、4 月）

2. **前腕皮弁と側頭筋移行を用いた口角部広範囲欠損の再建を行った 2 例**

吉竹俊裕、石黒匡史、松尾あおい、馬場香子、朴圭一

第 11 回北里形成外科フォーラム（神奈川県横浜市、11 月）

3. **組織拡張器で治療した頭部巨大色素性母斑の 1 例**

石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕、宮内邦浩

第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

【研究会・勉強会発表】

1. **bFGF 製剤による創傷の治療**

石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕

第 1 回中部埼玉地区創傷治癒研究会（埼玉県上尾市、8 月）

2. **フィブラスプレーによる創傷治療の実際**

石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕

第 2 回中部埼玉地区創傷治癒研究会（埼玉県上尾市、2 月）

【主催・共催】

1. 石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕

第 1 回中部埼玉地区創傷治癒研究会（埼玉県上尾市、8 月）

2. 石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕

第 2 回中部埼玉地区創傷治癒研究会（埼玉県上尾市、2 月）

皮膚科

【学会発表】

1. **関節拘縮を伴った線状強皮症の1例**
内山真樹、大久保ゆかり、三橋善比古、坪井良治、熊田篤、河島尚志
第20回日本アレルギー学会春季臨床大会（東京都、6月）
2. **アスリート結節**
内山真樹、三橋善比古
第818回日本皮膚科学会東京地方会（東京都、6月）
3. **右眉毛部に生じた有茎性脂腺癌の1例**
内山真樹、松本由香、藤原尚子、入澤亮吉、小松威彦
第820回日本皮膚科学会東京地方会（東京都、9月）
4. **Churg-Strauss 症候群の2例**
内山真樹、山崎正視、坪井良治、庄治亜樹、林映、太原恒一郎
第823回日本皮膚科学会東京地方会（東京都、1月）

泌尿器科

【原著】

1. **上尾中央総合病院泌尿器科における2005年から2007年までの3年間の入院手術統計**
小川一栄、長澤丞志、佐藤ミカ、渋谷美智子、松田隆晴、金子昌司、佐藤聡、友政宏、村松弘志、飯山徹郎、服部一紀
西日本泌尿器科 70(12):662-668

【学会発表】

1. **内分泌療法中の前立腺癌症例での骨密度の検討**
佐藤聡、小川一栄、渋谷美智子、村松弘志
第73回日本泌尿器科学会東部総会（東京都、9月）
2. **アンドロゲン除去療法中の前立腺癌症例での骨密度の検討**
佐藤聡、小川一栄、村松弘志
第4回上尾市医師会医学会（埼玉県上尾市、11月）
3. **回腸利用新膀胱を行った浸潤性膀胱癌症例の検討**
小川一栄、佐藤聡、村松弘志
第4回上尾市医師会医学会（埼玉県上尾市、11月）
4. **過活動膀胱症例に対するソリフェナシンの有効性の検討**
佐藤聡、小川一栄、村松弘志
第46回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2月）
5. **巨大後腹膜脂肪肉腫の1例**
小川一栄、佐藤聡、村松弘志
第46回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2月）

【研究会・勉強会発表】

1. **アンドロゲン除去療法中の前立腺癌症例での骨密度の検討**
佐藤聡、小川一栄、村松弘志
第13回埼玉前立腺研究会（埼玉県さいたま市、2月）

【講演会発表】

1. **頻尿の診断と治療～過活動膀胱を中心に**
佐藤聡

第 255 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、7 月)

2. **前立腺癌について～PSA 検診の重要性と最近の話題**

佐藤聡

第 256 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、9 月)

3. **Male LUTS に対する $\alpha 1$ ブロッカーと抗コリン薬の使用経験**

佐藤聡

排尿障害学術講演会 (埼玉県さいたま市、10 月)

【座長・司会】

1. 佐藤聡

Urology Expert Conference (埼玉県上尾市、9 月)

2. 村松弘志

第 256 回上尾市医師会学術講演会 (埼玉県上尾市、9 月)

3. 村松弘志

第 4 回上尾市医師会医学会 (埼玉県上尾市、11 月)

産婦人科

【学会発表】

1. **ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤 Hctoxin による hCG 分泌および細胞増殖を標的にした絨毛性疾患の制御**

太田邦明

第 60 回日本産科婦人科学会 (神奈川県横浜市、4 月)

2. **乳癌術後のアロマターゼ阻害剤の使用により続発性骨粗鬆症を呈した一例-ホルモン抑制剤の功罪から学ぶこと-**

太田邦明、蓬田奈保子、中上弘茂、古川隆正、森田峰人

第 115 回日本産婦人科学会関東連合地方部会 (東京都、6 月)

3. **TJ 療法が奏功した子宮内膜間質肉腫の一例**

太田邦明、蓬田奈保子、中上弘茂、古川隆正、森田峰人

第 115 回日本産婦人科学会関東連合地方部会 (東京都、6 月)

眼科

【学会発表】

1. **うっ血乳頭が唯一の所見であった乳癌の髄膜播腫の 1 例**

徳倉美智子、高草木伸子、田村真理、岸章治

第 62 回日本臨床眼科学会 (東京都、10 月)

耳鼻咽喉科

【原著】

1. **Optokinetic nystagmus and after-nystagmus during a 6 hour bedrest study**

Kazue Hida, Yasuyuki Nomura, Makoto Igarashi, Masamichi Sudoh, Akira Tada, Yoshiki Sugiyama, Shuntaro Shigihara, Minoru Ikeda

Acta Oto-Laryngologica 128(7):761-767

【学会発表】

1. **耳鼻咽喉科と口腔外科によるチーム医療の現況**

大崎政海、徳永英吉、肥田修、肥田和恵、根本英樹、林裕史、木下慎吾、原睦子

第 10 回 S.S.O. (Sonic Symposium on Otolaryngology) (埼玉県さいたま市、7 月)

2. **ダイナミックチタンプレートで眼窩底再建を行った上顎癌症例**

木下慎吾、大崎政海、原睦子、肥田修、肥田和恵、根本英樹、林裕史、徳永英吉、石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕、富田文貞、下田正穂、高草木伸子
第 100 回日本耳鼻咽喉科学会埼玉県地方部会（埼玉県さいたま市、10 月）

3. **頭頸部多重癌の検討**

根本英樹、大崎政海、肥田修、肥田和恵、林裕史、木下慎吾、原睦子、徳永英吉、石黒匡史、中熊尊士、吉川衆陽、村田修
第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

【その他】

1. **（社）日本女医会埼玉支部創立 50 周年記念事業パネルディスカッションの報告**

女性勤務医の勤務環境改善に何ができるか

原睦子、深井登起子、村田郁、吉住幸子、足立喬子、佐瀬くらら、田中蘭子、西原潔子、畑靖子、源川千鶴子、三須雅子、宮坂晴子、吉崎喜美子
埼玉県医師会誌 702 : 40-45

2. **たかが鼻づまりと侮ってはいませんか？**

原睦子
いきいき 47(3):20-21

麻酔科

【原著】

1. **喉頭浮腫による高齢者陰圧性肺水腫の 1 例**

江口広毅
日本集中治療医学会雑誌 15(3):343-344

【単行本】

1. **32 章, 33 章, 53 章 翻訳**

平田一雄
エビデンスに基づく実践麻酔科学 エルゼビア・ジャパン

放射線科

【講演会発表】

1. **Comparison of SPM and NEUROSTAT in voxelwise statistical analysis of brain SPECT and MRI at the early stage of Alzheimer's disease**

西宮理気
第 7 回脳 SPECT 解析講演会（埼玉県さいたま市、3 月）

【座長・司会】

1. 綾部善治

第 10 回上尾画像診断研究会（埼玉県上尾市、5 月）

2. 綾部善治

第 11 回上尾画像診断研究会（埼玉県上尾市、10 月）

3. 綾部善治

第 46 回埼玉県医学会総会（埼玉県さいたま市、2 月）

【主催・共催】

1. 綾部善治

第 10 回上尾画像診断研究会（埼玉県上尾市、5 月）

2. 綾部善治

第11回上尾画像診断研究会（埼玉県上尾市、10月）

人間ドック科

【学会発表】

1. Light chain deposition disease (LCDD)の1例

向山美雄、高雄泰行、水村泰治、笠原成彦、江本因

第53回日本透析医学会学術集会・総会（兵庫県神戸市、6月）

【研究会・勉強会発表】

1. 長期透析患者にみられた舌アミロイドーシスの1例

向山美雄

第19回埼玉中部透析療法懇話会（埼玉県さいたま市、7月）

■ 看護部 ■

【学会発表】

1. 看護業務内容と時間の分析～日常空間援助にかかる時間から～

中西真紀、田所恵子、旭真樹子

第50回全日本病院学会東京大会（東京都、11月）

2. 術中訪問導入の検討について

山本茉智子、及川理香、高橋健治

第8回AMG看護学会（東京都、2月）

【講演会発表】

1. ケアプロセス評価の対策と外来看護記録の充実に！病院機能評価受審における外来部門の準備の実際

工藤潤

日総研主催セミナー（広島県広島市、1月）

【座長・司会】

1. 野崎浩子

第18回埼玉看護研究学会（埼玉県、11月）

【主催・共催】

1. 土屋文

術後リンパ浮腫予防のためのセルフケア研修会（埼玉県上尾市、10月）

【その他】

1. 先輩ナースのオススメ BOOK

工藤潤

看護師のための情報誌 フラップ

2. 外来における病院機能評価に向けた準備と対策

工藤潤

外来看護最前線 生活習慣病&外来がん看護 14(1):4-8

3. 看護管理者のキャリア発達を目指して ～マネジメントリーダーと教育体制の構築～

工藤潤

ナーシングビジネス 3(1):29-33

4. **看護管理のエキスパートになる為の資格「認定看護管理者」**

池田裕季子(集中治療室看護科)

ナース専科 29(3):14

5. **政治アカデミーを受講して**

工藤潤

埼玉県看護連盟 連盟だより・さいたま

■ 薬剤部 ■

【学会発表】

1. **上尾中央総合病院における緩和ケアチーム及び薬剤師の麻薬管理に関する取り組み**

増田朝子、中野泰寛、長谷川真弓、増田裕一、木村友江、上野聡一郎

第13回日本緩和医療学会学術大会 (静岡県静岡市、7月)

2. **緑膿菌のCFPM耐性化における危険因子の検討**

小林理栄、小倉潤子、中野泰寛、藤本希久加、加藤彰範、石岡亜由美、新井亘、増田裕一

医療薬学フォーラム2008 第16回クリニカルファーマシーシンポジウム (東京都、7月)

3. **がん化学療法における当院の状況と外来処方への取り組み**

川岸祥子、中野泰寛、国吉央城、神谷徹也、多川洋史、大島聡子、増田裕一

日本病院薬剤師会関東ブロック第38回学術大会 (山梨県甲府市、8月)

4. **VCMの臨床効果に影響を及ぼす因子の検討**

小倉潤子、中野泰寛、藤本希久加、加藤彰範、小林理栄、石岡亜由美、新井亘、増田裕一

第18回日本医療薬学会年会 (北海道札幌市、9月)

5. **薬剤師による情報提供のデータベース化に向けた取り組み**

長島真洋、鷺谷明子、堀越広美、新井亘、増田裕一

第29回CMS学会 (東京都、9月)

6. **非麻薬性鎮痛薬の使用状況およびオピオイド製剤への移行の調査報告**

成瀬茉耶、増田朝子、中野泰寛、増田裕一、木村友江、上野聡一郎、大江和夫

第2回日本緩和医療薬学会年会 (神奈川県横浜市、10月)

7. **当院院外処方におけるオピオイド製剤及び併用薬剤の使用状況**

中野泰寛、増田裕一、増田朝子、友政宏、木村友江、上野聡一郎

第4回上尾市医師会医学会 (埼玉県上尾市、11月)

8. **薬剤師による情報提供のデータベース化に向けた取り組み**

長島真洋、鷺谷明子、堀越広美、新井亘、増田裕一

第50回全日本病院学会東京大会 (東京都、11月)

9. **NST稼働3年目の問題点と対策～NSTの認識度調査を踏まえて～**

藤本希久加、石岡亜由美、小木篤仁

第24回日本静脈経腸栄養学会 (鹿児島県鹿児島市、1月)

10. **当院におけるClostridium difficile感染症に関与する危険因子の検討**

加藤彰範、小倉潤子、中野泰寛、藤本希久加、小林理栄、石岡亜由美、新井亘、増田裕一

第24回日本環境感染学会総会 (神奈川県横浜市、2月)

【研究会・勉強会発表】

1. **RECISTガイドラインについて**

中野泰寛

- 平成 20 年度第 1 回 AMG 薬剤部がん専門薬剤師育成セミナー（埼玉県上尾市、5 月）
2. **メロペン 14 日超え投与の妥当性～症例報告～**
新井亘
2008 年度第 1 回 AMG 感染制御セミナー（埼玉県川口市、6 月）
 3. **ARDS、骨髄炎に対する感染症治療～症例報告～**
加藤彰範
2008 年度第 2 回 AMG 感染制御セミナー（埼玉県上尾市、8 月）
 4. **当院における VRE 対策について**
小倉潤子
2008 年度第 2 回 AMG 感染制御セミナー（埼玉県上尾市、8 月）
 5. **大腸癌化学療法の症例検討**
中野泰寛
平成 20 年度第 2 回 AMG 薬剤部がん専門薬剤師育成セミナー（埼玉県上尾市、9 月）
 6. **薬学一般**
新井亘
AMQI メディカルクラーク研修会（埼玉県上尾市、10 月）
 7. **患者に合わせたオピオイドレスキューの管理方法**
関根光穂子、小倉潤子、増田裕一
第 34 回埼玉がん緩和ケア研究会（埼玉県さいたま市、11 月）
 8. **胃癌化学療法の症例検討**
中野泰寛
平成 20 年度第 3 回 AMG 薬剤部がん専門薬剤師育成セミナー（埼玉県上尾市、11 月）
 9. **感染制御認定薬剤師認定試験問題より**
加藤彰範
2008 年度第 3 回 AMG 感染制御セミナー（埼玉県上尾市、12 月）
 10. **シェーンライン・ヘノッフ紫斑病の栄養管理**
藤本希久加
2008 年度第 3 回 AMG 薬剤部 NST セミナー（埼玉県上尾市、1 月）
 11. **PCA ポンプを用いて疼痛コントロールを在宅にて行った大腸がん症例**
中野泰寛
平成 20 年度第 4 回 AMG 薬剤部がん専門薬剤師育成セミナー（埼玉県上尾市、2 月）
 12. **VCM の臨床効果に影響を及ぼす因子の検討～統計学的解析方法を踏まえ～**
小倉潤子
2008 年度第 4 回 AMG 感染制御セミナー（埼玉県上尾市、2 月）

■ 診療技術部 ■

リハビリテーション技術科

【学会発表】

1. **体幹伸展運動と体幹屈曲運動が身体に及ぼす影響の違い**
近藤秀幸
第 43 回日本理学療法学会（福岡県、5 月）

2. **ALSにより早期に歩行困難を呈した症例に対する訪問リハビリテーション**
白石和也
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
3. **介入方法による静止立位姿勢変化の差異**
中原大輔
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
4. **姿勢の偏位と疼痛との関係**
長村史朗
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
5. **意識が立位姿勢アライメントに与える影響**
増淵喜秋
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
6. **転倒から見た特定高齢者選定の妥当性と特定高齢者の特徴**
宮原拓也
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
7. **再評価実施が運動習慣に与える影響について**
新井大志
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
8. **介入方法の違いによる運動意識の違いについて**
高島美紀
第43回日本理学療法学会大会（福岡県、5月）
9. **架け橋将来展望**
足立洋二
AMGリハビリテーション学会（東京都、11月）
10. **注意障害に対する考え方と治療アプローチについて**
村上満
第50回全日本病院学会東京大会（東京都、11月）

検査技術科

【学会発表】

1. **深部静脈血栓症超音波における骨盤空内血栓簡易評価法の開発（症例報告）**
柏原敦、小島徳子、野本隆之、浅田牧子、田名見里恵、羽賀利恵子、寺内克彦、袴田博文
第57回日本医学検査学会（北海道札幌市、5月）
2. **深部静脈血栓症超音波における骨盤空内血栓簡易評価法の開発II（基準設定）**
野本隆之、小島徳子、柏原敦、浅田牧子、田名見里恵、羽賀利恵子、寺内克彦、袴田博文
第57回日本医学検査学会（北海道札幌市、5月）
3. **超音波骨盤腔血栓評価法（FMM簡易評価法）で評価が難しいケース**
野本隆之
第45回関東甲信地区医学検査学会（山梨県昭和町、11月）
4. **巨大冠動脈が冠静脈洞へ開口し、感染性心内膜炎を発症した一例**
石川美奈、高野綾乃、野口美恵、橋本真由美、吉成一恵、野本隆之、小島徳子
第45回関東甲信地区医学検査学会（山梨県昭和町、11月）
5. **整形外科手術患者における下肢静脈血栓症について（第2報）**
寺内克彦、田名見里恵、浅田牧子、野本隆之、石川弥生、小島徳子
第45回関東甲信地区医学検査学会（山梨県昭和町、11月）

6. **インシデント例から学ぶ安全な採血業務**
浅田牧子
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）
7. **術前 3D 心エコーが有用であった心房中隔欠損症の一例**
野口美恵、高野綾乃、橋本真由美、石川美奈、吉成一恵、野本隆之、小島徳子
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）
8. **当院における血液製剤廃棄率低減への取り組み**
吉崎由梨、清水陽子、長谷川卓也、小島徳子
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）
9. **コアグチェック XS の有用性とその運用について**
柴田真明、中田恵子、百瀬麻美、松本さゆり、小島徳子
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）

【研修会・勉強会発表】

1. **診断に役立つ細胞初見その 4**
穴原賢治
埼玉県臨床検査技師会 生涯教育研修（埼玉県さいたま市、4 月）
2. **学ぼう腹部エコー「観察、報告のポイント」**
野本隆之
埼玉県臨床検査技師会 生理検査研究班勉強会（埼玉県さいたま市、10 月）

【講演会発表】

1. **腹部超音波検査ハンズオン&実技講習会**
野本隆之、浅田牧子、田名見里恵、寺内克彦
AMG 臨床検査技師講習会（埼玉県上尾市、7 月）
2. **チーム医療参画への検査室運営の工夫**
小島徳子
埼玉県臨床検査技師会生涯教育研修プログラム（埼玉県さいたま市、2 月）

【座長・司会】

1. 川野智美
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）
2. 松本さゆり
第 38 回埼玉県医学検査学会（埼玉県さいたま市、11 月）

放射線技術科

【学会発表】

1. **血管造影室と CT 室における冠動脈検査情報の共有**
石川応樹、佐々木和義、田中武志、綾部善治
第 58 回日本病院学会（山形県山形市、7 月）
2. **64 列 MDCT が心臓カテーテル検査にもたらす影響**
佐々木庸浩、田中武志
第 44 回全国病院経営管理学会（東京都、11 月）
3. **CT. MRI 検査造影剤の診療報酬請求漏れの改善**
太刀川亮、土岐義一、佐々木和義、田中武志
第 50 回全日本病院学会東京大会（東京都、11 月）
4. **ASSET factor における SNR の検討**
石川応樹、太田陽一郎、鹿又憲仁、佐々木和義、田中武志

第 24 回埼玉放射線学術大会（埼玉県、3 月）

5. **IVUS にて測定した MSA 別にみた EMDCT 内腔評価**

太田陽一郎、福田知世(呼吸循環係)、吉井章

CCT2009（兵庫県神戸市、1 月）

【研究会・勉強会発表】

1. **ECG Editor の臨床使用経験と心臓検査について**

吉井章

関西 GECT 研究会（大阪府大阪市、8 月）

2. **人事考課制度の構築**

田中武志

第 6 回 Landmark Conference（熊本県熊本市、11 月）

3. **フィルムレス運用実施病院事例報告**

小林悟史

平成 20 年度診療放射線業務委員会報告会（東京都、3 月）

【座長・司会】

1. 田中武志

全国病院経営管理学会（東京都、3 月）

臨床工学科

【学会発表】

1. **IVUS にて測定した MSA 別にみた EMDCT 内腔評価**

太田陽一郎(放射線技術科)、福田知世、吉井章(放射線技術科)

CCT2009（兵庫県神戸市、1 月）

栄養科

【学会発表】

1. **緩和ケア回診より見えてきた癌患者の嗜好と栄養士の役割**

長岡亜由美、佐藤美保

第 55 回日本栄養改善学会学術総会（神奈川県鎌倉市、9 月）

■ 事務局 ■

【主催・共催】

1. **点数改正後の再確認（加算・入院料）**

小池慎吾、駒井広子

院内勉強会（埼玉県上尾市、6 月）

2. **医療事務職員としての自賠責保険基礎知識**

山根達弥

院内勉強会（埼玉県上尾市、3 月）

【その他】

1. **「記録」のすすめ Access を利用した業務日誌の作成**

山崎喜代

ほすびたるらいぶらりあん 33(4):275-278

教育研究活動記録

■ 上尾市医師会・上尾中央総合病院共催：教育研究活動 ■

■ 上尾画像診断研究会

第 10 回 平成 20 年 5 月 13 日	<p>有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム - 89 治療 注射 1 本で治す骨転移疼痛 -</p> <p>埼玉医科大学国際医療センター 核医学科 准教授 久慈一英 先生</p>	35 名
第 11 回 平成 20 年 10 月 14 日	<p>教育講演 肝臓 MRI の撮像法と造影剤の利用法</p> <p>慶應義塾大学医学部 放射線診断科 准教授 谷本伸弘 先生</p>	27 名

■ 上尾循環器研究会

第 19 回 平成 20 年 5 月 16 日	<p>診療に苦慮した心筋梗塞の一例</p> <p>循環器科：岩田和也</p>	15 名
	<p>浅大腿動脈慢性閉塞症例の治療戦略</p> <p>順行性アプローチか？逆行性アプローチか？</p> <p>循環器科：齋藤雅彦</p>	
	<p>心臓再同期療法</p> <p>循環器科：西村昌雄</p>	
第 20 回 平成 20 年 9 月 19 日	<p>睡眠時無呼吸症候群</p> <p>循環器科：西村昌雄</p>	11 名
	<p>日本における薬剤溶出型ステントの歴史と上尾中央総合病院の現状</p> <p>循環器科：齋藤雅彦</p>	
第 21 回 平成 20 年 11 月 21 日	<p>心臓血管外科 最近の動向</p> <p>埼玉医科大学国際医療センター 心臓センター 心臓血管外科 教授 新浪博 先生</p>	34 名
第 22 回 平成 21 年 1 月 16 日	<p>EnSite 法を用いた発作性心房頻拍の治療</p> <p>循環器科：西村昌雄</p>	7 名
	<p>Ageo PCI up date</p> <p>循環器科：齋藤雅彦</p>	

■ 臨床病理症例検討会（CPC）

第 9 回 平成 20 年 6 月 10 日	<p>小腸間膜リンパ管腫の 1 症例</p> <p>外科：浦島太郎</p>	31 名
	<p>膵管内乳頭粘液性腫瘍の 1 症例</p> <p>外科：宮内邦浩</p>	
第 10 回 平成 20 年 11 月 11 日	<p>倦怠感、全身痛を主訴とした急性白血病の 1 症例</p> <p>内科：泉福恭敬</p>	34 名

第 11 回 平成 21 年 3 月 31 日	腹膜中皮腫の一剖検例 消化器科：笹本貴広	21 名
----------------------------	-------------------------	------

■ 上尾消化器疾患研究会		
第 23 回 平成 20 年 9 月 9 日	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD について) 消化器科：土屋昭彦	31 名
第 24 回 平成 21 年 1 月 20 日	逆流食道炎・胃炎・大腸癌 - 炎症から癌へ - 帝京大学医学部 内科 教授 久山泰 先生	30 名

■ 委員会主催：教育研究活動 ■ (全職員対象)

■ 上尾塾 A		クレーム対策検討委員会・患者安全対策委員会
平成 20 年 6 月 21 日 平成 20 年 7 月 5 日	医療安全について 医療安全管理課：高柳克江	6 月 92 名
	診療録の重要性・記載の仕方 東京海上日動メディカルサービス株式会社 工藤千佳 先生	
	事例から学ぶ事故・紛争防止 東京海上日動メディカルサービス株式会社 長野展久 先生	7 月 61 名

■ 上尾塾 B		クレーム対策検討委員会・患者安全対策委員会
平成 20 年 6 月 28 日 平成 20 年 7 月 26 日	当院 1 年間のクレーム分析：医師接遇について 患者支援課：丸田宜利	6 月 88 名
	当院 1 年間の医療トラブルについて 虎ノ門南法律事務所 加藤慎 先生	
	医療クレーム・トラブルに対する一次対応 早稲田大学紛争交渉研究所 和田仁孝 先生	7 月 45 名

■ 全体 NST 勉強会		NST 委員会
第 3 回 平成 20 年 7 月 22 日	NST 介入症例報告 リハビリテーション技術科 嚥下訓練について 栄養科 経腸栄養法について	56 名
	NST 介入症例報告 薬剤部 日本静脈経腸栄養学会「発表報告」 外科 胃瘻 (PEG) 造設について	
第 4 回 平成 21 年 2 月 24 日		62 名

■ 救急医療勉強会		患者安全対策委員会・救急医療委員会・臨床研修委員会
平成 20 年 7 月 24 日	見逃してはいけない救急患者 自治医科大学附属病院 医療安全対策部 教授 長谷川剛 先生	104 名

■ 治験に関する勉強会		治験審査委員会
平成 20 年 8 月 18 日	治験実施体制について 株式会社クリニカルサポート 橋本ひろ美 先生	41 名

■ 疼痛緩和ケア勉強会		緩和ケア部会
第 11 回 平成 20 年 8 月 22 日	緩和ケアにおける看護師の役割 - せん妄患者における関わりを例に - 埼玉県立がんセンター がん看護認定看護師 清水麻美子 先生 ※主催：上尾市医師会 共催：上尾中央総合病院緩和ケア部会・上尾甕生病院	95 名
第 13 回 平成 20 年 11 月 27 日	栄養科 緩和ケア回診から見えてきた癌患者の嗜好と栄養士の役割 4D 病棟 緩和ケアを行ってきた患者への精神的フォローと その家族との関わり ～本人を取り巻く人たちとの架け橋～	71 名
第 14 回 平成 21 年 2 月 26 日	歯科口腔外科 緩和ケアにおける口腔ケア 8A 病棟 余命一週間で介護介入した一症例	41 名

■ 化学療法中の脱毛ケアと医療用ウィッグ		抗癌剤専門部会
平成 20 年 9 月 25 日	がん化学療法と脱毛のメカニズム 外来看護科（外来化学療法室）：土屋文	26 名

■ クリニカルパス大会		クリニカルパス委員会
第 14 回 平成 20 年 10 月 4 日	2C 病棟：消化器科 「ERCP パス」 6A 病棟：内科 「悪性リンパ腫 化学療法（R-CHOP 療法）パス見直し」 金沢文庫病院 「ラパコレ ～外来から入院へのプロセス～」	67 名
第 15 回 平成 20 年 12 月 20 日	3C 病棟：リハビリ科 「脳梗塞回復期リハビリテーションパス」 5A 病棟：耳鼻咽喉科 「耳鼻科パス ～患者用におけるオーバービューと 日めくりパスの比較～」 三郷中央総合病院 「心臓カテーテル検査（橈骨アプローチ用）パス」	76 名
第 16 回 平成 21 年 2 月 20 日	9A 病棟：消化器科 「C 型肝炎 ペグイントロン・レボテール併用療法 肝生検あり・なしパス」 10A 病棟：脳神経外科 「脳アンギオ（一泊）パス」 越谷誠和病院 「当院におけるクリニカルパスの現状 作成から改訂に至るまで」	72 名

■ 死亡診断書の書き方の勉強会		医療の質向上委員会・人材育成委員会
平成 20 年 10 月 18 日	死亡診断書の正しい書き方について - 死亡統計と診療情報の利用 - 医療法人社団ジャパンメディカルアライアンス 診療情報管理士指導者 須貝和則 先生	34 名

■ 禁煙勉強会		生活習慣病教室運営部会
第3回 平成20年11月25日	喫煙による健康障害と禁煙方法 生活習慣病センター：橋本佳明	7名

■ ディベート討論会		人材育成委員会看護部会
平成21年2月27日	論題：病棟・外来の一元化で看護の質が向上する！	59名

■ 研究発表会 ■

■ 看護研究発表会		
平成20年5月24日		
2C病棟看護科	看護業務内容と時間の分析 - 日常生活援助にかかる時間から - ◎中西真紀、旭真樹子、田所恵子、和田由美子、金子由香子	
5A病棟看護科	ストーマ造設患者の早期指導介入へむけて ◎加藤澄代、小山展子、原口敦美、岩屋芙美	
外来看護科	退院後の継続看護の質を向上させるために - 病棟・外来看護師で話し合いをして - ◎小高栄子、渡辺淑子、加藤彩子、飯山芳江、宮崎寿子、加藤淳子、斉藤則子、滝沢睦子	
4D病棟看護科	沐浴槽の洗浄・消毒方法に関する文献的検討 ◎村松奈津美、桃井聖未、斉藤靖枝	
3C病棟看護科	脳卒中患者が求める退院指導 - 退院指導パンフレット作成 - ◎桑原美輝、大塚美穂、成瀬敦子、餅原博子	
7A病棟看護科	効果的なアイシング療法についての検証 ◎風間成介、高橋幸、上ヶ平美香、箱田さやか、指出香子	
手術室看護科	術中訪問導入の検討について ◎山本茉智子、及川理香、高橋健治	
5C病棟看護科	小児持続点滴シーネ固定法の改善 - 交換・観察しやすく確実な固定法 - ◎尾崎直子、矢代深佳、徳永さやか、佐々木美保	
9A病棟看護科	「誰でも同じトロミ水を作る方法」の理想モデルの作成 ◎戸澤美香、藤本恵美、宮本百合、寺澤広江、高橋玲子	
保健指導科	夜勤が労働者の健康に及ぼす影響について ◎栗原里子、岡野直美、中里里美、山室直子、平野邦子	

■ 学術研究発表会		学術委員会
平成 21 年 2 月 28 日	61 名	
看護部	ストーマ造設患者への看護師の指導内容統一に向けて 5A 病棟看護科 演者：加藤澄代 座長：岩屋芙美 ◎加藤澄代、小山展子、原口淳美、岩屋芙美	
	看護業務内容と時間の分析 - 日常生活援助にかかる時間から - 2C 病棟看護科 演者：中西真紀 座長：金子由香子 ◎中西真紀、旭真樹子、田所恵子	
薬剤部	上尾中央総合病院における緩和ケアチーム及び薬剤師の麻薬管理に関する取り組み 演者：増田朝子 座長：中野泰寛 ◎増田朝子、中野泰寛、長谷川真弓、増田裕一、木村友江、上野聡一郎	
リハビリテーション技術科	転倒から見た特定高齢者選定の妥当性と特定高齢者の特性 演者：宮原拓也 座長：小林由美子 ◎宮原拓也	
検査技術科	深部静脈血栓症超音波における骨盤腔内血栓簡易評価法の開発 演者：野本隆之 座長：浅田牧子 ◎野本隆之	
放射線技術科	冠動脈 CT における ECG Editor 機能を用いた不整脈症例 演者：中山勝雅 座長：吉井章 ◎中山勝雅、吉井章、佐々木庸浩、佐々木和義、田中武志	
栄養科	緩和ケア回診から見てきた癌患者の嗜好と栄養士の役割 演者：長岡亜由美 座長：佐藤美保 ◎長岡亜由美、佐藤美保	
内科	人間ドックにより発見された生活習慣病における動脈硬化進展に関する検討 PWV を用いて (第 3 報) 喫煙に関して 演者：井上富夫 座長：藤澤和彦 ◎井上富夫、橋本佳明、向山美雄、梅田正五	
消化器科	当院における 10 年間の肝細胞癌の治療成績 演者：三神昌樹 座長：丸茂達之 ◎三神昌樹、江川優子、山本龍一、川上知孝、明石雅博、広瀬孝康、笹本貴広、吉川衆陽、丸茂達之、松下功、土屋昭彦、西川稿、山中正己	
外科	魚骨による小腸穿通を大腸内視鏡で異物摘出し治癒しえた 1 例 演者：荒牧直 座長：栗田淳 ◎荒牧直、岩崎賢太郎、飯塚美香、塩澤邦久、栗田淳、中熊尊士、宮内邦浩、上野聡一郎、三神昌樹、土屋昭彦、西川稿	
形成外科	口角機能を考慮した口唇の再建の 2 例 演者：吉竹俊裕 座長：石黒匡史 ◎吉竹俊裕、石黒匡史、松尾あおい	

泌尿器科	回腸利用新膀胱を行った浸潤性膀胱癌症例の検討 演者：小川一栄 座長：佐藤聡 ◎小川一栄、佐藤聡、村松弘志
耳鼻咽喉科	ダイナミックチタンプレートで眼窩底再建を行った上顎癌症例 演者：木下慎吾 座長：大崎政海 ◎木下慎吾、大崎政海、原睦子、肥田修、肥田和恵、根本英樹、林裕史、徳永英吉、石黒匡史、松尾あおい、吉竹俊裕、富田文貞、下田正徳、高草木伸子
人間ドック科	長期透析患者にみられた舌アミロイドーシスの1例 演者：向山美雄 座長：富田文貞 ◎向山美雄

☆院長賞受賞☆ 演題抄録

【検査技術科】 野本隆之

深部静脈血栓症超音波における骨盤腔内血栓簡易評価法の開発

【はじめに】深部静脈血栓症(以下DVT)は、静脈血栓塞栓症を引き起こす原因として近年注目されてきた。下肢DVTの検出感度は超音波検査が最も高いが、骨盤腔内静脈血栓(以下PDVT)の検出においては、消化管ガスの影響や圧迫法が使えないなどにより検出が困難といわれている。今回、大腿静脈血流(以下FVV)からPDVTを推測する方法を考え(以下:maxFVV簡易評価法)、更にその基準値についても設定したので報告する。

【対象】2007/6/1から2008/5/1までに、超音波でFVVを記録した370症例について検討した。検査者は下肢静脈超音波経験年数が1年～8年の5名で行った。

【方法】血管径の調節、サンプルボリュームの位置、折り返し周波数(PRF)、maxFVV導出法の4項目について設定し、個人間差を無くした。得られたFVVから、最大・最小値、左右差及びその割合について検討した。

【結果】集計結果より以下の基準値が得られ、これに該当する場合はPDVTを疑う。

- ① maxFVV 値:35.0cm/s 以下
- ② maxFVV 左右差:15.0cm/s 以上
- ③ maxFVV 左右差割合:25%以上

【考察】骨盤腔内静脈超音波(以下PVUS)は、下肢静脈以上に技術的難易度が高い。今回示したmaxFVV簡易評価法を用いることで、超音波技術が未熟であっても、簡単にPDVTの有無をスクリーニングすることが出来る。

【結語】maxFVV法の導入により、PVUSの実施が困難な症例であっても、効率よくPDVTを疑うことができ、効果的に検査を進めることが出来る。

12. 医事統計

新入院数(科別・月別)

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	リハビリ科	歯科口腔外科	健康管理課	合計		
平成20年	4月	88	111	10	38	96	17	81	38	78	1	164	13	109	54	16	2	5	23	901	
	5月	95	119	21	42	70	26	63	35	98	2	166	11	113	67	13	1	5	21	947	
	6月	110	95	15	52	77	29	70	43	90	2	159	8	131	55	15	1	3	36	955	
	7月	96	127	25	38	78	29	75	29	95	0	162	6	122	62	21	2	7	32	974	
	8月	97	104	16	30	85	30	77	36	98	1	141	14	129	74	22	3	12	28	969	
	9月	101	110	15	36	76	21	63	43	101	0	159	16	125	49	8	2	2	17	927	
	10月	115	113	16	48	84	25	80	36	93	0	173	10	144	60	14	0	7	17	1,018	
	11月	96	112	15	41	86	25	68	45	79	2	158	14	149	66	17	1	4	20	978	
	12月	93	107	21	73	66	23	65	41	84	4	169	10	121	76	18	2	4	23	977	
	平成21年	1月	119	97	19	28	75	38	69	35	100	0	143	16	142	69	20	0	4	21	974
		2月	82	101	14	20	73	34	67	33	73	2	159	16	127	78	8	0	4	31	891
		3月	101	117	19	36	79	31	98	34	86	1	170	13	148	73	16	0	4	18	1,026
合計	99	109	17	40	79	27	71	37	90	1	160	12	130	65	16	1	5	24	961		

救急車受入件数(科別・月別)

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	歯科口腔外科	合計		
平成20年	4月	71	12	21	8	25	1	88	60	1	0	35	3	33	13	18	1	390	
	5月	71	13	19	10	23	1	83	55	9	2	36	4	34	14	16	0	390	
	6月	85	15	18	10	17	1	65	50	10	0	31	3	26	10	20	0	361	
	7月	97	12	15	15	21	3	87	49	9	3	21	2	44	20	18	1	417	
	8月	105	9	24	9	21	2	75	57	8	2	25	3	51	19	21	0	431	
	9月	64	16	12	6	29	2	88	67	7	1	33	1	42	19	16	0	403	
	10月	86	19	20	10	23	0	69	71	9	2	28	2	40	12	19	0	410	
	11月	72	27	13	12	25	2	75	59	5	2	31	2	31	10	26	0	392	
	12月	109	15	29	20	24	1	97	63	1	4	32	2	63	12	19	0	491	
	平成21年	1月	82	6	8	19	19	0	83	47	7	2	34	5	53	11	30	0	406
		2月	69	14	19	15	23	0	61	45	3	1	32	4	43	10	11	2	352
		3月	69	15	13	10	23	2	87	53	2	1	31	0	42	14	21	2	385
平均	81.7	14.4	17.6	12.0	22.8	1.3	79.8	56.3	5.9	1.7	30.8	2.6	41.8	13.7	19.6	0.5	402.3		

救急車来院後入院率(科別・月別) 単位:%

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	歯科口腔外科	全科		
平成20年	4月	32.4	58.3	0.0	0.0	16.0	100.0	6.8	30.0	100.0	0.0	74.3	33.3	24.2	7.7	33.3	0.0	26.2	
	5月	35.2	69.2	0.0	10.0	13.0	0.0	9.6	23.6	55.6	50.0	63.9	100.0	52.9	50.0	18.8	0.0	30.8	
	6月	40.0	80.0	5.6	10.0	17.6	0.0	15.4	50.0	30.0	0.0	58.1	33.3	61.5	30.0	30.0	0.0	36.8	
	7月	37.1	66.7	6.7	33.3	33.3	0.0	17.2	36.7	44.4	0.0	57.1	100.0	31.8	25.0	16.7	0.0	31.2	
	8月	32.4	100.0	0.0	22.2	23.8	0.0	18.7	38.6	50.0	50.0	48.0	100.0	56.9	31.6	47.6	0.0	35.0	
	9月	37.5	75.0	100.0	16.7	13.8	50.0	10.2	41.8	0.0	0.0	51.5	100.0	40.5	21.1	6.3	0.0	32.5	
	10月	39.5	84.2	15.0	0.0	39.1	0.0	14.5	32.4	44.4	0.0	57.1	100.0	45.0	16.7	21.1	0.0	34.4	
	11月	33.3	74.1	0.0	16.7	36.0	0.0	13.3	33.9	40.0	50.0	61.3	100.0	32.3	10.0	46.2	0.0	33.7	
	12月	33.0	73.3	6.9	25.0	16.7	0.0	8.2	39.7	100.0	0.0	53.1	100.0	34.9	16.7	42.1	0.0	29.1	
	平成21年	1月	28.0	66.7	0.0	5.3	42.1	0.0	10.8	36.2	28.6	0.0	52.9	100.0	37.7	18.2	33.3	0.0	29.3
		2月	34.8	85.7	15.8	13.3	34.8	0.0	24.6	40.0	33.3	0.0	59.4	75.0	60.5	20.0	36.4	50.0	39.2
		3月	47.8	80.0	0.0	30.0	26.1	0.0	20.7	34.0	50.0	0.0	48.4	0.0	59.5	57.1	38.1	0.0	38.2
平均	35.9	76.1	12.5	15.2	26.0	12.5	14.2	36.4	48.0	12.5	57.1	78.5	44.8	25.3	30.8	4.2	33.0		

紹介患者数(科別・月別)(初診算定数)

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	リハビリ科	歯科口腔外科	放射線科	合計		
平成20年	4月	44	33	21	30	88	18	73	18	42	14	53	18	46	18	26	0	168	57	767	
	5月	67	37	26	33	101	16	74	24	42	15	45	8	47	43	18	0	141	41	778	
	6月	56	31	25	34	101	14	76	20	29	20	58	4	65	39	19	0	168	40	799	
	7月	48	36	26	25	91	19	79	16	33	27	39	9	68	28	27	0	150	40	761	
	8月	45	36	21	17	84	29	65	22	32	16	49	10	57	37	24	0	116	47	707	
	9月	40	42	20	33	90	19	66	24	30	13	42	12	62	33	21	0	167	30	744	
	10月	47	38	25	49	83	28	68	21	44	18	61	11	68	44	24	0	180	27	836	
	11月	32	36	24	40	77	20	65	19	30	12	56	11	54	30	31	0	126	25	688	
	12月	44	35	20	53	79	14	64	24	30	11	55	9	79	39	13	0	151	27	747	
	平成21年	1月	34	25	17	26	92	21	55	18	27	5	48	5	50	34	21	0	120	36	634
		2月	35	33	19	19	74	23	68	16	32	14	47	6	56	33	26	0	150	38	689
		3月	45	30	25	26	80	37	72	25	31	8	54	14	68	30	22	0	155	40	762
平均	45	34	22	32	87	22	69	21	34	14	51	10	60	34	23	0	149	37	743		

入院のべ患者数(科別・月別)

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	リハビリ科	歯科口腔外科	健康管理課	合計	1日平均	稼働率		
平成20年	4月	3,145	1,333	117	143	903	148	2,135	1,440	628	9	1,300	346	1,633	743	669	1,003	37	23	15,732	524.4	87.8	
	5月	3,209	1,388	226	206	747	179	2,204	1,288	880	11	1,379	286	1,497	658	711	1,017	26	21	15,712	506.8	84.9	
	6月	3,300	1,157	231	253	773	222	2,177	1,287	711	13	1,095	252	1,463	541	612	1,059	16	36	15,182	505.4	84.7	
	7月	3,757	1,369	285	180	783	204	2,000	1,257	709	0	990	284	1,702	562	660	1,140	32	32	15,894	512.7	85.9	
	8月	3,292	1,332	192	123	852	173	2,103	1,289	825	15	800	253	1,754	827	728	1,057	87	28	15,702	506.5	84.8	
	9月	3,139	1,355	175	143	760	137	1,995	1,255	848	30	911	409	1,624	698	513	1,029	30	17	15,051	501.7	84.0	
	10月	3,606	1,280	158	251	884	136	2,000	1,300	718	3	1,058	393	1,800	587	431	1,109	21	17	15,715	506.9	84.9	
	11月	3,400	1,270	115	220	843	137	1,977	1,232	653	31	1,279	355	2,028	609	495	1,023	4	20	15,671	522.4	87.5	
	12月	3,177	1,345	146	316	824	158	2,065	1,357	763	32	1,299	248	2,045	625	554	1,004	4	23	15,962	514.9	88.2	
	平成21年	1月	3,204	1,309	188	166	711	191	2,020	1,543	750	0	1,238	333	1,837	520	629	1,057	37	21	15,733	507.5	85.0
		2月	2,877	931	159	74	696	221	1,772	1,352	630	12	1,126	376	1,994	662	427	927	37	31	14,273	509.8	85.4
		3月	3,353	1,173	199	170	760	162	2,121	1,162	667	28	1,068	450	2,338	829	489	1,104	26	18	16,169	521.6	87.4
平均	3,288	1,269	183	187	793	175	2,047	1,315	715	15	1,130	332	1,810	655	577	1,044	30	24	15,565	511.7	85.7		

外来のべ患者数(科別・月別)

	内科	外科	美容形成外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	皮膚科	循環器科	心臓血管外科	消化器科	泌尿器科	神経内科	透析	歯科口腔外科	合計	1日平均		
平成20年	4月	7,547	1,982	1,231	1,450	4,129	2,246	7,161	1,173	2,376	2,259	3,599	352	4,238	2,412	1,196	1,822	952	46,105	1,844.2	
	5月	7,300	1,825	1,289	1,328	3,808	2,428	7,085	1,187	2,496	2,475	3,522	316	4,082	2,365	1,214	1,878	955	45,553	1,898.0	
	6月	7,110	1,873	1,334	1,463	3,628	2,411	7,021	1,118	2,584	2,600	3,440	331	4,322	2,358	1,286	1,728	946	45,577	1,823.1	
	7月	7,587	1,914	1,427	1,619	3,628	2,562	7,343	1,165	2,856	2,883	3,431	398	4,626	2,540	1,306	1,802	949	48,016	1,846.8	
	8月	7,284	1,696	1,404	1,347	3,354	2,507	7,223	1,080	2,692	2,689	3,392	370	4,391	2,299	1,385	1,767	864	45,744	1,759.4	
	9月	7,357	1,953	1,334	1,342	3,526	2,445	7,239	1,181	2,869	2,214	3,316	327	4,481	2,467	1,415	1,736	925	46,127	1,922.0	
	10月	8,147	2,066	1,370	1,679	3,827	2,524	7,207	1,262	3,108	2,411	3,919	366	5,020	2,652	1,388	1,849	1,040	49,835	1,916.7	
	11月	7,089	1,759	1,266	2,170	3,220	2,099	5,887	1,075	2,772	1,981	3,288	370	4,450	2,376	1,114	1,738	858	43,502	1,891.4	
	12月	8,226	2,007	1,288	2,530	3,749	2,530	6,296	1,284	2,756	2,030	3,810	339	5,371	2,589	1,268	1,861	921	48,835	1,953.4	
	平成21年	1月	8,095	1,792	1,166	1,529	3,546	2,195	5,622	1,110	2,369	1,957	3,339	353	4,567	2,394	1,142	1,902	758	43,858	1,906.9
		2月	7,175	1,783	1,215	1,385	3,634	2,202	5,585	1,031	2,482	1,783	3,365	328	4,457	2,288	1,126	1,610	830	42,279	1,838.2
		3月	7,548	2,029	1,318	1,644	4,000	2,461	6,183	1,172	2,722	1,976	3,522	393	4,875	2,400	1,234	1,777	944	46,198	1,847.9
平均	7,539	1,888	1,303	1,626	3,671	2,364	6,654	1,152	2,675	2,270	3,495	354	4,573	2,428	1,256	1,789	912	45,969	1,870.7		

科別入院患者数

		年月												
		20年										21年		
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	内科	104.8	103.5	110.0	121	106.2	104.6	116.3	113.3	102.5	103.4	102.8	108.2	108.1
	外科	44.4	44.8	38.6	44.2	43.0	45.2	40.6	42.3	43.4	42.2	33.3	37.8	41.7
	形成外科	3.9	7.3	7.7	9.2	6.2	5.8	5.1	3.8	4.7	6.1	5.7	6.4	6.0
	小児科	4.8	6.6	8.4	5.8	4.0	4.8	8.1	7.3	10.2	5.4	2.6	5.5	6.1
	耳鼻咽喉科	30.1	24.1	25.8	24.6	27.5	25.3	28.5	28.1	26.6	22.9	24.9	24.5	26.1
	眼科	4.9	5.8	7.4	6.6	5.6	4.6	4.4	4.6	5.1	6.2	7.9	6.2	5.8
	整形外科	71.2	71.1	72.6	64.5	67.8	66.5	64.5	65.9	66.6	65.2	63.3	68.4	67.3
	脳神経外科	48.0	41.5	42.9	40.5	41.6	41.8	41.9	41.1	43.8	49.8	48.3	38.1	43.3
	産婦人科	20.9	21.9	23.7	22.9	26.6	28.3	23.2	21.8	24.6	24.2	22.5	21.5	23.5
	皮膚科	0.3	0.4	0.4	0	0.5	1.0	0.1	1.0	1.0	0.0	0.4	0.9	0.5
	循環器科	43.3	44.5	36.5	31.9	25.8	30.4	34.1	42.6	41.9	39.9	40.2	35.1	37.2
	心臓血管外科	11.5	9.2	8.4	9.2	8.2	13.6	12.7	11.8	8.0	10.7	13.4	14.5	10.9
	消化器科	54.4	48.3	48.8	54.9	56.6	54.1	58.1	67.6	66.0	59.3	71.2	75.4	59.6
	泌尿器科	24.8	21.2	18.0	18.1	26.7	23.3	18.9	20.3	20.2	16.8	23.6	26.7	21.6
	神経内科	22.3	22.9	20.4	21.3	23.5	17.1	13.9	16.5	17.9	20.3	15.3	15.8	18.9
	リハビリ科	33.4	32.8	35.3	36.8	34.1	34.3	35.8	34.1	32.4	34.1	33.1	35.6	34.3
	口腔外科	1.2	0.8	0.5	1.0	2.8	1.0	0.7	0.1	0.1	1.2	1.3	0.8	1.0
	合計	524.4	506.8	505.4	513	506.5	501.7	506.9	522.4	514.9	507.5	509.8	521.6	511.7
	稼働率	87.8	84.9	84.7	85.9	84.8	84.0	84.9	87.5	86.2	85.0	85.4	87.4	85.7
紹介患者数	767	778	799	761	707	744	836	688	747	634	689	762	742.7	
救急搬送患者件数	390	390	361	417	431	403	410	392	491	406	352	385	402.3	
入院患者件数	901	947	955	974	969	927	1,018	978	977	974	891	1,026	961.4	
退院患者件数	952	965	923	992	978	899	1,014	991	1,099	845	935	976	964.1	
平均在院日数	14.1	13.7	13.4	13.6	13.2	14.0	13.0	13.8	13.3	15.0	13.4	14.1	13.7	
手術件数	全身麻酔	266	266	248	295	305	272	271	272	272	257	271	281	273.0
	血管造影【心カテ】	113	116	134	137	108	125	146	135	139	121	130	137	128.4
	血管造影【心カテ以外】	51	39	25	43	38	39	42	45	33	34	30	33	37.7
紹介率	23.9	22.2	22.2	23	21.9	23.4	24.1	26.2	26.1	22.5	23.9	26.1	23.8	

手術件数

2008年4月1日～2009年3月31日

9CM(2桁)	ICD9CM大分類	件数
86	皮膚および皮下組織の手術	580
13	水晶体の手術	390
60	前立腺および精嚢の手術	299
79	骨折および脱臼の修復術	275
53	ヘルニアの修復術	173
81	関節構造物の修復術および形成術	164
39	血管のその他の手術	154
47	虫垂の手術	146
78	顔面骨以外の骨のその他の手術	128
01	頭蓋骨、脳および髄膜の切開術と切除術	122
57	膀胱の手術	119
74	帝王切開術および胎児摘出術	113
51	胆嚢および胆道の手術	108
22	副鼻腔の手術	107
68	その他の子宮切開術および切除術	95
80	関節構造物の切開術および切除術	80
28	口蓋扁桃およびアデノイドの手術	76
54	腹部のその他の手術	75
45	腸の切開術、切除術および吻合術	72
56	尿管の手術	65
38	血管の切開術、切除術および閉塞術	63
30	咽頭の切開術	58
08	眼瞼の手術	54
36	血管の手術	54
83	手以外の筋、腱、筋膜および滑液包の手術	54
85	乳房の手術	54
14	網膜、脈絡膜、硝子体および後房の手術	53
76	顔面の骨および関節の手術	49
02	頭蓋骨、脳および髄膜のその他の手術	48
21	鼻の手術	46
43	胃の切開術および切除術	46
32	肺および気管支の切除術	43
65	卵巣の手術	43
55	腎臓の手術	40
77	その他の骨の切開術、切除術および切離術	38
82	手の筋、腱および筋膜の手術	32
35	心臓の弁および中隔の手術	31
26	唾液腺および唾液(腺)管の手術	30
70	膣およびダグラス窩の手術	29
49	肛門の手術	27
48	直腸、直腸S状結腸および直腸周囲組織の手術	26
06	甲状腺および副甲状腺の手術	25
46	腸のその他の手術	25
19	中耳の再建術	24
40	リンパ系の手術	23
20	中耳および内耳のその他の手術	19
27	口および顔面のその他の手術	19
67	子宮頸部の手術	19
04	脳神経および末梢神経の手術	18
34	胸壁、肺膜、縦隔および横隔膜の手術	15
62	精巣の手術	14

手術件数

2008年4月1日～2009年3月31日

9CM(2桁)	ICD9CM大分類	件数
18	外耳の手術	12
29	咽頭の手術	11
44	胃のその他の手術	11
64	陰茎の手術	11
25	舌の手術	9
66	卵管の手術	9
84	筋骨格系のその他の処置	9
07	その他の内分泌腺の手術	8
52	隣臓の手術	8
37	心および心膜のその他の手術	7
42	食道の手術	7
69	子宮および支持組織のその他の手術	7
71	外陰および会陰の手術	7
50	肝臓の手術	6
31	咽頭および気管のその他の手術	5
58	尿道の手術	5
93	理学療法、呼吸療法、リハビリテーション、および関連処置	5
03	脊髄および脊柱管構造物の手術	4
11	角膜の手術	3
23	抜歯術および歯の修復術	3
97	治療装具の交換術および除去術	3
12	虹彩、毛様体、強膜および前眼房の手術	2
59	尿路系のその他の手術	2
61	陰嚢および精巣鞘膜の手術	2
98	異物または結石の非手術的な除去術	2
99	その他の非手術的な処置	2
16	眼窩および眼球の手術	1
24	歯、歯肉および歯槽のその他の手術	1
41	骨髄および脾臓の手術	1
	総計	4623

平成20年度 科別主要手術件数

科別	主手術名	件数
外科	鼠径ヘルニア手術	131
	虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	94
	虫垂切除術	40
	胆嚢摘出術	37
	腹腔鏡下胆のう摘出術	28
眼科	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)	386
	増殖性硝子体網膜症手術+水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)	19
	増殖性硝子体網膜症手術	10
	硝子体茎頭微鏡下離断術(網膜付着組織を含む),水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)	9
	網膜復位術	8
整形外科	骨接合[観血的][内固定を伴う][その他]	59
	骨接合[観血的][内固定を伴う][大腿骨]	40
	人工関節置換術(股)	33
	半月板切除術(関節鏡下)	29
	骨内異物(挿入物)除去術(下腿)<挿入物>	26
泌尿器科	前立腺生検	208
	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)	71
	経尿道的尿管結石摘出(透視下にバスケットワイヤーカテーテル使用)	61
	TUR-P	49
	前立腺全摘除	32
形成外科	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	189
	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm以上6cm未満)	74
	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	38
	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	25
	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径4cm以上)	20
歯科口腔外科	下顎骨形成術(短縮)	6
	下顎骨骨折観血的整復固定	5
	顎骨腫瘍摘出術(長径3cm以上)	3
	抜歯手術(埋伏歯)	3
	皮下異物除去[切開を伴う]	2
産婦人科	単純子宮全摘出[腹式]	62
	反復帝王切開	54
	選択的帝王切開	26
	子宮脱手術(腔壁形成手術及び子宮全摘術)(腔式、腹式)<腔式>	24
	帝王切開術(緊急帝王切開)	20
耳鼻咽喉科	汎副鼻腔根本手術	55
	口蓋扁桃手術(摘出)	48
	喉頭腫瘍摘出術(直達鏡)	21
	リンパ節生検	15
	鼓室形成手術	15
心臓血管外科	内シャント設置術	90
	冠動脈、大動脈バイパス移植術(2吻合以上)	30
	大動脈弁置換	13
	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺不使用)(2吻合以上)	10
脳神経外科	穿頭血腫除去	50
	頭蓋内腫瘍摘出術(その他)	28
	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	27
	水頭症手術(シャント手術)<VPシャント>	14
	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内)	11
神経内科	筋生検	1

13. 病院行事



平成20年度の出来事



4・5月

- ①平成20年度入職式
- ②看護の日
- ③クリーンデー
- ④消火訓練

①



②



④



9・10月

- ①CMS学会
- ②上尾市屋内消火栓大会
- ③ISO更新審査
- ④第44回AMG大運動会
- ⑤第12回クリニカルパス大会

②



③



④



11・12月

- ①院内旅行
- ②開院記念
- ③防災訓練
- ④キャンドルサービス
- ⑤クリスマス会(くたかけ)

②



③



④



1・2・3月

- ①年頭朝礼
- ②プライバシーマーク更新審査
- ③AMGバレーボール大会
- ④学術業績研究会

⑤市民公開講座

①



③



⑤



平成20年度すこやか教室

月	テーマ	所属	講師	参加人数
平成20年4月	腰痛教室	リハビリテーション技術科	吉田・足立・田中	53
平成20年5月	乳がんについて	外科	飯塚美香	15
平成20年6月	下肢静脈瘤の症状と治療法	心臓血管外科	外山聡彦	100
平成20年7月	胃潰瘍について	消化器科	土屋昭彦	40
平成20年8月	皮膚科に関する疑問質問について	皮膚科	浦博伸	20
平成20年9月	骨粗鬆症と転倒予防	整形外科	岩井俊也	40
平成20年10月	医療用放射線による人体への影響	放射線技術科	佐々木健	15
平成20年11月	特定検診(メタボ健診)～その定義と対処法～	内科	橋本佳明	15
平成20年12月	狭心症・心筋梗塞治療の最前線	循環器科	齋藤雅彦	48
平成21年1月	病態から見る白内障と緑内障	眼科	高草木伸子	36
平成21年2月	認知症について	神経内科	徳永恵子	120
平成21年3月	前立腺がんについて	泌尿器科	佐藤聡	50

合計人数

552



14. バレー部活動報告書



上尾メディックス（女子バレーボールチーム）は、今年で創部 8 年目を迎えました。

今シーズンより V・チャレンジリーグも 2 チーム増え、10 チームによる 2 回戦総当たりの全 18 試合が行われました。昨シーズンより試合数も増え過酷な日程でのチャレンジリーグ 3 シーズン目、昨シーズン 3 位の成績を上回り、優勝そしてチャレンジマッチ出場を目標に「頂点へ再チャレンジ」を合言葉に取り組んで来ました。昨シーズンと同様に攻撃面の強化として、外国人選手（ドミニカ共和国ナショナルチーム所属のマンブル・アルタグラシア選手）を獲得して、攻撃的な全員バレーに磨きをかけチーム一丸となって臨みました。

2008/09 シーズンも、最終週まで優勝の行方が分らないほど混戦となり、上位チームの力の差は例年以上に拮抗していました。チームとしては、昨シーズンよりも攻撃的なバレーを展開できたのですが、大事な試合を落とし成績は 14 勝 4 敗と、勝率では昨シーズンを上回りましたが、2 位のチームとはセット率の差で及ばず、昨シーズンと同じ 3 位という結果でした。初戦黒星からのスタートで、中盤から後半へ一敗も出来ない苦しい状況の中、最終週まで優勝争いに踏みとどまれた事は、成長へと繋がったと思います。

今季で得た経験を生かし、新たな目標へ向かって努力し、今後もより一層地域の皆様から愛されるチームへと進化していきたいと思ひます。

皆様応援宜しくお願致します。

メディックス年間スケジュール

日/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1		VS 久光製薬						プレミアリーグ 視察			VS 健祥会	VS GSS
2		VS NEC								年末年始 強化合宿		
3		VS 富士			埼玉総体視察				全日本インカ 視察			
4							第1回 アジアカップ 女子大会					
5	ハレホール 教室			サマーリーグ 埼玉県 蓮田市			中尾巴美 選手 藤本幹朗 コーチ 代表選出				チャレンジリーグ 第5週 徳島大会	
6					国体強化 東北遠征合宿	東海遠征合宿						チャレンジリーグ 第8週 石川大会
7										チャレンジリーグ 第1週 愛知大会	VS フォレスト熊本	
8					ハイオニア 合宿			東北学連 招待合宿			VS 四国88	VS 柏エンゼル
9										VS KUROBE		VS 三洋電機
10										VS 柏エンゼル		
11									西日本 学生選抜 東西対抗 事前合宿			
12								イギリス ナショナルチーム 合宿(来)				
13	AMG学会	ドミニカ共和国 ナショナルチーム 北京五輪 最終予選 事前キャンプ							プレミアリーグ 視察			
14								ハレホール 教室		チャレンジリーグ 第2週 秋田大会	コンデイング 合宿	コンデイング 合宿
15												
16							NEC 招待試合	院内旅行		VS 四国88		
17										VS 大野石油		
18							移動日 (神奈川県)		天皇杯 皇后杯 セミアイナル ラウンド			
19	チャレンジリーグ 表彰式						天皇杯 関東予選				チャレンジリーグ 第6週 埼玉上尾 大会	チャレンジリーグ 第9週 埼玉上尾 大会
20												
21			関東 6人制大会 東京都 小平市							チャレンジリーグ 第3週 千葉流山 大会	VS KUROBE	VS PFU
22					移動日 (山梨県)	東北学連 招待合宿					VS フォレスト熊本	VS 健祥会
23				練習ゲーム	関東ブロック 国体予選			東北学連 招待合宿		VS 三洋電機		
24		東北遠征 合宿								VS GSS		
25												
26				練習ゲーム								チャレンジリーグ 第7週 千葉柏大会
27									喜楽カップ 運営補助			
28						練習ゲーム					VS 大野石油	
29	移動日(大阪)											
30	黒鷲旗								年末年始 強化合宿	チャレンジリーグ 第4週 福岡大会		
31										VS PFU		



AGEO MEDICS メンバー紹介

MEMBER

①ポジション/身長 ②コートネーム ③出身地 ④所属部署



キャプテン

#7 中尾 巴美

なかお ともみ

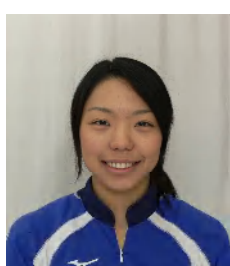
- ①センター/174
- ②カイ ③宮崎県
- ④巡回健診課



#2 緒方 麻美

おがた あさみ

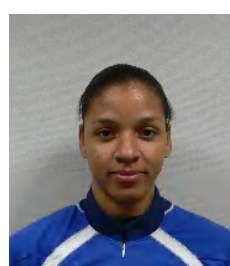
- ①セッター/167
- ②レナ ③熊本県
- ④総務課



#3 白田 博子

はくた ひろこ

- ①サイドアタッカー/169
- ②ヒロ ③長野県
- ④臨床工学科



#4 マブル アキヤマ

- ①サイドアタッカー/180
- ②マンブル ③ドミニカ
- ④総務課



#5 関根 和子

せきね かずこ

- ①レフト/168
- ②カズ ③福島県
- ④薬剤部



#6 斎木 美香

さいき みか

- ①センター/178
- ②ケイ ③熊本県
- ④巡回健診課



#8 川村 彩葉

かわむら あやな

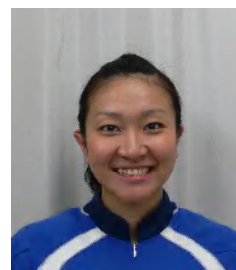
- ①セッター/164
- ②アヤ ③静岡県
- ④救急初療室看護科



#9 加藤 雅子

かとう まさこ

- ①サイドアタッカー/170
- ②マサ ③青森県
- ④10A 病棟看護科



#10 平安座 あきな

へんざ あきな

- ①レシーバー/163
- ②タケ ③沖縄県
- ④文書管理課



#11 福田 みつ子

ふくだ みつこ

- ①センター/177
- ②ミサ ③長崎県
- ④健康管理課



#12 和田 絵美子

わだ えみこ

- ①レフト/168
- ②カナ ③熊本県
- ④外来医事課



#15 富永 真美

とみなが まみ

- ①ライト/178
- ②ラン ③福岡県
- ④医療情報管理課



#16 関 舞

せき まい

- ①リベロ/155
- ②マイ ③東京都
- ④総務課



STAFF



【部長】
斉藤 雅彦
さいとう まさひろ



【副部長】
肥留川 正弘
ひるかわ まさひろ



【副部長】
大塚 武司
おおつか たけし



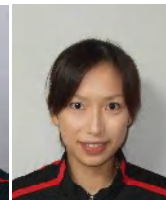
【監督】
高野 圭介
たかの けいすけ



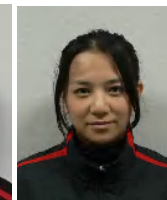
【コーチ】
藤本 幹朗
ふじもと みきお



【マネージャー】
加藤 純功
かとう じゅんこう



【トレーナー】
高野 早苗
たかの さなえ



【通訳】
小山 由佳
こやま ゆか



【通訳】
日下 智志
くさか さとし

平成 20 年度 試合結果

第 57 回 黒鷲旗 全日本男女選抜バレーボール大会

日 付	対 戦	結 果
5月1日	久光製薬スプリングス	0(19-25,20-25,21-25)3
5月2日	NEC レッドロケッツ	0(16-25,15-25,22-25)3
5月3日	武富士バンブー	0(16-25, 15-25,11-25)3

結果:予選リーグ敗退

平成 20 年度 関東 6 人制バレーボール実業団選抜男女選手権大会

日 付	対 戦	結 果
6月21日	三菱東京 UFJ 銀行	2(25-22,26-24)0
	グリーンサポートシステムズ	2(25-16,33-31)0
6月22日	柏エンゼルクロス	2(25-14,25-18)0

結果:優勝

2008 V・サマーリーグ 東部女子一次リーグ

日 付	対 戦	結 果
7月4日	武富士バンブー	0(12-25,21-25)2
	NEC レッドロケッツ	0(23-25,23-25)2
7月5日	柏エンゼルクロス	0(16-25,21-25)2
	栗山米菓 B.B.Stars	2(25-20,25-14)0
7月6日	PFU ブルーキャッツ	2(25-21,25-17)0
	柏エンゼルクロス	2(19-25,25-22,25-20)1

結果:5位(3勝3敗)

第 63 回 国体バレーボール競技成年 6 人制男女関東ブロック予選

日 付	対 戦	結 果
8月23日	神奈川県(松蔭大学)	2(25-14,25-20)0
	東京都(NEC レッドロケッツ)	1(23-25,25-18,21-25)2

結果:予選敗退

平成 20 年度 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権関東ブロックラウンド

日 付	対 戦	結 果
10月19日	松蔭大学	2(25-23,26-28,25-19)1
10月19日	グリーンサポートシステムズ	2(25-16,25-16)0

結果:関東 A 代表確定

平成 20 年度 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権 セミファイナルラウンド

日 付	対 戦	結 果
12月19日	日立佐和リヴァーレ	1(20-25,23-25,25-21,16-25)3

セミファイナルラウンド敗退

2008/09 V・チャレンジリーグ女子大会

日 付	開催地	対 戦	結 果
1月10日	第1週	KUROBE アクアフェアリーズ	0(20-25,21-25,26-28)3
1月11日	愛 知	柏エンゼルクロス	3(25-22,25-14,25-9)0
1月17日	第2週	四国 Eighty8Queen	3(26-24,26-24,25-23,)0
1月18日	秋 田	大野石油オイラーズ	3(27-25,25-18,25-19)0
1月24日	第3週	三洋電機レッドソア	1(25-22,21-25,18-25,15-25)3
1月25日	千 葉	GSS サンビームス	3(16-25,25-17,28-26,25-22)1
1月31日	第4週	PFU ブルーキャッツ	3(25-13,35-37,25-19,24-26,15-12)2
2月1日	福 岡	健祥会レッドハーツ	0(22-25,19-25,26-28)3
2月7日	第5週	フォレストリーヴズ熊本	3(25-14,25-13,25-12)0
2月8日	徳 島	四国 Eighty8Queen	3(25-22,25-17,24-26,26-24)1
2月21日	第6週	KUROBE アクアフェアリーズ	3(25-11,25-13,20-25,15-25,18-16)2
2月22日	埼 玉	フォレストリーヴズ熊本	3(25-12,25-18,25-11)0
2月28日	第7週	大野石油オイラーズ	3(25-23,22-25,21-25,28-26,18-16)2
3月1日	千 葉	GSS サンビームス	3(25-21,25-15,25-10)0
3月7日	第8週	柏エンゼルクロス	3(25-17,25-18,25-10)0
3月8日	石 川	三洋電機レッドソア	3(25-17,26-24,26-24)0
3月21日	第9週	PFU ブルーキャッツ	1(25-23,24-26,18-25,25-27)3
3月22日	埼 玉	健祥会レッドハーツ	3(25-23,25-21,16-25,25-18)1

結果:3位(14勝4敗)

2008/09チャレンジリーグ写真館



センターとしては小柄ながら、スピードとキレのあるスパイクを打ち込む中尾選手



レシーブ、トス、スパイクとチームNo.1の技術力が光った白田選手



圧倒的な高さとパワーを見せつけ、得点王とスパイク賞を獲得したマンブル選手



上尾のスピードバレーを巧みに操る緒方選手



3月21日 上尾メディックス一色に染まった上尾市民体育館でのホームゲーム



2月21日 上尾大会 KUROBE戦、勝利の瞬間



スパイク、ブロックと上尾の攻撃の中心選手
今季はブロック賞を受賞した福田選手



献身的なレシーブで攻撃型バレーを支える関選手



試合前のキッズエスコートではバレー教室の生徒達と再会する場面も



精神的支柱としてチームを引っ張るベテラン関根選手



今季は選手層も一層厚くなり、チームの総合力もUP

左：スパイクを放つ加藤選手

右：ワンポイントブロックで登場の斎木選手



上尾プリマヴェーラのハーフタイムショー（2月21日 上尾大会）
息の合った明るい演技で会場を沸かせました



2008/09 チャレンジリーグ閉会式・個人表彰

3月22日の地元上尾/上尾市民体育館で開催されたV・チャレンジリーグ最終戦後に閉会式が行われました。上尾メディックスは14勝4敗、最終戦には勝利したものの、セット率の差で惜しくも昨年と同様の3位となりました。

また、個人賞では今年度もドミニカ共和国から来日したマンブル選手が、得点王とスパイク賞の二冠を獲得し、福田選手がブロック賞を初受賞しました。



二冠を獲得したマンブル選手 ブロック賞を獲得した福田選手

マンブル選手はアタック決定率48.9%（1位）、最多得点443得点（1位）、1セットあたりのアタック決定本数の平均が5.92得点（1位）と素晴らしい活躍をみせてくれました。

アタック決定率のランキングではマンブル選手に続いて、中尾選手（3位 決定率45.3%）、福田選手（8位 決定率41.4%）と上位に上尾メディックスの選手がランクインし、チーム別のアタック決定率は40.2%でチャレンジリーグ1位と決定力の高さを見せ付けてくれました。

ブロック部門では福田選手が初受賞。シーズン前から強化していたブロックが光り、福田選手に続いて中尾選手（12位）、マンブル選手が15位、昨年5位だったチーム別ブロック決定本数も3位となりました。

『福田選手からのコメント：練習通りに出来ました。練習に最後まで付き合ってくれた監督、コーチのお陰です。』

また受賞こそは逃しましたが、昨年新人賞を獲得した関選手がサーブレシーブ成功率で数%の差で惜しくも3位となりました。

その他の活動

第 43 回 AMG 学会にて～上尾メディックス紹介～

4月13日 上尾文化センターで行われました、第43回 AMG 学会にて上尾メディックスが、グループ病院・施設へ紹介されました。

壇上では高野監督による挨拶と、北は青森、南は沖縄と各地方から集められた選手の紹介が行われ、選手達からは今年度へ掛ける熱い決意表明が行われました。



壇上で決意表明をする日本各地から集められた選手達

ドミニカ共和国ナショナルチーム 北京オリンピック最終予選事前キャンプ

5月、ドミニカ共和国のナショナルチームが、北京オリンピック最終予選前の事前キャンプを行いました。

今回でドミニカ共和国の事前キャンプは三回目となり、惜しくも北京オリンピック出場は逃しましたが、07/08シーズンに上尾メディックスで大活躍したシゲルカ選手も出場し、最終予選では素晴らしい活躍を見せてくれました。



第 63 回 大分国体 関東ブロック予選

8月23日に山梨県で行われました国体関東ブロック予選へ、上尾メディックスが埼玉県代表として出場しました。

一回戦では神奈川（松蔭大学）と対戦しストレートで勝利し、次の準決勝で東京都（NEC レッドロケッツ）と対戦しました。プレミアリーグのチームをあと一步の所まで追い詰めましたが、最後は力の差を見せ付けられ、セットカウント 1-2 で敗れ本戦出場はなりませんでした。

中尾巴美選手・藤本幹朗コーチが全日本代表選出！

～ 第 1 回アジアカップ女子大会出場～

上尾メディックスより中尾選手、藤本コーチが、全日本代表として2008年10月1日～7日11にタイで行われました、第1回アジアカップ女子大会へ出場しました。

地域リーグ時代から7年間、メディックスを支えてきた中尾選手。身長は174センチとバレーボール選手としては決して高くはありませんが、07/08Vチャレンジリーグではスピードとキレのあるスパイクを武器に、日本人トップのアタック決定率でチームを引っ張りました。その活躍が認められ、プレミアリーグ未経験ながら日本代表に初めて選ばれました。



中村会長との2ショット

上尾市バレーボール教室

毎年恒例となりました、上尾市の小中学生を対象としたバレーボール教室を、4月と11月に行いました。午前の部では、レシーブ・トスパイク等の基礎練習を行い、午後の部では、上尾メディックスの選手が監督となって、子ども達に直接バレーボールを指導したり、メディックスの選手達が中学生チームと対戦するチャレンジマッチを行いました。

2008/09 V・チャレンジリーグでは、バレーボール教室に参加した生徒達とキッズエスコートで再会するという場面もありました。



左：生徒達を指導する高野監督



右：直接指導する福田選手と川村選手



左：練習ゲームで指導する平安座選手



右：キッズの選手達と緒方選手

NEC レッドロケッツ プレミアリーグ壮行会

11月、V・プレミアリーグのNECレッドロケッツより招待され、神奈川県川崎市NEC玉川事業所内にあります体育館で、招待試合が行われました。試合は勝敗に関係なく3セット行われ、上尾メディックスは開幕目前のNECレッドロケッツから1セットを奪うなど、チャレンジリーグ開幕前に手ごたえをつかむことが出来ました。



中尾巴美選手 埼玉県警 通信指令課長就任！

1月7日、「110番の日」キャンペーンが行われ、中尾巴美選手が1日埼玉県警 通信指令課長を務めました。制服姿で県警本部の通信司令室業務を行い、振り込め詐欺の犯人が逃走中という想定で、無線による緊急配備を体験しました。



上尾メディックス全選手サイン応援はっぴ販売

3月22日上尾メディックスホームゲーム最終戦にて、上尾メディックス全選手サイン入り応援はっぴを15セット販売したところ、全て完売してしまい、メディックスの人気の高さが伺えました。

応援はっぴの売上げ45,000円と、ファンの方から一緒に寄付して欲しいと頂いた2,000円、合計47,000円を骨髄移植推進財団へ寄付しました。



編集後記

昨年度からの変更内容は、各診療科の総括を掲載したこと、各部門の管理表を載せず文章化したことが挙げられます。また、医事統計のグラフおよびデータは掲載せず、各診療科・部門でそれぞれ活用して頂きました。ご協力いただきました編集委員および各方面の皆様方、本当にお疲れ様でした。来年度もより良い年報を作成できるよう努力していきたいと考えております。(T.T)

年報作成に携わって3年目、編集長を中心に今年にはさらに充実した内容の年報が作成できたと自負しています。また、編集長をはじめ私以外の委員の皆様には、仕事で忙しい中での作業に敬意を表します。お疲れ様でした。(T.O)

昨年は、初めてメンバーとして参加させていただきました。かなりプレッシャーを感じながら、緊張しながら作成に携わっていました。今年は各部署長も昨年の経験があり、私自身あまり関わらなくても年報作成にスムーズに参加されていたのでホッとしています。年報作成に関わったチームの皆様の頑張りにより良い年報が出来上がったのではないかと実感しています。お疲れ様でした。(Y.K)

今回初めてメンバーとして参加させていただきました。所属している部署以外のことを知ることができ、とても勉強になりました。昨年よりもいいものを作りたいという皆さんの熱意が伝わり、昨年以上の年報になっていると思います。年報作成に関わった皆様本当にお疲れ様でした。(S.O)

今回も年報作成の編集メンバーとして、良い経験をさせていただきましたこと感謝致しております。教育研究実績の編集を担当させていただきましたが、日頃の学術教育面の実績の数々を、こうして紙面上に形にすることができ、大変喜ばしいことと感じております。ご協力いただいた皆様、そして編集メンバーの皆様、本当にありがとうございました。(K.Y)

平成 18 年度の初版から年報作成に携わっておりますが、年々メンバーの層が厚くなっており、昨年度以上の年報が作成できたのではないかと思います。各種統計・病院行事についてお読み頂いた方々に少しでもお伝えできればと思います。メンバーのみなさま本当にお疲れ様でした。(T.A)

初めて年報作成メンバーとして参加させて頂き、大変よい経験をさせていただきました。至らぬ点も多くあったと思いますが多くの方にご協力いただき、無事に仕上がりに嬉しく思います。年報作成に関わった皆様、お疲れ様でした。(M.Y)

昨年に続き、今回で 2 回目の担当をさせていただきました。昨年同様貴重な体験をさせていただきました。昨年の年報より内容的にも充実したものができたと思います。忙しい中、協力をいただいた皆様・プロジェクトメンバーの皆様、本当にお疲れ様でした。また来年……。(H.N)

例年キックオフの際は、今年も大変な思いをしなければならないと憂鬱な気分になりますが、完成するとやはり作成に関わってよかったと思えます。来年はこの感動を誰かに譲りたいと思います。(M.K)

初の年報作成を経験しまして、戸惑い等ありましたが、なんとか作成、見直し等できました。今年度は総括、展望等を加えまして、さらに充実した内容となったと思います。関係各科の皆様には大変感謝しております。また、編集メンバーの皆様、お疲れ様でした。(K.N)

昨年度作成した年報を基に記載項目を追加し、今年度の年報は更に完成度が高いものを作成できたと自負しております。関係各科の方々には多大なご協力を戴きありがとうございました。今後も更に改良を加えて完成度を高め、地域にアピールできる年報作成をしていきたいと思っております。(M.I)

今年も頑張りました。今年度は年報自体が早く完成しました。ひとえに各所属長のご協力の賜物だと考えております。また、途中まで一緒に作成していた、放射線技術科の M.I 氏に大変感謝しております。今年も、もっと CI が病院運営の指標となること、職員皆様のご多幸とご健勝をお祈りしつつ、プレミアム〇ルツで乾杯。(K.T)